

2020年度

教 育 要 項

(教 養 教 育)

第 1 学 年

奈良県立医科大学
医学科

学籍番号

氏名

目 次

理念・ポリシー	3
教育アウトカム	5
奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領	13
別表 1. 教養教育授業科目表	18
別表 2-1. 基礎医学Ⅰ専門教育授業科目表	19
別表 2-2. 基礎医学Ⅱ専門教育授業科目表	20
別表 3. 臨床医学教育授業科目表	21
別表 4. 臨床実習科目表	22
臨床実習実施要領	23
別表 5. 6年一貫教育授業科目表	24
奈良県立医科大学医学部公欠規程	27
試験に関する諸注意	31
暴風警報発令時における授業の措置について	32
地震発生等災害時における授業の措置について	33
出席確認端末 (Early Bird) について	34
健康管理	35
2020年度 第1学年 授業時間割表	36
授業科目紹介 (教養教育)	
基礎物理学Ⅰ	38
基礎物理学Ⅱ	40
基礎物理学Ⅲ	42
基礎物理学演習	44
基礎物理学実験	46
分析化学	48
有機化学	50
生体分子化学	52
医用材料化学	54
基礎化学実験	56
生命科学概論	58
分子生物学	61
基礎生物学	63
基礎生物学実験	67
数学Ⅰ	69
数学Ⅱ	73
数学Ⅰ演習	77

生物統計学	81
医療情報学	83
スポーツ実践Ⅰ	85
スポーツ実践Ⅱ	87
健康科学	89
Academic EnglishⅠ	91
Academic EnglishⅡ	94
医療に関わる倫理学Ⅰ	97
医療に関わる倫理学Ⅱ	99
哲学	101
アジア文化論	103
西洋文化論	105
教育実践論	107
臨床心理学	111
社会福祉と医療法規	117
市民と法	118
行動科学Ⅰ	120
医学研究入門	122
医学・医療入門講義	124
臨床手技実習入門Ⅰ	126
次世代医療人育成論	127
奈良学	128
早期医療体験実習	129
コンソーシアム実習	130
緊急医師確保枠学生地域医療特別実習Ⅰ	131
地域基盤型医療教育コース	133
研究医養成コース	134
公立大学法人奈良県立医科大学料金規程(抄)／授業料の納入方法	135
2020年度医学科学事計画【教養】	136

奈良県立医科大学の「建学の精神」

最高の医学と最善の医療をもって地域の安心と社会の発展に貢献します。

奈良県立医科大学の理念

本学は、医学、看護学およびこれらの関連領域で活躍できる人材を育成するとともに、国際的に通用する高度の研究と医療を通じて、医学および看護学の発展を図り、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与することを理念とする。

奈良県立医科大学教育分野の理念と方針

理念 豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指します。

- 方針**
1. 良き医療人育成プログラムの実践
 2. 教員の教育能力開発と教育の質保証
 3. 教育全般に関する外部有識者評価と学生参加の推進
 4. 学習環境と教育環境の充実

教育目標

奈良県立医科大学は、将来、研究・医療・保健活動を通じて地域社会に貢献し、より広く人類の福祉と医学の発展に寄与できる人材を育成するため、医学・医療に関する基本的な知識、技術、態度・習慣を体得し、独創性と豊かな人間性を涵養し、あわせて生涯学習の基礎をつくることを教育の目標とする。

アドミッションポリシー

1. 医師となる自覚が強く、人を思いやる心をもつ、人間性豊かな人
2. 患者安全の観点から患者が安心して受診できる医師となれる人
3. 将来性豊かで、奈良県だけでなく日本、世界の医学界をリードできる人

カリキュラムポリシー

1. 倫理観とプロフェッショナリズムの育成、コミュニケーション教育
教養教育では、自律心の向上と倫理学教育に重点を置く。プロフェッショナリズム、コミュニケーション教育に資するため、早期から、高齢者や乳幼児、障害者の施設を見学する機会を持ち、現場で人間的触れ合いを通じて知識だけでなく実践的な医療倫理的素養を培うカリキュラムを配置する。
2. 医学、医療とこれらに関連する領域の知識、技能、態度の習得
医学の基盤となる知識を早期から段階的に積み上げていく教育カリキュラムを配置する。
 - ① 教養教育では語学や自然科学の基本を習得し、生命科学を学ぶための基盤を作り上げるカリキュラムを配置する。
 - ② 基礎医学では、医学の根幹となる解剖学、生理学、生化学を学び、さらに、発展的な基礎医学知識を獲得できるように段階的なカリキュラムを配置する。
 - ③ 臨床医学では、広範な知識と基本的臨床技能を習得できるようなカリキュラムを配置する。知識、態度が共用試験（CBT、Pre-CC OSCE）による全国共通試験でも確認された後に、Student Doctorとして臨床実習に参加させる。

- ④ 臨床実習では、診療参加の実態を確保し、医療面接と診療技法を中心に実践的な教育を行う。また、臨床実習の終了時点でPost-CC OSCEを実施し、得られた臨床技能、態度の確認を行う。

3. 国際的な視野と科学的探究心の育成

すべての学生に、研究マインドを涵養するべく、リサーチ・クラークシップを実施する。関心の高い学生には、早期から生命科学系の研究に参加できるように、6年一貫の「研究医養成コース」を設けている。海外での実習の機会も設ける。

4. 医療を通じた地域社会への貢献

医療システムについての理解を深めることはもちろんであるが、大学内のみならず、奈良県を中心に地域社会、地域医療と関わりを持つ実体験を通じて、奈良の医療を良くしたいという意欲を高める体験型の教育を行っていく。このための6年一貫の「地域基盤型医療教育コース」を設ける。

ディプロマポリシー

所定の期間在学し、カリキュラムポリシーに沿って設定した授業科目を履修し、履修規程で定められた卒業に必要な単位と時間数を修得することが学位授与の要件である。卒業時には以下の能力が求められる。

1. 生命の尊厳と患者の権利を擁護できる高い倫理観とプロフェッショナリズムを身につけている。
2. 医学とそれに関連する領域の正しい知識を身につけている。
3. 医療を適切に実践できる知識、技能、態度を身につけている。
4. 良好な医療コミュニケーション能力を身につけている。
5. 医学、医療、保健を通じて地域社会へ貢献する意欲と能力を身につけている。
6. 国際的な視野と科学的探究心を身につけている。

基本的知識

1. 人間関係、人間行動及び人間と環境の相互関係に関する知識
2. 医学に関係する学問全般にわたる幅広い基本的知識並びに国際化に対応できる語学力
3. 人間の精神活動、身体の構造・機能及びライフサイクルに関する知識
4. 疾病の病因・病理・病態生理に関する基礎的知識並びに主要症状・経過・治療に関する臨床的知識
5. 保健・医療の社会的・行政的機構に関する知識

基本的技術

1. 面接・問診・診察の技術
2. 主要臨床検査について理論と方法を理解し、成績を判定する能力
3. 診察・臨床検査から得られる情報を整理分析し、患者のもつ問題を解決する能力
4. 頻度の高い疾患の診察、基本的な治療・応急処置・救急治療のできる能力
5. 研究が医学に果たす役割の重要性の理解と基本的研究技術

基本的態度・習慣

1. 医学・医療を全人的包括的にとらえ、自然科学としてだけでなく、精神的・社会的問題との関係を含めて総合的に考える広い視野
2. 患者の立場を尊重して、温かく誠実な患者・医師関係をつくれる豊かな人間性と医師としての指導性
3. 関連の医療・保健従事者及び他の医療施設・研究機関と協力できる謙虚さ、責任感、協調性
4. 卒業後も生涯学習と自己評価を続け、医学の急速な進歩と医療をめぐる社会環境の変化に対応できる能力
5. 高い倫理観に基づく医師としての社会的使命・責任の自覚

奈良県立医科大学医学部医学科卒業時のアウトカム

I. 倫理観とプロフェッショナリズム

学生は、卒業時に

患者、患者家族、医療チームメンバーを尊重し、責任をもって医療を実践するためのプロフェッショナルリズム（態度、考え方、倫理感など）を有して行動することができる。そのために、医師としての自己を評価し、生涯にわたって向上を図ることの必要性と方法を理解している。

<医師としての考え、態度>

- 1 人間の尊厳を尊重する。
- 2 法的責任・規範を遵守する。
- 3 患者に対して利他的、共感的、誠実、正直に対応し、患者中心の立場に立つ。
- 4 患者、患者家族の心理・社会的要因と異文化、社会背景に関心を払い、その立場を尊重する。
- 5 倫理的問題を把握し、倫理的原則に基づいて評価できる。
- 6 自分の知識、技能、態度に責任を持って患者を診療できる。
- 7 医学、医療の発展に貢献することの必要性を理解する。

<チーム医療>

- 8 医療・研究チームで協同して活動し、チームリーダーとしての役割を果たすことができる。
- 9 医療チームの一員として効果的、相補的な業務を行い、医療安全に務めることができる。

<自己啓発>

- 10 自己の目標を設定できる。
- 11 自己を適切に評価して知識と技能の能力の限界を知り、それを乗り越える対処方法を見つけることができる。
- 12 生涯学習により常に自己の向上を図る必要性と方法を理解する。
- 13 医療ニーズに常に対応できるように自己を管理できる。
- 14 自らのキャリアをデザインし、達成へ向けて学習を継続できる。

II. 医学とそれに関連する領域の知識

学生は、卒業時に

基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、それらを医療の実践の場で応用できる。医療の基盤となっている生命科学、人口、環境など関連領域の知識と原理を理解している。

以下の知識を有し、応用できる。

- 1 人体の正常な構造と機能
- 2 人体の発達、成長、加齢、死
- 3 人の心理、行動
- 4 病因、人体の構造と機能の異常、疾病の自然経過と予防
- 5 薬理効果・治療
- 6 疫学、人口統計、環境
- 7 医療安全
- 8 医学医療に影響を及ぼす文化的・社会的・経済的要因

Ⅲ. 医療の実践

学生は、卒業時に

患者に対し思いやりと敬意を示し、患者個人を尊重した適切で効果的な医療と健康増進を実施できる。医学とそれに関連する領域の知識を統合して、急性あるいは慢性の頻度の高い健康問題の診断と治療を計画できる。

- 1 心理、社会的背景を含む患者の主要な病歴を正確に聴取できる。
- 2 成人及び小児の身体診察と基本的臨床手技を適切に実施することができる（精神、神経学的、生殖器、整形外科的診察も含む）。
- 3 プロブレムリスト、鑑別診断のための疾患リスト、診療録を作成できる。
- 4 頻度の高い疾患の診断と治療に必要な臨床検査（検体検査、画像診断、病理診断）を選択し、結果を解釈できる。
- 5 頻度の高い疾患の診断と治療計画を患者の心理・社会的因子、文化的背景、疫学、EBM を考慮して立てられる。
- 6 医療を実施する上で有効な患者-医師関係を構築できる。
- 7 患者管理の基本を実施できる。
- 8 患者の安全性を確保した医療を実践できる。
- 9 リハビリテーション、地域医療、救急医療、集中治療に参加できる。
- 10 緩和医療、終末期医療、代替医療の概要を理解し、これらの医療に参加できる。
- 11 患者教育の概要を理解し、実践できる。
- 12 医療の不確実性を認識して対応できる。
- 13 診療の優先順位を決定できる。
- 14 電子化された医学・医療に関する情報を利用できる。

Ⅳ. コミュニケーション技能

学生は、卒業時に

他者を理解し、お互いの立場を尊重した人間関係を構築して医療を実践し、思いやりがある効果的なコミュニケーションができる。医学・医療における文書を適切に作成し、取り扱うことができる。責任ある情報交換と記録を行うことができる。

- 1 有効なコミュニケーションの一般原則を実践できる。
- 2 患者、患者家族、医療チームのメンバーと、個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴、共感、理解、支持的態度を示すコミュニケーションを実施できる。
- 3 コミュニケーションを通じて患者、患者家族、医療チームのメンバーとの信頼関係を築き、情報収集、説明と同意、教育など医療の基本を実践できる。
- 4 診療情報、科学論文などの文書を規定に従って適切に作成、取り扱い、情報提供できる。

V. 医学、医療、保健、社会への貢献

学生は、卒業時に

保険制度、医療機関、行政等の規則等に基づいた保健活動と医療の実践、研究、開発を通して社会に貢献できることを理解できている。

- 1 各種保険制度など医療制度が理解できている。
- 2 患者の診療、健康の維持、増進のために各種医療専門職の有用性が理解できている。
- 3 地域の保健、福祉、介護施設の活用が患者個人と医療資源の適正な利用に必要であることが理解できている。
- 4 患者と家族の健康の維持、増進のために施設を適切に選択できる。
- 5 地域の保健・福祉に関する問題を評価でき、疾病予防プランを立案できる。
- 6 医師として地域医療に関わることの必要性が理解できている。
- 7 医学・医療の研究と開発が社会に貢献することが理解できている。
- 8 国際保健活動の仕組みと意義を理解し、説明できる。

VI. 国際的視野と科学的探究

学生は、卒業時に

基礎、臨床、社会医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報の評価、批判的思考、新しい情報を生み出すための論理的思考に基づき研究計画の立案ができる。

- 1 国際的視野で医療と医学研究を考えることができる。
- 2 未解決の臨床的あるいは科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を見いだすことができる。
- 3 臨床や科学の興味ある領域での研究をすすめることができる。
- 4 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論が理解できている。
- 5 人を対象とした医学研究の倫理、研究不正などに対する研究倫理が理解できている。
- 6 科学的研究で明らかになった新しい知見を明確

◆奈良県立医科大学医学部医学科卒業時のアウトカム

教養教育部門																												教養教育
物理学					化学					生物学					数学			地域医療学	保健・体育			臨床英語		哲学			未来基礎医学	
基礎物理学Ⅰ	基礎物理学Ⅱ	基礎物理学Ⅲ	基礎物理学演習	基礎物理学実験	分析化学	有機化学	生体分子化学	医用材料化学	基礎化学実験	生命科学概論	分子生物学	基礎生物学C	基礎生物学D	基礎生物学実験	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅰ演習	生物統計学	スポーツ実践Ⅰ	スポーツ実践Ⅱ	健康科学	Academic EnglishⅠ	Academic EnglishⅡ	医療に関わる倫理学Ⅰ	医療に関わる倫理学Ⅱ	哲学	医学研究入門	

I. 倫理観とプロフェッショナリズム

学生は、卒業時に
 患者、患者家族、医療チームメンバーを尊重し、責任をもって医療を実践するためのプロフェッショナリズム(態度、考え方、倫理感など)を有して行動することができる。そのために、医師としての自己を評価し、生涯にわたって向上を図ることの重要性と方法を理解している。
 <医師としての考え、態度>

1	人間の尊厳を尊重する。	F	F	F	F	F	E	F	E	D	F	F	F	E	E	C	E	E	F	E	E	E	E	D	C	A	A	A	F	A
2	法的責任・規範を遵守する。	F	F	F	F	E	E	E	F	D	C	F	F	E	E	C	F	F	F	E	E	E	F	D	D	A	A	B	F	A
3	患者に対して利他的、共感的、誠実、正直に対応し、患者中心の立場に立つ。	F	F	F	F	F	E	F	F	D	F	F	F	F	E	E	E	F	E	E	E	E	C	B	A	A	A	F	A	
4	患者、患者家族の心理・社会的要因と異文化、社会背景に関心を払い、その立場を尊重する。	F	F	F	F	F	E	F	F	D	F	F	F	F	E	F	F	F	E	E	E	F	C	B	A	A	A	F	A	
5	倫理的問題を把握し、倫理的原則に基づいて評価できる。	F	F	F	F	F	E	F	F	D	D	F	F	E	E	C	E	E	E	F	D	D	F	C	B	A	A	B	F	A
6	自己の知識、技能、態度に責任を持って患者を診療できる。	D	D	D	D	D	E	E	F	E	F	F	F	E	D	D	E	F	E	E	E	E	E	E	A	A	B	F	A	
7	医学、医療の発展に貢献することの必要性を理解する。	F	F	F	F	F	C	D	C	C	E	E	E	D	E	C	E	E	E	E	E	E	C	A	A	A	B	C	A	

<チーム医療>

8	医療・研究チームで協同して活動して活動し、チームリーダーとしての役割を果たすことができる。	F	F	F	F	C	E	F	E	D	C	F	F	F	F	E	F	F	F	E	D	D	E	D	D	B	B	C	F	B
9	医療チームの一員として効果的、相補的な業務を行い、医療安全に務めることができる。	F	F	F	F	C	E	F	E	D	C	F	F	F	F	E	F	F	F	F	D	D	E	F	F	C	C	C	F	C

<自己啓発>

10	自己の目標を設定できる。	D	D	D	D	D	D	E	C	D	C	C	C	E	C	C	C	C	C	F	C	C	E	E	E	B	B	C	E	B
11	自己を適切に評価して知識と技能の能力の限界を知り、それを乗り越える対処方法を見つけることができる。	C	C	C	C	C	D	E	C	D	C	C	C	E	C	C	C	C	F	E	E	E	D	D	B	B	C	E	B	
12	生涯学習により常に自己の向上を図る必要性と方法を理解する。	C	C	C	C	C	C	E	C	C	C	C	C	D	C	C	E	E	E	F	E	E	E	E	E	B	B	C	E	B
13	医療ニーズに常に対応できるように自己を管理できる。	F	F	F	F	F	D	E	F	D	E	F	F	D	F	F	E	E	E	F	E	E	E	D	C	B	B	C	E	B
14	自らのキャリアをデザインし、達成へ向けて学習を継続できる。	C	C	C	C	C	D	E	E	C	E	C	C	E	C	C	E	E	E	F	E	E	E	E	E	B	B	C	E	B

II. 医学とそれに関連する領域の知識

学生は、卒業時に
 基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、ていれを医療の実践の場に応用できる。医療の基盤となっている生命科学、人口、環境など関連領域の知識と原理を理解している。
 以下の知識を有し、応用できる。

1	人体の正常な構造と機能	E	E	C	E	C	E	C	E	C	C	D	C	C	F	F	F	F	F	E	E	C	F	F	F	F	F	F	F	C
2	人体の発達、成長、加齢、死	F	F	F	F	F	E	C	E	C	E	C	C	E	C	C	F	F	F	F	E	E	C	F	F	E	E	E	F	C
3	人体の心理、行動	F	F	F	F	F	E	F	F	E	F	E	E	E	F	E	F	F	F	F	D	D	E	D	D	C	C	C	F	C
4	病因、人体の構造と機能の異常、疾病の自然経過と予防	F	F	F	F	F	E	C	C	C	F	E	E	E	E	E	F	F	F	F	E	E	E	F	F	F	F	F	F	C
5	薬理効果・治療	F	F	F	F	F	E	C	C	C	F	D	D	F	E	E	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	C
6	疫学、人口統計、環境	F	F	F	F	F	E	F	F	E	F	F	F	F	F	F	F	F	C	F	F	E	E	C	E	E	F	F	F	C
7	医療安全	F	F	F	F	F	E	F	F	E	E	F	F	F	F	E	F	F	F	F	E	E	E	F	E	C	C	E	F	C
8	医学医療に影響を及ぼす文化的・社会的・経済的要因	F	F	F	F	F	E	E	E	E	E	F	F	F	F	F	F	F	F	E	E	E	E	F	F	B	B	C	F	B

アウトカムに対する到達度目標レベル	Advanced	Applied	Basic			
I. 倫理観とプロフェッショナリズム						
奈良県立医科大学医学部の学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
患者、患者家族、医療チームメンバーを尊重し、責任をもって医療を実践するためのプロフェッショナリズム(態度、考え方、倫理感など)を有して行動することができる。そのために、医師としての自己を評価し、生涯にわたって向上を図ることの重要性と方法を理解している。	診療の場で医師としての態度・価値感を示せる	医師としての知識、態度・価値感を模擬的に示せる	基盤となる知識、態度・価値観を修得している	基盤となる知識を修得している	態度・価値感を修得の機会がある	修得の機会がない
II. 医学とそれに関連する領域の知識						
奈良県立医科大学の学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、それらを医療の実践の場に応用できる。医療の基盤となっている生命科学、人口、環境など関連領域の知識と原理を理解している。	実践の場で問題解決に応用できる	応用できる知識を修得している	基盤となる知識を修得している		修得する機会がある	修得の機会がない
III. 医療の実践						
奈良県立医科大学の学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
患者に対し思いやりと敬意を示し、患者個人を尊重した適切で効果的な医療と健康増進を実施できる。医学とそれに関連する領域の知識を統合して、急性あるいは慢性の頻度の高い健康問題の診断と治療を計画できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる知識、技能、態度を修得している	基盤となる知識を修得している	経験する機会がある	修得の機会がない
IV. コミュニケーション技能						
奈良県立医科大学の学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
他者を理解し、お互いの立場を尊重した人間関係を構築して医療を実践し、思いやりがある効果的なコミュニケーションができる。医学・医療における文書を適切に作成し、取り扱うことができる。責任ある情報交換と記録を行うことができる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる技能、態度を修得している	基盤となる技能を修得している	経験する機会がある	修得の機会がない

アウトカムに対する到達度目標レベル	Advanced	Applied	Basic			
IV. コミュニケーション技能						
奈良県立医科大学の学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
他者を理解し、お互いの立場を尊重した人間関係を構築して医療を実践し、思いやりがある効果的なコミュニケーションができる。医学・医療における文書を適切に作成し、取り扱うことができる。責任ある情報交換と記録を行うことができる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる技能、態度を修得している	基盤となる技能を修得している	経験する機会がある	修得の機会がない
V. 医学、医療、保健、社会への貢献						
奈良県立医科大学の学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
保険制度、医療機関、行政等の規制等に基づいた保健活動と医療の実践、研究、開発を通して社会に貢献できることを理解できている。	実践できる	理解し、計画立案ができる	基盤となる知識を修得している		経験する機会がある	修得の機会がない
VI. 国際的視野と科学的探究						
奈良県立医科大学の学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
基礎、臨床、社会医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報の評価、批判的思考、新しい情報を生み出すための論理的思考に基づき研究計画の立案ができる。	実践できる	理解と計画立案ができる	教員により計画された研究を実施、見学している	基盤となる知識、技術を修得している	経験する機会がある	修得の機会がない

◆奈良県立医科大学医学部医学科卒業時のアウトカム

教養教育部門																													教養教育
物理学					化学					生物学					数学			地域医療学	保健・体育			臨床英語		哲学			未来基礎医学		
基礎物理学Ⅰ	基礎物理学Ⅱ	基礎物理学Ⅲ	基礎物理学演習	基礎物理学実験	分析化学	有機化学	生体分子化学	医用材料化学	基礎化学実験	生命科学概論	分子生物学	基礎生物学C	基礎生物学D	基礎生物学実験	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅰ演習	生物統計学	スポーツ実践Ⅰ	スポーツ実践Ⅱ	健康科学	Academic EnglishⅠ	Academic EnglishⅡ	医療に関わる倫理学Ⅰ	医療に関わる倫理学Ⅱ	哲学	医学研究入門		

Ⅲ. 医療の実践

学生は、卒業時に

患者に対し思いやりと敬意を示し、患者個人を尊重した適切で効果的な医療と健康増進を実施できる。医学とそれに関連する領域の知識を統合して、急性あるいは慢性の頻度の高い健康問題の診断と治療を計画できる。

1	心理、社会的背景を含む患者の主要な病歴を正確に聴取できる。	F	F	F	F	F	E	F	F	E	F	F	F	F	F	F	E	E	E	F	F	F	F	E	E	C	C	C	F	C	
2	成人及び小児の身体診察と基本的臨床手技を適切に実施することができる(精神、神経学的、生殖器、整形外科的診察も含む)。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	E	E	F	F	F	F	F	E	F	F	F	F	E	
3	プロブレムリスト、鑑別診断のための疾患リスト、診療録を作成できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	E	E	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	
4	頻度の高い疾患の判断と治療に必要な臨床検査(検体検査、画像診断、病理診断)を選択し、結果を解釈できる。	F	F	F	F	F	E	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	E	E	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	
5	頻度の高い疾患の診断と治療計画を患者の心理・社会的因子、文化的背景、疫学、EBMを考慮して立てられる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	E	E	F	F	F	F	D	D	C	C	D	F	C	
6	医療を実施する上で有効な患者-医師関係を構築できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	E	E	F	E	E	E	F	F	C	C	C	F	C	
7	患者管理の基本を実施できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	
8	患者の安全性を確保した医療を実践できる。	F	F	F	F	F	E	F	F	E	E	F	F	F	F	F	E	E	F	F	F	F	E	F	F	D	D	D	F	D	
9	リハビリテーション、地域医療、救急医療、集中治療に参加できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	E	E	F	E
10	緩和医療、終末期医療、代替医療の概要を理解し、これらの医療に参加できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	C	C	D	F	C	
11	患者教育の概要を理解し、実践できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	F	F	F	F	F	F	F	F	D	D	D	F	D	
12	医療の不確実性を認識して対応できる。	F	F	F	F	F	E	F	F	E	F	F	F	F	F	F	E	E	E	F	F	F	F	F	F	C	C	D	F	C	
13	診療の優先順位を決定できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	E	F	F	F	F	F	F	E	E	E	F	F	F	F	F	F	D	D	F	F	D	
14	電子化された医学・医療に関する情報を利用できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	E	E	E	F	F	F	F	F	D	D	F	F	D	

Ⅳ. コミュニケーション技能

学生は、卒業時に

他者を理解し、お互いの立場を尊重した人間関係を構築して医療を実践し、思いやりがある効果的なコミュニケーションができる。医学・医療における文書を適切に作成し、取り扱うことができる。責任ある情報交換と記録を行うことができる。

1	有効なコミュニケーションの一般原則を実践できる。	F	F	F	D	C	F	F	D	F	C	E	E	F	E	D	E	E	E	F	C	C	E	C	B	B	B	B	F	B
2	患者、患者家族、医療チームのメンバーと、個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴、共感、理解、支持的態度を示すコミュニケーションを実施できる。	F	F	F	F	D	F	F	F	D	F	F	F	F	E	E	E	E	F	E	E	E	C	B	B	B	C	F	B	
3	コミュニケーションを通じて患者、患者家族、医療チームのメンバーとの信頼関係を築き、情報収集、説明と同意、教育など医療の基本を実践できる。	F	F	F	F	C	F	F	F	F	D	E	E	F	F	E	F	F	F	F	E	E	E	E	E	B	B	C	F	B
4	診療情報、科学論文などの文書を規定に従って適切に作成、取り扱い、情報提供できる。	D	F	F	C	C	D	E	C	D	C	E	E	E	F	E	E	E	E	F	F	F	E	F	E	D	D	F	F	C

Ⅴ. 医学、医療、保健、社会への貢献

学生は、卒業時に

保険制度、医療機関、行政等の規則等に基づいた保健活動と医療の実践、研究、開発を通して社会に貢献できることを理解できている。

1	各種保険制度など医療制度が理解できている。	F	F	F	F	F	F	F	F	E	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E
2	患者の診療、健康の保持、増進のために各種医療専門職の有用性が理解できている。	F	F	F	F	F	F	F	F	E	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	E	E	E	F	F	C	C	E	F	C
3	地域の保健、福祉、介護施設の活用が患者個人と医療資源の適正な利用に必要であることが理解できている。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	F	F	E	F	F	C	C	F	F	C
4	患者と家族の健康の維持、増進のために施設を適切に選択できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	C	C	F	F	C
5	地域の健康・福祉に関する問題を評価でき、疾病予防プランを立案できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	C	C	F	F	C
6	医師として地域医療に関わることの必要性が理解できている。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	F	F	F	F	F	C	C	E	F	C
7	医学・医療の研究と開発が社会に貢献することが理解できている。	F	F	F	F	F	C	C	C	C	E	D	D	E	D	D	E	E	E	E	F	F	F	F	F	C	C	E	F	C
8	国際保健活動の仕組みと意義を理解し、説明できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	F	F	C	C	F	F	C

Ⅵ. 国際的視野と科学的探究

学生は、卒業時に

基礎、臨床、社会医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報の評価、批判的思考、新しい情報を生み出すための論理的思考に基づき研究計画の立案ができる。

1	国際的視野で医療と医学研究を考えることができる。	F	D	F	F	F	D	E	D	D	E	C	C	E	E	E	E	E	E	F	F	F	E	E	B	D	D	D	B	B
2	未解決の臨床的あるいは科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を見いだすことができる。	D	D	D	D	D	E	E	E	E	D	C	C	E	C	C	C	C	C	D	F	F	F	F	F	D	D	D	D	C
3	臨床や科学の興味のある領域での研究をすすめることができる。	D	D	D	D	D	E	E	D	E	D	C	C	E	C	C	E	E	E	F	F	F	E	F	F	D	D	D	C	C
4	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論が理解できている。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	C	C	C	C	C	C	C	F	F	F	E	F	C	D	D	D	C	C
5	人を対象とした医学研究の倫理、研究不正などに対する研究倫理が理解できている。	F	F	F	F	F	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	F	F	E	E	B	B	B	D	F	B
6	科学的研究で明らかになった新しい知見を明確に説明できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	E	D	D	D	C	C	C	C	F	F	F	E	E	E	D	D	D	C	C	

奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領

(目的)

第1条 この要領は、奈良県立医科大学学則（平成19年4月1日。以下「学則」という。）第8条の規定により、奈良県立医科大学医学部医学科の授業科目（以下「科目」という。）の名称、履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

(教育課程の区分)

第2条 教育課程を次のとおりとする。

- (1) 教養教育 第1年次第1学期から第3学期まで
- (2) 基礎医学教育
 - (ア) 基礎医学Ⅰ 第2年次第1学期から第3学期まで
 - (イ) 基礎医学Ⅱ 第3年次第1学期から第2学期まで
- (3) 臨床医学教育
 - (ア) 統合臨床講義 第3年次第3学期から第4年次第2学期まで
 - (イ) 臨床実習Ⅰ 第4年次第3学期から第5年次第2学期まで
 - (ウ) 臨床実習Ⅱ 第5年次第3学期から第6年次第3学期まで

(科目等)

第3条 開設する科目、単位数、時間数及び履修年次は、教養教育授業科目表（別表1）、専門教育授業科目表（別表2-1、2-2、3）、診療参加型臨床実習授業科目表（別表4）及び6年一貫教育授業科目表（別表5）のとおりとする。なお、6年一貫教育授業科目に「良き医療人育成プログラム」、「地域基盤型医療教育プログラム」、「臨床マインド育成プログラム」、「研究マインド育成プログラム」、「臨床英語強化プログラム」及び「地域基盤型医療教育コース」、「研究医養成コース」を設置する。

(履修条件・進級・卒業)

第4条 科目の履修、進級及び卒業の条件は次のとおりとする。なお、進級が認められなかった者については、当該教育課程の授業科目（実習も含む。）のすべてを未修得とみなす。ただし、教養教育で進級が認められなかった者及び卒業が認められなかった者については、この限りでない。

また、「地域基盤型医療教育コース」及び「研究医養成コース」を履修した者については、別に定めるとおりとする。

(1) 教養教育

次に掲げる教養教育科目及び6年一貫教育科目を修得しなければ、基礎医学Ⅰに進級することができない。

(ア) 教養教育科目

授業科目は、教養教育授業科目表（別表1）のとおりである。教養教育において、必修科目38単位及び選択科目9単位以上を第1学年末までに修得しなければならない。なお、選択科目については、履修登録を指定期間内に行わなければならない。（必修科目の履修登録は不要とする。）

(イ) 6年一貫教育科目

授業科目は、6年一貫教育授業科目表（別表5）における教養教育の科目とし、必修科目とする。

(2) 基礎医学教育

(ア) 基礎医学Ⅰ

次に掲げる専門教育科目及び6年一貫教育科目を修得しなければ基礎医学Ⅱに進級することができない。

ただし、第2学年に編入学した学生の授業科目・履修条件及び進級については、別に定める。

①専門教育科目

授業科目は、専門教育授業科目表（別表2-1）のとおりである。

②6年一貫教育

授業科目は、6年一貫教育授業科目表（別表5）における基礎医学Ⅰの科目とし、必修科目とする。

(イ) 基礎医学Ⅱ

次に掲げる専門教育科目及び6年一貫教育科目を修得し、基礎医学知識到達度評価試験（BNAT：Basic science kNowledge Achievement Test）を受験しなければ統合臨床講義に進級することができない。

なお、平成27年度以前に第2学年における教養教育の必修科目、選択・必修科目及び選択科目が未修得の学生は、第3学年末までに第2学年までの未修得の必修科目及び選択・必修科目の単位をすべて修得しなければ統合臨床講義に進級することができない。

①専門教育科目

授業科目は、専門教育授業科目表（別表2-2）のとおりである。

②6年一貫教育科目

授業科目は、6年一貫教育授業科目表（別表5）における基礎医学Ⅱの科目とし、必修科目とする。

(3) 臨床医学教育

(ア) 統合臨床講義※1

次に掲げる専門教育科目及び6年一貫教育科目を修得し、共用試験に合格しなければ臨床実習Ⅰに進級することができない。

※1 統合臨床講義とは、これまでに学んだ基礎医学と臨床医学を臓器別・疾患別単位で関連づけ、統合し実施する授業形態のことをいう。

①専門教育科目

授業科目は、専門教育授業科目表（別表3）の統合臨床講義科目である。

②6年一貫教育科目

授業科目は、6年一貫教育授業科目表（別表5）における統合臨床講義の科目とし、必修科目とする。

③共用試験

CBT及び臨床実習前OSCE（以下「Pre-CC OSCE」という。）をもって共用試験とする。

(イ) 臨床実習Ⅰ

臨床実習（2週間）を履修し、6年一貫教育科目及び臨床TBLを修得かつ5年次臨床医学知識到達度評価試験（CNAT：Clinical science kNowledge Achievement Test）を受験しなければ卒業することができない。

①臨床実習（2週間）

授業科目は、診療参加型臨床実習授業科目表（別表4）のとおりとする。なお、臨床実習を長期間に渡って履修できない場合は、臨床教育部長の判断により共用試験（CBT及びPre-CC OSCE）を課すこととする。

②6年一貫教育科目

授業科目は、6年一貫教育授業科目表（別表5）における臨床実習Ⅰの科目とし、必修科目とする。

③臨床TBL

チーム基盤型学習形式により臨床医学についての知識を習得する科目とし、必修科目とする。

(ウ) 臨床実習Ⅱ

臨床実習（4週間・8週間）を履修し、6年一貫教育科目を修得し、かつ、診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（以下「Post-CC OSCE」という。）及び卒業試験（統合問題形式の筆記試験）に合格しなければ卒業することができない。なお、卒業できなかった学生は、6年次の第1学期から再履修し、Post-CC OSCE 及び卒業試験に合格しなければ、卒業することができない。

①臨床実習（4週間・8週間）

臨床実習（4週間・8週間）に関する必要事項は別に定める。なお、臨床実習について到達目標を設け、それに対する評価を行う。

②6年一貫教育科目

授業科目は、6年一貫教育授業科目表（別表5）における臨床実習Ⅱの科目とし、必修科目とする。

③Post-CC OSCE

クリニカル・クラークシップの総合的評価として実施し、必修科目とする。

④卒業試験

卒業試験に関する必要事項は別に定める。

(単位の計算方法)

第5条 科目の単位数は、1単位45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、学習方法に応じ、次の基準により、計算するものとする。

- (1) 講義については、15時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては、30時間をもって1単位とすることができる。
- (2) 演習については、30時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては、15時間をもって1単位とすることができる。
- (3) 実習、実技及び実験については、45時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては、30時間をもって1単位とすることができる。

(単位又は授業科目修得の認定)

第6条 授業科目の単位又は修得の認定は試験等により、教室主任又は科目責任者が行う。

(試験)

第7条 定期試験は、期日を定めて行う。

- (1) 定期試験の期間は、あらかじめ公示する。
- (2) 定期試験以外に担当教員が必要と認めるときは、臨時試験を行うことがある。
- 2 試験は筆答及び口頭又はそのいずれかをもって行う。
- 3 各科目について、授業時間数の3分の2以上出席^{*2}し、かつ担当教員の承認を得なければ当該科目の定期試験を受けることができない。ただし、公欠を認められた期間は、上記の授業時間数には含めないものとする。補講等が実施された場合は当該期間数に含めるものとする。「奈良県立医科大学医学部公欠規程」参照。
- 4 疾病その他やむを得ない事由のため、所定の期日に定期試験を受けることができない者は、担当教員の承認を得るとともに、別に定める試験欠席届を学長に提出しなければならない。
欠席届を提出した者については、担当教員が別に期日と方法を定めて追試験を行う。
- 5 授業科目の単位又は修得の認定についての評価方法は、別に教育要項で定める。
- 6 成績は、100点法によって表示し、60点以上をもって合格とする。60点未満の者については、原則として再試験を1回行い、合否を判定する。

ただし、共用試験CBTは、能力値（ θ ）400以上をもって合格とする。共用試験CBTに関する必要事項は別で定め、不合格者は再試験を受験することができる。

- 7 試験において不正行為を行った者については、当該科目及び関連科目の試験を無効とし、進級又は卒業を停止する。不正行為が悪質であると判断された場合は、学則第41条による懲戒処分を行う。

（成績認定、進級判定及び卒業認定）

第8条 進級時の成績認定及び進級判定は、教養教育協議会、基礎医学教育協議会、臨床医学教育協議会又は教務委員会より提出された成績資料に基づき、進級判定会議で審議を行う。

- 2 進級判定会議は、医学科長、教養教育部長、基礎教育部長、臨床教育部長及び教育開発センター教授をもって組織する。
- 3 成績認定及び進級判定の結果は、医学科長が医学部長に報告のうえ学長に報告し、学長が決定するものとし、その結果は、教授会議において報告するものとする。

第9条 卒業時の成績認定、授業科目の修了の認定及び卒業の認定は、教授会議で審議を行い、その結果を受けて卒業判定会議で審議を行う。

- 2 卒業判定会議は、医学科長、教養教育部長、基礎教育部長、臨床教育部長及び教育開発センター教授をもって組織する。
- 3 卒業時の成績認定、授業科目の修了の認定及び卒業の認定の結果は、医学科長が医学部長に報告のうえ学長に報告し、学長が認定するものとし、その結果は、教授会議において報告するものとする。

（雑則）

第10条 この要領に定めるもののほか、科目の履修に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要領は、令和2年7月1日から施行する。

※2 3分の2以上出席の考え方について

学則第41条に規定されているとおり、授業に出席することは学生の本分であり、出席不良者（正当の理由がなくて出席常でないもの）は退学、休学、又はけん責（文書注意）のいずれかの懲戒の対象となる。よって、授業時間数の3分の2を出席すれば、それ以上出席しなくてもよいというものではない。

履修要領第6条第3項に定めている「3分の2以上出席」の趣旨は、例えば、傷病によりやむを得ず欠席した場合等を考慮し、定期試験を受けることができる出席数の下限を定めているものである。

学則（抜粋）

第41条 学長は、学生がこの学則及びこの学則に基づく規程並びに学長の指示及び命令にそむき、学生の本分に反する行為があったとき、これに対し懲戒処分として、けん責、停学又は退学の処分をすることができる。ただし、退学処分は次のイ各号の一に該当するもののみに行うことができる。

- 一 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- 二 学力劣等で成業の見込がないと認められる者
- 三 正当の理由がなくて出席常でない者
- 四 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

科目の読み替えについて

平成28年度以降入学生用教育課程の開講科目については、次のとおり読み替えを行う。

平成27年度入学生・平成28年度編入学生用開講科目						平成28年度以降入学生・平成29年度以降編入学生用開講科目												
科目名	年次	講義区分	単位	授業時間数	種類	科目名	年次	講義区分	単位	授業時間数	種類							
教養教育	医療統計学	1	前期	2	30	選択	教養教育	生物統計学	1	前期	2	30	必修					
	英語 I	1	前期	2	60	必修		Academic English I	1	前期	2	60	必修					
	英語 II	1	後期	2	60	必修		Academic English II	1	後期	2	60	必修					
	医に関わる倫理学	1	後期	2	30	選択		医療に関わる倫理学 I	1	前期	2	30	必修					
	生に関わる倫理学	1	前期	2	30	選択		医療に関わる倫理学 II	1	後期	2	30	選択					
	哲学基礎論	1	前期	2	30	選択		哲学	1	前期	2	30	選択					
	総合人間論	1	後期	1	30	選択必修		アジア文化論	1	前期	1	30	必修					
	医療における心理学	1	前期	2	30	選択		西洋文化論	1	後期	1	30	必修					
	人間関係の心理学	1	後期					臨床心理学	1	後期	2	30	必修					
	市民と法A	1	前期	1	30	選択		市民と法	1	前期	2	30	選択					
	市民と法B	1	後期					環境科学	1	前期	2	30	選択					
	環境科学A	1	前期	1	30	選択		6年一貫	医療安全学 I	3	前期	15	必修					
	環境科学B	1	後期															
	コンピューター	3	前期	1	30	6年一貫								Medical English	2	前期	30	必修
	いのちのしくみ	3	前期	1	60										選択必修	Advanced Clinical English I	2	通年
	英会話	3	前期	1	30			6年一貫	Medical English	2	前期	30	必修					
医療英語	2	通年	2	60	必修	Advanced Clinical English I	2	通年	30	自由								
6年一貫教育	医学特別講義1	1	通年	4	60	必修	6年一貫教育	医学特別講義	1	通年	60	必修						
	医学特別実習 (附属病院、学外施設)	1	後期	1	30	必修		医学特別実習 (附属病院・外来・病棟)	1	後期	30	必修						
	地域医療実習1 (クリニック、保育所、幼稚園)	3	前期	2	60	選択必修		地域医療実習1 (クリニック、保育所など)	3	前期	30	必修						
	コンソーシアム実習2 (早大)		通年集中	1	30	自由		コンソーシアム実習 (早大)		通年集中	30	自由						
専門科目	医学概論	3	前期		12	選択必修	6年一貫	私のキャリアパス I	3	前期	12	必修						
	医学英語	3	前期		6	選択必修		Advanced Clinical English II	3	通年	30	自由						
	研究室配属実習	4	後期		144	必修		リサーチ・クラークシップ	2	後期	315	必修						

別表1 2020年度 教養教育 医学科授業科目表

種類	2020年度授業科目	選択・必修		授業時間数			単位数	備考
		前期	後期	時間/週	年間週数	計		
1	基礎物理学Ⅰ	◎		2	15	30	2	
	基礎物理学Ⅱ		△	2	15	30	2	
	基礎物理学Ⅲ		△	2	15	30	2	
	基礎物理学演習	◎		2	15	30	1	
	基礎物理学実験		◎	4	15	60	1	
2	分析化学	◎		2	15	30	2	
	有機化学	◎		2	15	30	2	
	生体分子化学		△	2	15	30	2	
	医用材料化学		△	2	15	30	2	
	基礎化学実験		◎	4	15	60	1	
3	生命科学概論	◎	◎	2	30	60	4	
	分子生物学		△	2	15	30	2	
	基礎生物学		△	2	15	30	2	
	基礎生物学実験	◎		4	15	60	1	
4	数学Ⅰ	◎	◎	2	30	60	4	
	数学Ⅱ		△	2	15	30	2	
	数学Ⅰ演習	△		2	15	30	1	
5	生物統計学	◎		2	15	30	2	
	医療情報学		△	2	15	30	1	
6	スポーツ実践Ⅰ	◎		2	15	30	1	
	スポーツ実践Ⅱ		◎	2	15	30	1	
	健康科学	△		2	15	30	2	
7	Academic EnglishⅠ	◎		4	15	60	2	
	Academic EnglishⅡ		◎	4	15	60	2	
8	医療に関わる倫理学Ⅰ	◎		2	15	30	2	医看合同(注3)
	医療に関わる倫理学Ⅱ		△	2	15	30	2	医看合同(注3)
	哲学	△		2	15	30	2	医看合同(注3)
9	アジア文化論 (注1)	◎		2	15	30	1	医看合同(注3)
	西洋文化論 (注2)		◎	2	15	30	1	医看合同(注3)
10	教育実践論	◎		2	15	30	2	医看合同(注3)
	臨床心理学		◎	2	15	30	2	医看合同(注3)
	社会福祉と医療法規		◎	2	15	30	2	医看合同(注3)
	市民と法		△	2	15	30	2	
	行動科学Ⅰ	◎		2	15	30	2	
11	医学研究入門	△		2	15	30	2	

◎…必修科目、△…選択科目

(注1) 「アジア文化論」：中国文化、韓国文化、インドネシア文化
 (注2) 「西洋文化論」：ドイツ文化、フランス文化、英語圏文化、
 (注3) 医学看護学合同教育科目：医学科および看護学科共通科目

別表2-1 基礎医学 I 専門教育授業科目表

	授業科目	授業時間数			計
		講義	実習	解剖実習	
基礎医学 I	解剖学 I	49	24	93	247
	解剖学 II	57	24		
	発生・再生医学	26			26
	生理学 I	48	90		186
	生理学 II	48			
	生化学	82	48		130
	計	310	186	93	589
	基礎医学 I TBL		30		30

別表5. 6年一貫教育授業科目表

	授業科目	授業時間数		計
		講義	実習	
第2学年	ロールモデルを探す	9		9
	VOP講座	9		9
	臨床手技実習入門 II	1	29	30
	リサーチ・クラークシップ		270	270
	Medical English	30		30
	計	49	299	348

別表2-2 基礎医学Ⅱ 専門教育授業科目表

	授業科目	授業時間数		計
		講義	実習	
基礎医学Ⅱ	病理学	51	6	57
	病原体・感染防御医学	48	15	63
	微生物感染症学	39	21	60
	免疫学	51	12	63
	薬理学	30	33	63
	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	63	0	63
	(疫学・予防医学担当)	(61)	(0)	(61)
	(公衆衛生学担当)	(2)	(0)	(2)
	発生・再生医学	30	0	30
	計	312	87	399
	基礎医学Ⅱ TBL	30		30

別表5. 6年一貫教育授業科目表

	授業科目	授業時間数		計
		講義	実習	
第3学年	私のキャリアパスⅠ	12		12
	医療安全学Ⅰ	12		12
	臨床手技実習入門Ⅲ	1	29	30
	地域医療実習1		24	24
	医学・医療英語	15		15
	計	40	53	93

別表3 臨床医学専門教育授業科目表

統合臨床講義 科目名	コース担当講座 (教室)	授 業 時 間 数
臨床医学総論	教育開発センター	12
腎疾患・尿路系疾患	泌尿器科学	36
肝・胆・膵疾患	消化器内科学	21
消化器疾患	消化器・総合外科学	36
循環器疾患	循環器内科学	33
呼吸器疾患	呼吸器内科学	33
画像診断・I V R	放射線医学	9
神経疾患	脳神経内科学／脳神経外科学	42
運動器疾患	整形外科科学	20
精神・行動疾患	精神医学	30
血液疾患	呼吸器内科学	30
移植・再生医学	胸部・心臓血管外科学	21
内分泌疾患	消化器内科学	17
眼疾患	眼科学	18
皮膚疾患	皮膚科学	12
膠原病・アレルギー疾患	腎臓内科学	12
耳鼻咽喉疾患	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	18
行動科学Ⅱ	教育開発センター	9
東洋医学	泌尿器科学	9
臨床腫瘍学・放射線治療学	放射線腫瘍学	33
感染症	感染症センター	21
代謝・栄養疾患	消化器内科学	14
衛生学・公衆衛生学Ⅱ	公衆衛生学	30
社会フィールド系実習		30
小児疾患	小児科学	15
周産期医学	産婦人科学	24
法医学	法医学	30
社会フィールド系実習		30
在宅医療学	総合医療学	4
外傷・救急医学	救急医学	24
総合診療	総合医療学	12
婦人疾患	産婦人科学	15
口腔疾患	口腔外科学	18
麻酔・疼痛管理	麻酔科学	21
病理学実習	病理診断学	27
計		766

別表5 6年一貫教育授業科目表

6年一貫教育授業 科目名	授 業 時 間 数
医師・患者関係学Ⅰ	6
実践的医療倫理Ⅰ	9
臨床手技実習	39
計	54

別表4 診療参加型臨床実習授業科目表

科目名	コース担当講座（教室）	備考
循環器内科学	循環器内科学	
腎臓内科学	腎臓内科学	リウマチを含む
呼吸器内科学	呼吸器内科学	血液、輸血、感染を含む
消化器内科学	消化器内科学	糖尿病・内分泌、内視鏡、中検を含む
脳神経内科学	脳神経内科学	リハビリテーションを含む
消化器・総合外科学	消化器・総合外科学	小児外科、乳腺外科を含む
脳神経外科学	脳神経外科学	
胸部・心臓血管外科学	胸部・心臓血管外科学	先天性心疾患センターを含む
整形外科学	整形外科学	
口腔外科学	口腔外科学	
産婦人科学	産婦人科学	周産期を含む
眼科学	眼科学	
小児科学	小児科学	
精神医学	精神医学	
皮膚科学	皮膚科学	形成外科を含む
泌尿器科学	泌尿器科学	透析を含む
耳鼻咽喉・頭頸部外科学	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	
放射線医学	放射線医学	
放射線腫瘍医学	放射線腫瘍医学	
麻酔科学	麻酔科学	ペインクリニックを含む
救急医学	救急医学	
総合医療学	総合医療学	
病理診断学	病理診断学	

診療参加型臨床実習実施要領

1. 責任者

臨床教育部長

2. 実習のねらい

医学教育6年間の最終段階における臨床実習では、将来どの診療科の医師になっても対応できるよう、最低限必要な医学知識・臨床推論法・技能・態度等の能力を身につけることを目標とする。

3. 実習期間

(1) 臨床実習 (2 週間)

第4年次第3学期から第5年次第2学期まで

(2) 臨床実習 (4 週間・8 週間)

第5年次第3学期から第6年次第2学期まで

4. 実施方法

(1) 臨床実習 (2 週間)

実習(BSL)は学生を別途定める名簿に分け、別紙1-1「臨床実習Ⅰ時間割」に従って実施する。

(2) 臨床実習 (4 週間・8 週間)

1) 実習(BSL)は学生を別途定める名簿に分け、別紙1-2「臨床実習Ⅱ時間割」に従って実施する。

2) 臨床実習28週間の内、学内施設16週、学外施設12週を選択する。

3) 学内施設では問題基盤型学習(PBL)を実施する。

※BSL: Bedside learning PBL: Problem-based learning

5. 実習内容

実習は、別途各教室が作成するカリキュラムで実施する。

6. 臨床実習生指導教員

各教室は、臨床実習を円滑に実施するため臨床実習生指導教員を定める。

7. 出席の確認

指導教員は、臨床実習への出席を確認するため、出席学生の臨床実習簿に認印を押印する。

8. 実習生の遵守事項

学生は、別紙2-1「臨床実習の心得」及び、別紙2-2「臨床実習における心構え・注意事項」を遵守しなければならない。

別表5. 6年一貫教育授業科目表

《A 良き医療人育成プログラム》

NO.	授 業 科 目	区分	教養教育		基礎医学Ⅰ		基礎医学Ⅱ		統合臨床講義		臨床実習Ⅰ		臨床実習Ⅱ		授業 時間数	備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
1	奈良学	必修		◎											30	
2	次世代医療人育成論	必修	◎												30	
3	ロールモデルを探す	必修			◎										9	
4	VOP講座	必修			◎										9	
5	私のキャリアパスⅠ	必修					◎								12	
6	私のキャリアパスⅡ	必修											◎		7	
7	医療安全学Ⅰ（基礎編）	必修					◎								12	
8	医療安全学Ⅱ（臨床編）	必修									◎				18	
9	医師・患者関係学Ⅰ	必修							◎						6	
10	医師・患者関係学Ⅱ	必修									◎	◎			6	
11	医師・患者関係学Ⅲ	必修											◎		3	
12	実践的医療倫理Ⅰ	必修								◎					9	
13	実践的医療倫理Ⅱ	必修											◎		3	
14	多職種連携講座	必修										◎			3	
15	Never do harm!	必修											◎		12	

《B 地域基盤型医療教育プログラム》

NO.	授 業 科 目	区分	教養教育		基礎医学Ⅰ		基礎医学Ⅱ		統合臨床講義		臨床実習Ⅰ		臨床実習Ⅱ		授業 時間数	備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
1	地域医療実習1 (クリニック、保育所など)	必修					◎								24	
2	地域医療実習2 (クリニック、へき地診療所)	必修											◎		30	
3	早期医療体験実習 (附属病院・外来・病棟) (※注1)	必修		◎											30	
4	キャリアパス・メンター 実習 (※注1)	必修											◎	◎	82	
5	緊急医師確保枠学生 地域医療特別実習1 (へき地診療所、クリニックなど) (※注2)	必修 (※注 2)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					30	
6	緊急医師確保枠学生 地域医療特別実習2 (へき地診療所、クリニックなど) (※注2)	必修 (※注 2)									◎	◎	◎	◎	30	

(注1) 《C 臨床マインド育成プログラム》NO.5、NO.6と同一授業科目

(注2) 1～4年の緊急医師確保入学試験の学生が履修
5～6年の緊急医師確保入学試験の学生が履修

《C 臨床マインド育成プログラム》

NO.	授 業 科 目	区分	教養教育		基礎医学Ⅰ		基礎医学Ⅱ		統合臨床講義		臨床実習Ⅰ		臨床実習Ⅱ		授業時間数	備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
1	医学・医療入門講座	必修	◎	◎											60	
	医学・医療入門講義														48	
	臨床手技実習入門Ⅰ														12	
2	臨床手技実習入門Ⅱ	必修			◎										30	
3	臨床手技実習入門Ⅲ	必修				◎									30	
4	臨床手技実習	必修							◎						30	
5	早期医療体験実習 (附属病院・外来・病棟) (※注3)	必修		◎											30	
6	キャリアパス・メンター 実習 (※注3)	必修										◎	◎		88	

(注3) 《C 臨床マインド育成プログラム》NO. 3、NO. 4と同一授業科目

《D 研究マインド育成プログラム》

NO.	授 業 科 目	区分	教養教育		基礎医学Ⅰ		基礎医学Ⅱ		統合臨床講義		臨床実習Ⅰ		臨床実習Ⅱ		授業時間数	備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
1	リサーチ・クラークシップ	必修				◎									270	
2	研究医特別メンター実習 (※注4)	必修			◎	◎	◎	◎	◎	◎						
		自由									□	□	□	□		
3	コンソーシアム実習 (早大・奈良医大連携講座) (※注5)	自由	□ 夏の休業中										30			

(注4) 研究医養成コースの学生が履修

(注5) 夏の休業期間に行う5日間の集中講義

《E 臨床英語強化プログラム》

NO.	授 業 科 目	区分	教養教育		基礎医学Ⅰ		基礎医学Ⅱ		統合臨床講義		臨床実習Ⅰ		臨床実習Ⅱ		授業時間数			単位数
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	計	時間/週	年間週数	
1	Academic English I (※注6)	必修	◎												60	4	15	2
2	Academic English II (※注6)	必修		◎											60	4	15	2
3	Medical English	必修			◎										30	2	15	
4	医学・医療英語	必修					◎								15	6	3	
5	Advanced English 1a: English for IELTS and TOEFL (speaking, reading)	自由	□	□	□	□										1		
6	Advanced English 1b: English for IELTS and TOEFL (writing, listening)	自由	□	□	□	□										1		
7	Remedial English	自由	□	□	□	□										1		

8	English for Medical Research Purposes	自由		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		2	
11	Advanced medical Vocabulary	自由		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		1	
12	Global Health issues	自由		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		1	
9	Advanced Clinical English I	自由			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		1	
10	Medical Ethics and the Law	自由			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		1	

(注6) 教養教育授業科目 (別表1) の必修科目とする。

奈良県立医科大学医学部公欠規程

平成28年2月4日制定

(目的)

第1条 この規程は、奈良県立医科大学学則第25条に規定する学生の欠席について、奈良県立医科大学がやむを得ないと認める理由（以下「理由」という。）による欠席（以下「公欠」という。）の取扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。

(公欠の定義)

第2条 公欠とは、学生が次条に規定する理由により講義、実習等を欠席した場合、これを単位認定、科目修得及び履修要件における欠席扱いとしない取扱いをいう。

(公欠の理由)

第3条 公欠を認める理由は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 学生が学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症に罹患したことにより出席停止措置を受けた場合、又は健康管理センター長が学生の出席停止措置が必要であると認めた場合
- (2) 気象警報の発表、交通機関の運休等により学生の通学が困難であると認められた場合
- (3) 学生の親族が死亡した場合（忌引）
- (4) 学生が裁判員制度による裁判員又は裁判員候補者に選任された場合
- (5) 学生がカリキュラム履修や教員の指導下で実施している自主的研究において、教員が必要と認める学会等に参加する場合
- (6) その他学長が必要と認めた場合

(公欠の基準)

第4条 前条第1号及び第3号における公欠の基準については、別表第1に定めるとおりとする。

(公欠の手続)

第5条 公欠の適用を受けようとする学生は、公欠届（別紙様式）に別表第2に定める書類を添えて、学長に提出するものとする。

- 2 学長は、前項の規定により公欠届の提出があったときは、その内容を第3条及び第4条の基準に基づき審査し、公欠として適正と認める場合はこれを許可する。
- 3 公欠の申出時期は、原則として別表第2のとおりとする。ただし、学長が別に定める場合はこの限りではない。
- 4 公欠の許可について、公欠届の内容及び理由によりやむを得ないと認められる場合には、学長は公欠希望日に遡ってこれを認めることができるものとする。

(公欠時の講義、実習等の取扱い)

第6条 教員は、公欠を許可された学生に対し、講義、実習等の履修において、補講、個別指導等の実施により当該学生が不利とならないよう配慮を行うものとする。

ただし、実習等については、公欠を許可されても、追実習、評価及び単位認定ができない場合がある。

(公欠時の定期試験等の取扱い)

第7条 公欠を許可された期間は、奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領第5条第3項及び奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領第7条に規定する定期試験等の受験に係る授業時間数には含めないものとする。ただし、前条に規定する補講等が実施された場合は、当該時間数に含めるものとする。

2 公欠を許可された学生に対する定期試験等の取扱いにおいて、奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領第5条第4項及び奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領第8条第2項に規定する疾病その他やむを得ない理由については、第3条各号を適用するものとする。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

別表第1（第4条関係）

感染症について(第3条第1号関係)

	対象疾病	出席停止期間
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)、MERS、鳥インフルエンザ(病原体がインフルエンザウイルスA属インフルエンザAウイルスであってその血清亜型がH5N1、H7N9であるものに限る)	治癒するまで
第二種	インフルエンザ(鳥インフルエンザH5N1を除く)	発症後(発熱の翌日を1日目として)5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで、又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風しん	発しんが消失するまで
	水痘	すべての発しんが痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状が消退した後2日を経過するまで
第三種	結核、髄膜炎菌性髄膜炎	症状により本学健康管理センター医師、その他医師が感染のおそれがないと認めるまで
	感染性胃腸炎(ノロ・ロタ等)	症状のある間が主なウイルスの排出期間なので、下痢、嘔吐症状が消失してから48時間を経過するまで。手洗いを励行すること。
	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎	症状により本学健康管理センター医師、その他医師が感染のおそれがないと認めるまで

忌引について(第3条第3号関係)

親等	対象範囲	日数(土日・祝祭日を含む)
	配偶者	最長7日
1親等	父母、子	最長7日
2親等	祖父母、兄弟姉妹、孫	最長3日

別表第2（第5条関係）

手続方法について

以下の理由により欠席する場合は、公欠届及び以下の添付書類を提出すること。

欠席理由	添付書類	申出時期
感染症等(第3条第1号)	医師の診断書	診断書による療養期間終了後すみやかに
忌引(第3条第3号)	会葬の案内状、礼状等	事後1週間以内
裁判員制度(第3条第4号)	用務内容が記載された書類	招集日の1週間前まで
学会等参加(第3条第5号)	学会等の概要がわかる書類	学会等参加の1週間前まで
その他(第3条第6号)	理由が証明できる書類	事後1週間以内

※(第3条第2号関係)

気象警報の発令、交通機関の運休等社会的要因によるものについては、添付書類の提出は不要とする。

別紙様式(第5条関係)

公 欠 届

年 月 日

奈良県立医科大学長 殿

医学部 (医学科・看護学科)

第 学年 (学籍番号)

氏 名 _____ 印

下記の理由により講義、実習等を欠席したいので、公欠の取扱いをお願いします。

記

1. 理 由 (該当理由にレを入れること)

- 感染症等
- 気象警報、交通機関運休等
- 忌引
- 裁判員制度
- 学会等参加
- その他 ()

2. 公欠期間及び公欠扱いを希望する講義・実習等名

年 月 日 ~ 年 月 日

講義・実習等名 (詳しく記載すること)

※別表第2に定める書類を添付すること

試験に関する諸注意

1. 筆記試験の注意事項

- ①試験開始後、原則として入室限度時刻を超過した遅刻者は受験できない。
- ②試験開始後、原則として入室限度時刻までは退出できない。
- ③試験終了10分前以降は、退出できない。
- ④一度退出した者は、再び入室できない。
- ⑤受験中における私語及び物品の貸借は一切禁止する。
- ⑥机の上には筆記用具、時計（但し、計算、辞書、通信等の機能のある時計は禁止）、メガネ以外は置かないこと。
- ⑦携帯電話、スマートフォン、通信機能のある機器等を持っている者は、電源を切り、カバンの中に入れること。
- ⑧その他、試験監督者の禁止するものを持ち込んで서는ならない。

2. 不正行為について

(1) 試験における不正行為とは、次に掲げる行為をいう。

- ア. 参照を許されていない書籍、ノート、メモ、携帯電話等を試験中に参照すること。
- イ. 他人の答案をのぞき見ること。
- ウ. 答案を見せ合うこと。
- エ. 音声や動作等により解答に役立つ情報を伝え合うこと。
- オ. 机や下敷きなどに解答に役立つメモ等を残すこと。
- カ. 試験問題を試験前に不正に入手すること。
- キ. その他前記行為に類する行為。

(2) 参照を許されていない書籍、ノート、メモ、携帯電話等を試験中に机の下部棚などに置くことは、実際に参照したかどうかを問わず、不正行為と見なす。

(3) その他、不正行為に関する試験監督者の注意や指示に反する行為は、不正行為と見なす場合がある。

3. 不正行為を行った者に対する処分

試験において不正行為を行った者については、当該科目及び関連科目の試験を無効とし、進級又は卒業を停止する。不正行為が悪質であると判断された場合には、学則第41条による懲戒処分を行う。

暴風警報等発表時における授業の措置について

(平成26年1月8日 医学科・看護学科学務委員会等 決定)

台風等の接近に伴い奈良県北西部に「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表されたときの授業の取扱いは原則として次のとおりとする。

【共通事項】

- (1) 午前7時現在「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表されているときは、午前の授業は休講とする。
- (2) 午前11時までに「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が解除されたときは、午後の授業のみ行う。
- (3) 午前11時以降も「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が解除されないときは、当日の授業は休講とする。ただし、大学院は下記(7)によることとする。
- (4) 午前11時以降の授業時間中に「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表された場合は、当該授業終了後はすべて休講とし、速やかに帰宅させることとする。
 - ① 「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表された場合のクラブ活動等の課外活動は、禁止とする。
 - ② 「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表された場合の図書館及び自習室等の学内における学生の自習については、禁止とする。

【医学科】

- (5) 医学科の学内及び学外実習については、上記(1)～(4)を原則とし、当該実習施設の指導者の判断に基づき決定することとする。

【看護学科】

- (6) 看護学科の臨地実習については、原則上記(1)～(4)のとおりとする。ただし、学外で実習を行っている場合の措置については、当該実習担当教員が実習先の指導者と協議し、原則として実習を中止し帰宅させる。ただし、台風等の接近に伴い帰宅に危険が伴うことが想定される場合は、実習先で待機させる等の柔軟な対応を行うこととする。

【大学院】

- (7) 大学院については、午後4時までに「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が解除された場合は、午後6時以降の授業を行う。午後4時以降も解除されない場合は、終日休講とする。
- (8) 実習については、上記(6)に準ずるものとする。

*なお、状況によって警報発表の有無にかかわらず別段の決定を行うことがある。

地震発生等災害時における授業の措置について

地震発生等災害時における授業の取扱は原則として次のとおりとする。

1. 講義

- ①教育支援課が被害状況、交通機関の運行状況等の情報収集を行い医学部長に報告
- ②医学部長が①を確認し、授業の実施、今後の方針等を判断（必要に応じて看護学科長（看護学科長と連絡が取れない場合は、看護教育部長）と協議）
なお、医学部長と連絡が取れない場合は、事務局長が判断
- ③教育支援課は医学部長の判断を教務システム及び大学ホームページに掲載し、周知

休講とする判断の目安

○近鉄大阪線及び橿原線が同時に運休した場合

※ 交通機関の運休等により登校できない場合は、公欠扱いとする。

2. 実習

当該実習の担当教員、領域長及び指導者と協議し、必要に応じて実習を中止し帰宅させる。ただし、帰宅に危険が伴うことが想定される場合は、実習先で待機させる等の柔軟な対応を行うこととする。

※「暴風警報等発表時における授業の措置について」に準じる。

【災害等発生時 教育支援課 緊急連絡先】

- ① 0744-22-3051（大学代表番号）
- ② 0744-22-9844（教務係直通）
- ③ 0744-29-8805（入試・学生支援係直通）
- ④ 0744-29-8917（入試・学生支援係直通）

※係に関係なく、上記いずれかの番号にご連絡ください。

出席確認端末 (Early Bird) について

下記の講義室で講義が行われる際、出席管理システム端末 (Early Bird) で出席をとる場合があります。

1 Early Bird 導入教室

教養教育棟 第一～第四講義室、化学実習室、物理実習室
基礎医学棟 第一・第二講義室、生理・薬理・病理実習室、組織実習室、小講義室
臨床講義棟 第一・第二講義室
看護学科棟 第一～第三合同講義室、第一～第三講義室、情報科学室

2 操作手順

- ・出席確認端末 (Early Bird) では、授業開始前の 10 分間に学生証をかざした場合のみ「出席」と記録されます。(例) 1 時間目 (9:00 開始) の場合は 8:50～9:00
- ・出席管理端末 (Early Bird) に時刻が表示されている状態が正常な状態です。学生証をかざすことで、出席情報の登録を行います。
- ・端末に向かって右端に学生証をかざし、電子音が鳴り画面下部に「学籍番号」と「氏名」が表示されると読取り完了です。

3 注意事項

- ・出席確認方法は科目によって異なりますので、各教員の指示に従ってください。
- ・端末に記録が残されていない場合は欠席扱いになるので注意してください。
- ・学生証を忘れた場合は、欠席扱いとなるので注意してください。
- ・動作確認できない場合や操作に不安がある場合は、再度端末にカードをかざしてください。
- ・教務システム (Active Academy) の「修学ポートフォリオ」で各自の出席状況を確認できますが、実際の出席数を反映しているかどうかは、科目責任者に確認してください。
- ・なお、他人の学生証を端末に通す等の不正行為をすれば、学則第 41 条の規定により、けん責、停学又は退学処分の対象になるので十分注意してください。

〈参考〉奈良県立医科大学学則 (抜粋)

(懲戒処分)

第 41 条 学長は、学生がこの学則及びこの学則に基づく規程並びに学長の指示及び命令にそむき、学生の本分に反する行為があったとき、これに対し懲戒処分として、けん責、停学又は退学の処分をすることができる。ただし、退学の処分は、次の各号の一に該当する者に対してのみ行うことができる。

- 一 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- 二 学力劣行で成業見込がないと認められる者
- 三 正当の理由がなくて出席常でない者
- 四 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

健康管理

1) 学生相談

学生が、勉学上や生活上の相談をしたい場合は、学生生活相談担当教員へ申し出てください。

また、毎週1回、学生カウンセリングを実施しています（予約制）。申込みは教育支援課または、直接カウンセラーに連絡してください。教育支援課に申し込みする場合、希望のカウンセリング日を伝えてください。教育支援課担当がカウンセラーと日程調整を行います。なお、相談の内容の秘密は固く守られます。

2) 健康相談

学生が健康上の相談をしたい場合は、校医(内科)による健康相談を受けることができます。教育支援課又は健康管理センターに申込み、日程調整をしてください。

3) 健康管理

健康状態について、常に自己管理を心がけてください。登校中、又は学内において体調が思わしくない場合は、教育支援課に欠席を届け出たうえで早めに帰宅して静養するなり、医療機関を受診するなどしてください。帰宅が難しいほど不調の場合は、教育支援課に連絡し（5）の健康管理センターの指示に従ってください。

4) 定期健康診断

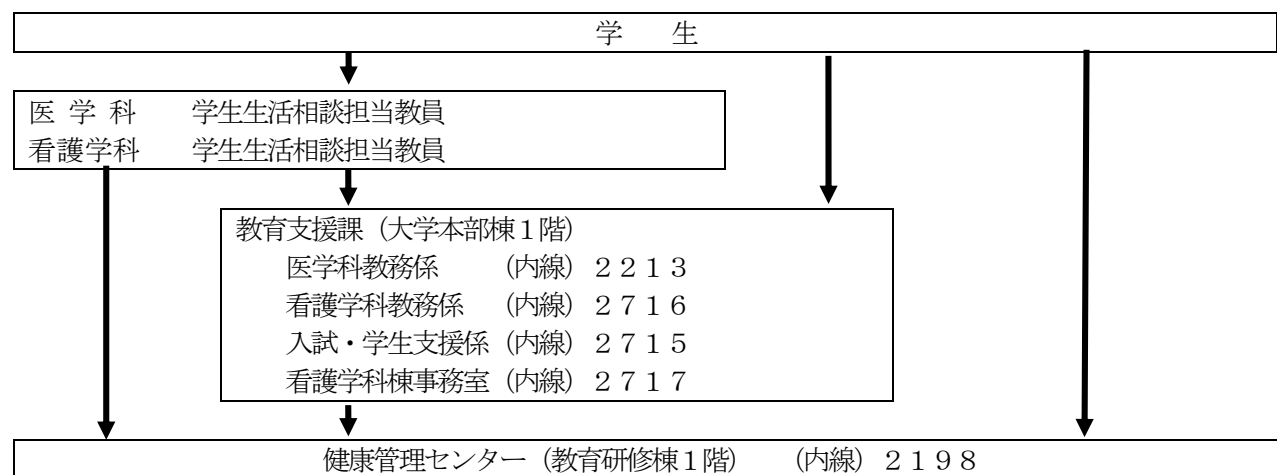
学校保健安全法により、定期健康診断の実施が義務付けられています。

各学年とも毎年1回、4月以降に実施する定期健康診断を受けなければなりません。定期健康診断を受診できなかった学生については、診断項目について自己責任で受診し（5）の健康管理センターに報告してください。

また、医学科1年生・編入2年生、看護学科1年生を対象に結核感染防止のためのIGRAs検査および麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘の4種感染症抗体価検査とB型肝炎抗原抗体検査を実施します。さらに、B型肝炎抗原抗体検査の結果、ワクチン接種対象とされた方にはB型肝炎ワクチン接種を実施します。

5) 健康管理センター

学内において緊急を要する怪我・発病等の場合は、下記により健康管理センターに連絡してください。応急対応やベッドでの休憩などが可能です。必要に応じて医療機関を紹介します。なお、健康保険証は常に携帯しておくことを勧めます。



6) 感染症対策

感染症の疾患にかかった場合、速やかに医療機関を受診し、教育支援課に連絡してください。診断が出るまでは登校を控え、診断が出た場合は医師の指示に従ってください。併せて、診断結果を教育支援課に連絡し、登校後に診断書を提出してください。

本学生が学内・学外において実習に出ようとするときは、受入施設によりワクチン接種を済ませていることを要件とする場合があります。実習に参加できない事態を避けるため、定期健康診断においてワクチン接種が必要とされた者は、必ずワクチン接種を済ませておいてください。

2020年度 第1学年 教養教育科目 時間割表

【前期】

	月					火					水					木					金				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
A クラス	有機化学	生物統計学 A	※1	医学・医療入門講座	※1	基礎物理学 I	基礎物理学演習 A	基礎生物学実験 A	基礎生物学実験 A	※1	分析化学	Academic English I	数学 I A	基礎生物学実験 B	数学 I 演習 A	教育実践論 A	スポーツ実践 I A	医療に関する倫理学 I A	※1	アソシア文化論 3 クラス	Academic English I	生命科学概論	哲学	健康科学	※2
B クラス		※1	生物統計学 B		基礎物理学 I	基礎物理学演習 B	数学 I B	数学 I 演習 B	基礎生物学実験 B	※1		Academic English I	基礎生物学実験 B	基礎生物学実験 B	基礎生物学実験 B	医療に関する倫理学 I B	教育実践論 B	スポーツ実践 I B	※1						

(※1) 補講候補日 (※2) Advanced Clinical English (希望者対象：16時40～18時10分)

前期授業期間：4月8日(水)～7月21日(火) 健康診断：5月1日(金) 13:00～14:15

追・再試験期間(医看合同)：8月4日(火)、5日(水) 追・再試験期間：9月1日(火)～4日(金)

祝日開講日：4月29日(水・祝) 次世代医療人育成論(集中講義)：9月7日(月)～11日(金)

前期試験期間：7月22日(水)～8月3日(月)

【後期】

	月					火					水					木					金					
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
A クラス	臨床心理学 A	行動科学 I	生命科学概論 2 クラス	医学・医療入門講座	※1	医用材料化学	基礎生物学 2 クラス	分子生物学	基礎化学実験 A	基礎化学実験 A	基礎物理学実験 A	基礎物理学実験 A	基礎物理学実験 A	基礎物理学実験 A	数学 II A	Academic English II	基礎物理学実験 A	基礎物理学実験 A	基礎物理学実験 A	基礎物理学実験 A	基礎物理学実験 A	基礎物理学実験 A	基礎物理学実験 A	基礎物理学実験 A	基礎物理学実験 A	※2
B クラス	臨床心理学 B				※1	基礎物理学 I	基礎物理学実験 B	基礎物理学実験 B	基礎物理学実験 B	基礎物理学実験 B	基礎物理学実験 B	基礎物理学実験 B	基礎物理学実験 B	基礎物理学実験 B	数学 II B	Academic English II	基礎物理学実験 B	基礎物理学実験 B	基礎物理学実験 B	基礎物理学実験 B	基礎物理学実験 B	基礎物理学実験 B	基礎物理学実験 B	基礎物理学実験 B	基礎物理学実験 B	※2

(※1) 補講候補日 (※2) Advanced Clinical English (希望者対象：16時40～18時10分)

後期授業期間：9月18日(金)～12月25日(金)、1月4日(月)～12日(火) 休業日：【大学共通試験準備】1月15日(金) 【医推薦入試準備】1月29日(金) PM、【前期入試】2月24日(水)～28日(金)、【後期入試】3月11日(木)、12日(金)

祝日開講日：11月23日(月・祝) 後期試験期間：1月18日(月)～29日(金) 奈良学(集中講義)：2月1日(月)～5日(金)

追・再試験期間：2月8日(月)～12日(金)

1限目	9:00～10:30	2限目	10:40～12:10	3限目	13:00～14:30	4限目	14:40～16:10	5限目	16:20～17:50
-----	------------	-----	-------------	-----	-------------	-----	-------------	-----	-------------

…必修科目

…選択科目

授業科目紹介

(教養教育科目)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	必修
担当教員			
藤本 雅文			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	一般教育目標：力学および波動に関わる自然現象を知る。このとき、自然は複雑であるが、複雑さの中に単純な法則が潜んでいることを認識する。また、このような法則が物理的な模型によって議論できることを理解し、その模型を自由に考察できる能力を養う。		
目標	到達目標：力学および波動に関わる以下の授業内容中の項目を説明でき、質点と剛体、仕事とエネルギー、振動と波動などの混同されやすい概念を対比できる。このとき、説明や対比を図で表現できる。また、数式やグラフを用いて、説明を数理的に示せる。		
評価方法	出席、ノート提出、定期試験の総合評価		
教科書・参考書	教科書 プリント配布 参考書 第5版「物理学基礎」 原康夫 著、学術図書		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 運動の法則：質点の運動	講義	藤本
	第2回 運動の法則：慣性の法則	講義	藤本
	第3回 運動の法則：運動方程式	講義	藤本
	第4回 運動の法則：作用反作用の法則、束縛力	講義	藤本
	第5回 運動の法則：摩擦力	講義	藤本
	第6回 運動の法則：慣性力	講義	藤本
	第7回 力学的エネルギーと角運動量：仕事とエネルギー、力学的エネルギーの保存則	講義	藤本
	第8回 力学的エネルギーと角運動量：保存力とポテンシャルエネルギー、力のモーメントと角運動量	講義	藤本
	第9回 力学的エネルギーと角運動量：中心力と角運動量の保存則、ケプラーの法則と万有引力	講義	藤本
	第10回 多質点、剛体および弾性体の力学：重心の運動方程式	講義	藤本
	第11回 多質点、剛体および弾性体の力学：剛体のつりあい、剛体の回転	講義	藤本
	第12回 多質点、剛体および弾性体の力学：剛体の運動	講義	藤本
	第13回 多質点、剛体および弾性体の力学：弾性体	講義	藤本

	第14回 振動と波動：単振動の合成、強制振動と共鳴	講義	藤本
	第15回 振動と波動：波動	講義	藤本
学生へのメッセージ等	講義を聞いているだけでは、十分な成果は得られない。配布されるプリントを参照しながら、自分のノートを作ってゆく。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
高木 拓明			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	一般教育目標：電磁気学に関わる自然現象を知り、その背後に普遍的な数理法則が存在することを理解する。医学や医療を学ぶ上でも重要となる電気・電子回路等の物理を身につける。		
目標	到達目標：電磁気学および電気・電子回路等に関する以下の授業内容項目を理解し、数式やグラフ等を用いて適切に説明できる。医学や医療との関連についても説明できる。		
評価方法	出席状況（受講態度含む）、ミニテスト、定期試験の総合評価		
教科書・参考書	教科書 必要に応じてプリント配布 参考書 物理の考え方2「電磁気学の考え方」 砂川重信 著、岩波書店 新版「医・生物学系のための電気・電子回路」 堀川宗之 著、コロナ社 「やっかいな放射線と向き合っていくための基礎知識」 田崎清明 著、朝日出版社		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 講義の概要	講義	高木
	第2回 電気回路：直流回路	講義	高木
	第3回 電気回路：交流回路	講義	高木
	第4回 電子回路：アナログ回路とデジタル回路	講義	高木
	第5回 温度計の物理	講義	高木
	第6回 放射線の物理	講義	高木
	第7回 顕微鏡とレーザーの物理	講義	高木
	第8回 電磁気学：近接作用と静電場	講義	高木
	第9回 電磁気学：電流の磁気作用と静磁場	講義	高木
	第10回 電磁気学：電流に働く磁場の力	講義	高木
	第11回 電磁気学：電磁誘導の法則	講義	高木
	第12回 電磁気学：変位電流とマクスウェル方程式	講義	高木
	第13回 電磁気学：マクスウェル方程式と電磁波	講義	高木
	第14回 医療とAI	講義	高木

	第15回 まとめ	講義	高木
学生へのメッセージ等	電気・電子回路の物理と電磁気学を骨子とした講義を行います。医学や医療との関連も具体的に紹介していく予定です。基礎物理学実験とも一部連動した講義にしますので、能動的に取り組んで理解を深めて下さい。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
藤本 雅文			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	(一般教育目標) 熱現象の理解という観点から重要になるエントロピーの概念を知り、熱現象を応用するにあたり重要になる自由エネルギーの考え方を理解する。		
目標	(到達目標) 1) 熱平衡状態と絶対温度の考え方が説明できる。 2) 熱力学の第一法則とは何であるか説明できる。 3) 熱力学の第二法則とエントロピーの意味が説明できる。 4) 自由エネルギーの考え方が説明でき、それを用いた応用計算が行える。 5) ボルツマンの原理とは何であるか説明できる。		
評価方法	出席(受講態度)、レポート提出、定期試験の総合評価		
教科書・参考書	教科書 プリント配布 参考書 物理学の考え方3「熱・統計力学の考え方」 砂川重信 著、岩波書店		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	熱力学とはどのような分野であるのか	講義	藤本
第2回	高校の物理の復習 1	講義	藤本
第3回	高校の物理の復習 2	講義	藤本
第4回	熱平衡状態	講義	藤本
第5回	熱と仕事とエネルギー	講義	藤本
第6回	完全微分と不完全微分	講義	藤本
第7回	熱力学の第一法則とその定式化	講義	藤本
第8回	カルノーサイクルと熱力学の第二法則	講義	藤本
第9回	エントロピーと熱力学第二法則の定式化	講義	藤本
第10回	自由エネルギー	講義	藤本
第11回	熱力学の応用	講義	藤本
第12回	量子力学の考え方	講義	藤本
第13回	ボルツマンの原理	講義	藤本

	第14回 マクスウェル・ボルツマンの分布	講義	藤本
	第15回 まとめとさらなる学習について	講義	藤本
学生へのメッセージ等	高校の物理の復習から議論を始める予定である。 高校物理の学習経験のあるなしにかかわらず、意欲のある人はふるって参加して下さい。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	1	必修
担当教員			
藤本 雅文, 高木 拓明, 山田 壮平			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	一般教育目標：基礎物理学 I の一般教育目標を念頭に置いて、基礎物理学 I の講義内容に即した演習問題を考察する。同時に、物理学と密接に関連した数学的手法を知る。数学的手法の有用性を理解し、それらを自由に使用する能力を涵養する。		
目標	到達目標：物理学と密接に関連した数学的手法である以下の授業内容中の項目を説明できる。また、具体的な演習問題について、数学的手法を使用できる。そのとき、図、式およびグラフを用いた数理的な説明を実演することができる。		
評価方法	出席、小テスト、定期試験（基礎物理学Iと共通）の総合評価		
教科書・参考書	教科書 プリント配布 参考書 第5版「物理学基礎」 原康夫 著、学術図書		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 微分と不定積分	演習	高木/藤本/山田
	第2回 ベクトル	演習	高木/藤本/山田
	第3回 定積分	演習	高木/藤本/山田
	第4回 変数分離形の微分方程式	演習	高木/藤本/山田
	第5回 定係数の2階線形微分方程式	演習	高木/藤本/山田
	第6回 座標変換	演習	高木/藤本/山田
	第7回 線積分	演習	高木/藤本/山田
	第8回 偏微分	演習	高木/藤本/山田
	第9回 平面極座標	演習	高木/藤本/山田
	第10回 相対座標	演習	高木/藤本/山田
	第11回 体積積分（球対称）	演習	高木/藤本/山田
	第12回 体積積分（軸対称）	演習	高木/藤本/山田
	第13回 表面積分（球対称）	演習	高木/藤本/山田
	第14回 フーリエ級数	演習	高木/藤本/山田

	第15回 偏微分方程式	演習	高木/藤本/山田
学生へのメッセージ等	演習を見ているだけでは、十分な成果は得られない。演習中に示される演習問題を自分のノートで解いてゆく。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	1	必修
担当教員			
藤本 雅文, 高木 拓明, 中村 元彦, 常田 琢, 松下 勝義			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	(一般教育目標) 物理現象についての実験を行い、力学、波動、熱などに関する物理法則を知る。同時に、基本的な測定機器の取り扱いや測定結果の解析法を理解する。		
目標	(到達目標) 1) 正規分布、分散と誤差、最小二乗法について説明でき、それを用いて測定結果の解析ができる。 2) オシロスコープ、分光光度計、ガイガー計数管など、基本的な測定機器の操作が正しく行える。 3) 以下のことがらについて説明できる： 1. 光の干渉、反射、吸収のしくみ、および色、補色の関係 2. 音波、超音波の性質、および感覚の対数目盛 3. 熱、温度の測定法、相転移とはどのようなものか 4. 放射能、放射線とはなんであるか 5. 光量子仮説、物質波、粒子と波動の二重性とボーアの原子模型 6. 金属、絶縁体、半導体の違い、およびダイオード、トランジスタのしくみ		
評価方法	出席、結果報告、試験、レポート提出の総合評価		
教科書・参考書	教科書 プリント配布 参考書 第4版「物理学基礎」 原康夫 著、学術図書		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 A マイクロコンピュータ：中心極限定理と誤差の法則	実験	上記より4名の教官
	第2回 B ヤング率の測定：最小二乗法を用いた測定値の解析	実験	上記より4名の教官
	第3回 C 光の吸収と吸収スペクトル	実験	上記より4名の教官
	第4回 D マイケルソン干渉計、光の回折と干渉	実験	上記より4名の教官
	第5回 E 空気中の音速測定、音の振動数	実験	上記より4名の教官
	第6回 F 超音波	実験	上記より4名の教官
	第7回 G 空気の比熱比の測定、冷却法による液体の比熱測定	実験	上記より4名の教官
	第8回 H 金属および半導体の電気抵抗	実験	上記より4名の教官
	第9回 I 合金の熱解析	実験	上記より4名の教官
	第10回 J 自然放射能の計測	実験	上記より4名の教官
	第11回 K 電子の比電荷測定、電子線の回折	実験	上記より4名の教官
	第12回 L フランク・ヘルツの実験、プランク定数の測定	実験	上記より4名の教官

	第13回 M オシロスコープ	実験	上記より4名の教官
	第14回 N トランジスタの特性、ホール効果	実験	上記より4名の教官
	第15回 各自が行うテーマ、3、4名の班に分かれて行うテーマがある。 週ごとにテーマを指定し、試験を含め10週の授業を行う。		
学生へのメッセージ等	<p>基本的な測定機器の取り扱い方、データの記録及び解析法、レポートの作成法等は、物理を専門とするしないにかかわらず重要なことである。本実験科目ではこれらを重視する。これらの点を身につけるには、実際に自分自身で操作してみる、計算してみる、まとめてみる、といったことについて積極的に取り組む姿勢が不可欠であり、更に、くり返し行う必要がある。授業に出席することはもちろんのこと、より積極的な姿勢で取り組んでもらいたい。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	必修
担当教員			
酒井 宏水			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	ライフサイエンス全般の研究の手段として、さらには診断のための必要情報を得る手段として、様々な分析技術が用いられている。本講義では、物質を構成する原子、分子の構造と性質について物理化学の基本概念についての知識を習得するとともに、主要な機器分析法についてその測定原理や、操作手法などについて知識を習得する。		
目標	化学を基盤とする様々な分析手法の原理と得られる情報、ライフサイエンスへの貢献を説明することができる。		
評価方法	定期試験、出席状況、レポート提出、受講態度の総合評価		
教科書・参考書	教科書 「生命科学のための分析化学」 (化学同人) プリント配布 参考書		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 ライフサイエンスに必要な分析化学 (1)	講義	酒井
	第2回 ライフサイエンスに必要な分析化学 (2)	講義	酒井
	第3回 酸塩基平衡と生命との関わり	講義	酒井
	第4回 分光光度法 (紫外可視、蛍光、燐光)	講義	酒井
	第5回 分光光度法 (赤外線)	講義	酒井
	第6回 ESR法、NMR法	講義	酒井
	第7回 光学顕微鏡、電子顕微鏡	講義	酒井
	第8回 原子吸光分析、プラズマ発光分光分析、電気化学的測定法	講義	酒井
	第9回 ガスクロマトグラフィー、液体クロマトグラフィー	講義	酒井
	第10回 電気泳動、核酸分析	講義	酒井
	第11回 酵素活性測定法、酵素結合免疫測定法	講義	酒井
	第12回 質量分析法	講義	酒井
	第13回 同位体分析法	講義	酒井
	第14回 臨床検査における分析化学の役割	講義	山崎正晴 (中央臨床検査部)・酒井

	第15回 分析化学の総括	講義	酒井
学生へのメッセージ等	医学を極めれば極めるほど、化学の重要性に気づきます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	必修
担当教員			
松平 崇			
添付ファイル			

教育スタッフ	松平 崇		
概要	ヒトの体は炭素骨格を基本とした有機化合物で構成されている。生体内の反応のほとんどすべては有機化学反応であり、有機化学の原理に従って進行する。従って、生体内で進行する複雑な反応を根本から理解するためには、有機化学の知識が不可欠である。本科目では、医学専門教育に関連する種々の学問の基礎となる、有機化学の基本的な考え方を習得する。		
目標	1) 有機化合物の構造を説明できる。 2) 有機化学反応の反応機構を説明できる。 3) 生命科学に関連する基本的な有機化合物の性質を説明できる。		
評価方法	定期試験（筆記）、出席、小テスト		
教科書・参考書	教科書 川井正雄著「生命を知るための基礎化学—分子の目線でヒトを見る」（丸善出版，2012） 他に、プリントを配布する。 参考書 化合物命名法（東京化学同人，2011） モリソンボイド 有機化学（上、中、下巻）（東京化学同人，1994） 生体分子の化学（化学同人，2002）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 ガイダンス （なぜ有機化学が必要なのか） 原子の構造 （ヒトの体を構成する主な元素、電子配置と原子軌道）	講義	松平
	第2回 有機化合物の分子軌道 （共有結合の本質、炭素の混成軌道と分子の形の関係）	講義	松平
	第3回 有機酸と有機塩基 （酸と塩基の強さの指標(pKa)、置換基効果）	講義	松平
	第4回 有機化合物のIUPAC命名法 （系統名から構造式を導く）	講義	松平
	第5回 鏡像異性体とジアステレオマー （立体配置の表し方、立体異性体の性質の違い）	講義	松平
	第6回 有機化合物のコンホメーション変化 （ブタン、シクロヘキサン、生体分子のコンホメーション）	講義	松平
	第7回 有機化学反応の機構 （反応機構の表し方、ラジカルとカチオンの化学反応）	講義	松平
	第8回 生体を構成するカルボニル化合物 （脂肪、脂肪酸の一般的な性質と加水分解反応）	講義	松平
	第9回 触媒作用 （触媒作用の機構、求核性と求電子性）	講義	松平
	第10回	講義	松平

	カルボン酸エステルの化学反応 (リボソームにおけるタンパク質合成、環状エステルの化学) アルデヒド・ケトンが生成する酸化還元反応 (ヒドリド還元、生体内(in vivo)と試験管内(in vitro)での化学反応)		
	第11回	講義	松平
	単糖の構造と水溶液中での化学平衡 (糖の鎖状構造と環状構造、アルデヒド・ケトンと主要な官能基との化学反応)		
	第12回	講義	松平
	糖質の化学 (単糖と多糖の種類と構造、単糖の化学平衡、糖に特有の化学反応) アミノ酸の化学 (アミノ酸の化学構造と性質による分類)		
	第13回	講義	松平
	タンパク質の化学 (アミド結合・ペプチド結合の性質と化学合成)		
	第14回	講義	松平
	核酸の化学 (DNAとRNAの構造と化学的性質の違い、核酸の化学反応と突然変異)		
	第15回	講義	松平
	有機合成化学 (炭素-炭素結合を形成する反応が化学工業分野や医薬品開発にもたらした恩恵とは?)		
学生へのメッセージ等	医学を学び、細胞、組織、臓器などを扱うようになると、ヒトの体は原子、分子、イオンで構成されているという自明の事実は忘れ去られてしまいがちです。生体が示す複雑な挙動の本質を理解するためには、分子レベルで構造と性質との関係を探求する必要があります。有機化学の講義は、そのための知識や思考を身につける助けとなるでしょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
山本 惠三			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	生体内の反応を理解するためには、生体を構成する分子の化学的性質や反応性を理解することが重要である。本講義では、特にタンパク質と糖に焦点を当て、化学的構造、反応性、速度論的解釈、研究手法等を理解することを目的とする。		
目標	1) 生体高分子と合成高分子の化学的相違を理解できる。 2) タンパク質の基本的な構造と機能を説明できる。 3) 炭水化物の基本的な構造と機能を説明できる。 4) 化学反応の反応速度や速度式を説明できる。 5) 酵素反応の反応速度や速度式を説明できる。 6) タンパク質とリガンドの相互作用を解釈できる。 7) 生体分子の研究方法を理解できる。		
評価方法	定期試験、出席状況、受講態度の総合評価		
教科書・参考書	教科書 プリントを配布します。 参考書 有坂 文雄 蛋白質科学入門 (裳華房) ボルハルト、ショアー 現代有機化学 (化学同人) 大西 正健 酵素反応速度論入門 (学会出版センター) Lehninger Principles of Biochemistry (W. H. Freeman and Company)		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	授業の方針、生体高分子と合成高分子 (分子量からみた生体高分子と合成高分子の違い)	講義	山本
第2回	生体分子の立体化学 (enantiomerの化学)	講義	山本
第3回	タンパク質の化学的構造 1 (タンパク質の1～4次構造)	講義	山本
第4回	タンパク質の化学的構造 2 (タンパク質の構造を安定化する相互作用)	講義	山本
第5回	糖の構造と化学反応 (糖に対する化学反応と構造決定)	講義	山本
第6回	化学反応の速度論 (1次、2次反応と反応速度定数の求め方)	講義	山本
第7回	酵素反応の速度論 1 (Michaelis-Mentenの式、酵素学的パラメーター)	講義	山本
第8回	酵素反応の速度論 2 (酵素反応の現代的解釈)	講義	山本
第9回	阻害剤が存在する場合の酵素反応の速度論 (阻害剤が存在するときのMichaelis-Mentenの式)	講義	山本
第10回	リガンドの結合に対する物理化学的解釈 (リガンドの結合部位の数と結合数との関係式)	講義	山本
第11回	モレキュラークラウドニング (細胞内の状態の化学的解釈) 化学史	講義	山本
第12回		講義	山本

	生体分子を見る方法 (細胞・タンパク質を見る手法)		
	第13回 機能を持つタンパク質を得る方法 (タンパク質研究法)	講義	山本
	第14回 自主研究発表 (生体分子研究に関するトピックスについて調べ、発表する)	演習	山本
	第15回 演習 (演習を通じて理解を深める)	演習	山本
学生へのメッセージ等	生体分子を化学的に理解することは、将来基礎医学を学ぶ基礎となるとともに、医学研究を行うための基礎となります。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
酒井 宏水			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	医用材料・人工臓器として使われている汎用性材料、高機能材料、研究開発が進められている材料について、化学の視点から構造、物性、生体適合性に関する知識を習得する。医用材料の実物を目で見、手で触り、特徴を実感する。		
目標	どのような医用材料が臨床現場で使われており、それがどのような物質から構成されているか、必要とされる物性、機能とその仕組み、安定性、安全性について説明することができる。また医用材料の技術的課題、経済的課題、開発における課題を説明することができる。		
評価方法	定期試験、出席状況、受講態度の総合評価		
教科書・参考書	教科書 プリント配布 参考書 堀内孝、村林俊 著 「医用材料工学」 コロナ社 橋田充 監修 「図解で学ぶDDS」 じほう		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 講義の概要 医用材料（無機材料）	講義	酒井
	第2回 医用材料 （高分子材料）	講義	酒井
	第3回 医用材料 （生体高分子材料）	講義	酒井
	第4回 医用材料として用いられる高分子の合成と基本物性	講義	酒井
	第5回 人工臓器として用いられる医用材料 （人工骨、人工関節、人工歯根など）	講義	酒井
	第6回 人工臓器として用いられる医用材料 （人工心臓、人工血管、人工透析など） 臓器移植-人工臓器-再生医療	講義	酒井
	第7回 人工臓器として用いられる医用材料 （アフェレシス、人工膵臓、インターフェース材料など）	講義	酒井
	第8回 臨床外科手術現場における医用材料の使用法の実例	講義	酒井 早田義宏（心臓血管外科）
	第9回 医用材料に求められる生体適合性 （生体側の変化、材料側の変化）	講義	酒井
	第10回 医用材料の滅菌操作法、ウィルス不活化・除去法	講義	酒井
	第11回 ドラッグデリバリーシステム(DDS)に使用される材料	講義	酒井
	第12回 リポソーム（1）疎水性相互作用とリポソームの形成、機能	講義	酒井
	第13回 リポソーム（2）ドラッグデリバリーシステムへの応用	講義	酒井

	第14回	献血-輸血システムの課題：様々な血液成分とその代替物材料	講義	酒井
	第15回	医用材料化学の総括	講義	酒井
学生へのメッセージ等	先進的医療技術を深く理解するには化学が不可欠です。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	1	必修
担当教員			
山本 恵三, 松平 崇, 久禮 智子, 山田 孫平			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	医学専門科目の実習の準備として、実験方法の基礎を身につける。講義や実技を通じて器具や装置の正しい使い方を習得し、実験に臨む態度を身につけるとともに、ノートとレポートの提出を行い、実験記録の取り方、結果のまとめ方を学習する。		
目標	1) 実験を安全に行うために必要な知識を有し、危険を予測して行動できる。 2) 化学的思考に基づき、実験計画を立てて実験を遂行できる。 3) 陽イオンを分族、同定できる。 4) 実験で用いる基本的な器具や装置の名称と原理を理解し、正しく取り扱うことができる。 5) 秤量、希釈、滴定、分光分析などの基本的な実験操作を行うことができる。 6) 測定結果の統計学的解析ができる。 7) 実験ノートおよびレポートの書き方を習得する。		
評価方法	実験ノート50% (定性実験) , レポート50% (定量実験) ただし、出席、授業態度による加減点あり		
教科書・参考書	教科書 プリントを配布する 参考書 実験を安全に行うために (化学同人) クリスマン分析化学 I 基礎 (丸善) Introduction To Semimicro Qualitative Analysis (Prentice Hall, Inc.)		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 定性実験ガイダンス	講義	山本、松平、久禮、山田
	第2回 無機陽イオン定性分析 I 族金属イオンの分離・同定	実習	山本、松平、久禮、山田
	第3回 実験記録演習	講義	山本、松平、久禮、山田
	第4回 無機陽イオン定性分析 II 族金属イオンの分離・同定	実習	山本、松平、久禮、山田
	第5回 無機陽イオン定性分析 III 族金属イオンの分離・同定	実習	山本、松平、久禮、山田
	第6回 実技試験 未知試料中に含まれる金属イオンの分離、同定	実習	山本、松平、久禮、山田
	第7回 実技試験 (再試験)	実習	山本、松平、久禮、山田
	第8回 定量実験ガイダンス	講義	山本、松平、久禮、山田
	第9回 定量実験の基本操作 器具、装置の使い方	実習	山本、松平、久禮、山田
	第10回 中和滴定 滴定結果の統計処理	実習	山本、松平、久禮、山田
	第11回 中和滴定 逆滴定と未知試料の濃度定量	実習	山本、松平、久禮、山田
	第12回 pH測定 pH滴定曲線の作成と電離定数の決定	実習	山本、松平、久禮、山田

	第13回	pH測定 緩衝液の調製と緩衝能の比較	実習	山本、松平、 久禮、山田
	第14回	分光分析 モル吸光係数の測定	実習	山本、松平、 久禮、山田
	第15回	分光分析 擬一次反応速度定数の測定	実習	山本、松平、 久禮、山田
	第16回	*注：10～15はローテーションを組んで実験を行うので、順番は前後します。		
学生へのメッセージ等	化学実験で習得する手法は、専門科目の実習や医学研究を行うための基礎となります。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	教養教育	4	必修
担当教員			
永渕昭良			
添付ファイル			

教育スタッフ	前期：永渕昭良 後期：永渕昭良、小林千余子、裏山悟司、後藤浩爾		
概要	【前期】（一般目標） 細胞生物学の基本用語を習得し、生命活動の様式を分子・細胞レベルで理解する能力を身につける。 【後期】（一般目標） 永渕・小林・裏山：細胞生物学の基本現象を理解し、それを説明する能力を身につける。 後藤：遺伝学、分子生物学の基本概念を習得し、それらがどのような研究によって生み出されてきたのかを理解する。単なる知識の習得に止まらず、生物学の発想や研究手法、論理展開の手法を学ぶ。科学英語に触れ、原著論文の読み方を習得する。		
目標	【前期】（到達目標） 生体を構成する成分の構造と、生体での機能を説明することができる。 複製、転写、翻訳、ATP産生、膜電位、情報伝達、アポトーシス、がんの概略を説明することができる。 【後期】（到達目標） 永渕・小林・裏山：複製、転写、翻訳、細胞周期、ATP産生、膜電位という基本現象に関する問題を理解・解答することができる。 後藤：遺伝学、分子生物学の理解を深め、そこから発展してきたバイオテクノロジーについて論理的に説明できるようになる。英語原著論文を読み、その内容を理解できる。		
評価方法	【前期】 定期試験、出席状況、受講態度の総合評価 【後期】 永渕・小林・裏山：定期試験、出席状況、受講態度の総合評価 後藤：定期試験、小テスト（数回実施）、出席状況、受講態度の総合評価とする。		
教科書・参考書	教科書 【前期】 Essential細胞生物学 最新版 南江堂（現時点では原著第4版 2016年） プリント配布 【後期】 永渕・小林・裏山：Essential細胞生物学 最新版 南江堂 プリント配布 後藤：キャンベル生物学 原書11版（原書/日本語版）（購入の必要はない）プリント配布。 参考書 【前期】 細胞の分子生物学 最新版 【後期】 永渕・小林・裏山 細胞の分子生物学 最新版 後藤 ワトソン遺伝子の分子生物学 原書第7版（原書/日本語版）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 ガイダンス 生物学学習の意味	講義	永渕
	第2回 タンパク質の構成因子と構造	講義	永渕
	第3回 複製の基本原理	講義	永渕
	第4回 転写の基本原理	講義	永渕
	第5回 翻訳の基本原理	講義	永渕
	第6回 生体膜の構成因子と構造	講義	永渕
	第7回 細胞骨格とモーター関連因子と基本機能	講義	永渕
	第8回 生体における化学変化	講義	永渕
	第9回	講義	永渕

	細胞内区画の基本機能とATP産生の基本原理		
第10回	これまでのまとめと演習問題	講義	永淵
第11回	細胞周期の基本原理	講義	永淵
第12回	細胞接着関連因子と基本機能	講義	永淵
第13回	膜電位の基本原理	講義	永淵
第14回	情報伝達の基本原理	講義	永淵
第15回	細胞生物学から見たがん	講義	永淵
第16回	複製の理解 1 / 遺伝学、分子遺伝学、分子生物学の概要	講義	永淵・小林・裏山 / 後藤
第17回	複製の理解 2 / 遺伝の法則 1 (メンデルの法則と遺伝学の基本原理)	講義	永淵・小林・裏山 / 後藤
第18回	転写制御の理解 / 遺伝の法則 2 (実際の遺伝様式-メンデルの法則の拡張)	講義	永淵・小林・裏山 / 後藤
第19回	スプライシングの理解 / 染色体と遺伝 1 (染色体の構造と遺伝子)	講義	永淵・小林・裏山 / 後藤
第20回	複製・転写・翻訳のまとめ / 染色体と遺伝 2 (DNAマーカーと遺伝子同定)	講義	永淵・小林・裏山 / 後藤
第21回	クロマチンとDNA修復 / 遺伝の分子機構 1 (遺伝子とDNA)	講義	永淵・小林・裏山 / 後藤
第22回	翻訳の理解 1 / 遺伝の分子機構 2 (遺伝子構造と遺伝子発現)	講義	永淵・小林・裏山 / 後藤
第23回	翻訳の理解 2 / 遺伝の分子機構 3 (遺伝子の発現制御機構)	講義	永淵・小林・裏山 / 後藤
第24回	細胞周期の理解 1 / 遺伝学と発生学 (遺伝子発現プログラムと発生)	講義	永淵・小林・裏山 / 後藤
第25回	細胞周期の理解 2 / 分子生物学とバイオテクノロジー 1 (DNAの増幅と遺伝子クローニング)	講義	永淵・小林・裏山 / 後藤
第26回	ATP産生の理解 / 分子生物学とバイオテクノロジー 2 (DNAの塩基配列決定法など)	講義	永淵・小林・裏山 / 後藤
第27回	膜電位の理解 1 / 分子生物学とバイオテクノロジー 3 (バイオテクノロジーの実際と問題)	講義	永淵・小林・裏山 / 後藤
第28回	膜電位の理解 2 / ゲノムと発生、進化	講義	永淵・小林・裏山 / 後藤
第29回	達成度評価 / 遺伝学、分子生物学に関する論文演習 (英語原著)	講義	永淵・小林・裏山 / 後藤

	論文を読む)		
	第30回 総復習と解説／まとめとグループワーク	講義	永淵・小林・裏山 ／後藤
学生へのメッセージ等	<p>【前期】 医学の基礎として、また一般教養として重要な生物学の基礎を確実に習得してください。</p> <p>【後期】 永淵・小林・裏山：生物学の基礎を問題を解くことにより、確実に理解してください。 後藤：生物学は医学の基礎となる学問です。生物学を体系的に学ぶと共に、科学的根拠に基づいて論理的に思考することを身につけてください。</p>		

講義科目名称： 分子生物学

授業コード： I181120

英文科目名称： Molecular Biology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
永渕 昭良			
添付ファイル			

教育スタッフ	永渕 昭良		
概要	(一般目標) 生物の複雑な現象を理解するために必要な用語を習得し、複雑な生命活動の様式を分子の言葉で理解し、説明する能力を身につける。		
目標	(到達目標) クロマチンの構造と機能、DNA修復の機構と意義、細胞骨格や細胞接着、細胞周期、情報伝達、アポトーシスの複雑な制御機構、細胞内小胞輸送の原理と意味、を説明することができる。 がん細胞の起源やふるまいを、細胞生物学的、分子生物学的観点から説明することができる。		
評価方法	定期試験、出席状況、受講態度の総合評価		
教科書・参考書	教科書：Essential細胞生物学 最新版 南江堂（現時点では原著第4版 2016年） プリント配布 参考書：細胞の分子生物学 最新版		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 クロマチンの構造と機能	講義	永渕
	第2回 DNA修復の基本原則	講義	永渕
	第3回 細胞骨格とモーターの複雑な機能	講義	永渕
	第4回 細胞周期の複雑な調節機構	講義	永渕
	第5回 細胞間接着の複雑な機能	講義	永渕
	第6回 細胞基質間接着の複雑な機能	講義	永渕
	第7回 細胞内区画の複雑な機能	講義	永渕
	第8回 小胞輸送の複雑な制御機構	講義	永渕
	第9回 エキソサイトーシス・エンドサイトーシスの制御機構と役割	講義	永渕
	第10回 情報伝達—GPCRと酵素共役型	講義	永渕
	第11回 情報伝達—サイトカインと形態形成	講義	永渕
	第12回 アポトーシスの制御機構	講義	永渕
	第13回 がん遺伝子とがん抑制遺伝子	講義	永渕
	第14回 がんの複雑さ	講義	永渕
第15回	講義	永渕	

	後期生命科学概論で用いた問題の解説		
学生へのメッセージ等	生物の不思議と複雑さを理解し、全体像を把握してください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
小林 千余子, 永渕 昭良			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	(一般目標) 最近の驚異的な生命科学の発展により、いまや生命科学の理解なしに「いのち」を理解することは出来ない。生命科学に関する基礎知識を習得し、「生きているしくみ」を細胞および分子レベルで理解する能力を養う。		
目標	(到達目標) 1) 遺伝子のはたらきについて、概略を説明することができる。 2) 生殖と発生について、概略を説明することができる。		
評価方法	定期試験、出席状況、小テスト、課題の総合評価		
教科書・参考書	教科書 Essential 細胞生物学 最新版, 高校教科書 基礎生物 生物, プリント配布 参考書 「細胞の分子生物学」最新版 ニュートンプレス		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	クラス分けテスト	講義	小林
第2回	生物と細胞、生体を構成する物質	講義	小林
第3回	生物と遺伝子、ゲノム	講義	小林
第4回	遺伝情報の分配	講義	小林
第5回	DNAの複製	講義	小林
第6回	遺伝情報の転写	講義	小林
第7回	遺伝情報の翻訳	講義	小林
第8回	遺伝子の発現調節	講義	小林
第9回	バイオテクノロジー 基礎編	講義	小林
第10回	バイオテクノロジー 応用編	講義	小林
第11回	生殖と減数分裂	講義	小林
第12回	配偶子形成	講義	小林
第13回	受精と発生	講義	小林

	第14回 再生現象 再生医療技術	講義	小林
	第15回 まとめ	講義	小林
学生へのメッセージ等	<p>高校で生物学を履修していない学生を対象に、高校レベルからはじめ、基礎医学履修への橋渡しをする。基礎生物学では、講義第1回目に実施するテスト結果に基づいて、小林担当、裏山担当の2クラスに分ける。基礎生物学の受講を希望する学生は、第1回目のクラス分けテストを必ず受験すること。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
裏山 悟司			
添付ファイル			

教育スタッフ	裏山 悟司		
概要	(一般目標) 生命の捉え方・生命活動の様式について、専門教育課程で学ぶための基礎知識を習得することを目的とする。		
目標	(到達目標) 1) 細胞、タンパク質、DNAといった生物学の基本的な用語の意味を説明できる。 2) 生物学の基本的な用語を用いて、生命現象について説明できる。		
評価方法	定期試験、出席状況、小テスト、中テスト、課題の総合評価 ※毎回の小テストが非常に重要です。		
教科書・参考書	<p>教科書 特に指定しないが、参考図書のを1冊読破することを推奨する。詳しくは第二回の授業で言及する。 ※なお、Essential 細胞生物学 原書第4版 / 中村桂子 松原謙一 監訳 / 南江堂、の内容を必要に応じて取り扱うので持参することが望ましい；こちらは生命科学概論(必修;授業コード; I27013)のテキストになっている。</p> <p>参考書 ・高校の基礎生物、生物の教科書全般 ・生物学・細胞生物学 第3版 / 和田勝 著 / 羊土社 ・やさしい基礎生物学 第2版 / 南雲保 著 / 羊土社 ・理系総合のための生命科学 第4版 / 東京大学生命科学教科書編集委員会 編 / 羊土社 ・スター生物学 / 八杉貞雄 監訳 / 東京科学同人</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2020年9月29日 (火) クラス分けテスト	講義	裏山
	第2回 2020年10月6日 (火) 授業方針説明 / 細胞と分子 I	講義	裏山
	第3回 2020年10月13日 (火) 細胞と分子 II	講義	裏山
	第4回 2020年10月20日 (火) DNAの構造と機能 I	講義	裏山
	第5回 2020年10月27日 (火) DNAの構造と機能 II	講義	裏山
	第6回 2020年11月10日 (火) 遺伝子発現とその調節	講義	裏山
	第7回 2020年11月17日 (火) エネルギーと代謝	講義	裏山
	第8回 2020年11月24日 (火) エネルギーの獲得と放出	講義	裏山
	第9回 2020年12月1日 (火) 細胞の増殖	講義	裏山
	第10回 2020年12月8日 (火) 遺伝の様式	講義	裏山
	第11回 2020年12月15日 (火) 生物工学	講義	裏山
	第12回 2020年12月22日 (火) 外部環境の認識と内部環境の調節	講義	裏山

	第13回	2021年1月5日（火） 免疫	講義	裏山
	第14回	2021年1月12日（火） 神経系と感覚器官	講義	裏山
	第15回	まとめ 補講で対応のため、日時未定	講義	裏山
学生へのメッセージ等	<p>1. 高校生物非履修者を対象とした基礎的な授業を、大学生物学の初歩的な教科書を用いて行う（高校で採用されている分野については、高校生物よりも浅い説明である場合が多い）。高校生物履修者など、基礎的な生物学の知識を既に身につけている学生は、本講義と同じ時間に開講されている分子生物学(授業コード; 125015)の受講を強く勧める。</p> <p>2. 基礎生物学では、講義第1回目に実施するテスト結果に基づいて、裏山担当、小林担当の2クラスに分ける。基礎生物学の受講を希望する学生は、第1回目のクラス分けテストを必ず受験すること。</p> <p>3. 学生の習熟度をみつつ授業進行を行うので、状況により、シラバスと実際の進行速度、および順序が異なる場合がある。</p>			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	1	必修
担当教員			
永渕 昭良			
添付ファイル			

教育スタッフ	永渕昭良、小林千余子、裏山悟司、川島牧、秋山康子		
概要	(一般目標) 生物学に関する一般的な知識、および基礎実験の手法と考え方を身につける。		
目標	(到達目標) 1) 光学顕微鏡を正しく扱うことができる。 2) 植物細胞の染色を行い、体細胞分裂の各段階を見分けることができる。 3) 原形質分離を判定し、細胞の浸透圧を求めることができる。 4) 血球の塗抹標本を作成し、それぞれの血球を見分けることができる。 5) 動物の各種組織の構造と細胞形態の特徴を示し、それぞれのはたらきを説明できる。 6) パワーポイントを用いた資料作成、および発表ができる。 7) 分子生物学実験に使用する機器の名称と使用法を説明できる。 8) 塩基配列情報をフリーソフトを用いて解析できる。 9) 制限酵素処理、電気泳動の原理を説明し、実際に行うことができる。 10) PCR反応の原理を説明し、実際に行うことができる。 11) シークエンス反応の原理を説明し、データの解析を行うことができる。 12) cDNAとゲノムDNAの違いを説明することができる。		
評価方法	レポート、出席状況、受講態度の総合評価		
教科書・参考書	教科書：プリントを配布する。 参考書：授業中に紹介する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 オリエンテーションⅠ	実習	全教員
	第2回 オリエンテーションⅡ	実習	全教員
	第3回 光学顕微鏡観察Ⅰ 光学顕微鏡の使い方講習	実習	全教員
	第4回 光学顕微鏡観察Ⅱ 腎臓の切片(ハツカネズミ)の観察	実習	全教員
	第5回 光学顕微鏡観察Ⅲ 動物細胞、植物細胞の観察①	実習	全教員
	第6回 光学顕微鏡観察Ⅳ 動物細胞、植物細胞の観察②	実習	全教員
	第7回 光学顕微鏡観察Ⅴ 植物細胞の浸透圧変化の観察①	実習	全教員
	第8回 光学顕微鏡観察Ⅵ 植物細胞の浸透圧変化の観察②	実習	全教員
	第9回 光学顕微鏡観察Ⅶ 植物細胞の浸透圧変化の観察③	実習	全教員
	第10回 光学顕微鏡観察Ⅷ 血球の観察①	実習	全教員
	第11回 光学顕微鏡観察Ⅸ 血球の観察②	実習	全教員
	第12回 光学顕微鏡観察Ⅹ 脊椎動物の組織切片の観察①	実習	全教員

	第13回	光学顕微鏡観察XI 脊椎動物の組織切片の観察②	実習	全教員
	第14回	資料作成 I 本実習内容に関する発表資料作成①	実習	全教員
	第15回	資料作成 II 本実習内容に関する発表資料作成②	実習	全教員
	第16回	発表 I 資料作成 I・IIで作成した資料の発表 I	実習	全教員
	第17回	発表 II 資料作成 I・IIで作成した資料の発表 II	実習	全教員
	第18回	分子生物学実験 I 実験機器の名称と使用法の把握①	実習	全教員
	第19回	分子生物学実験 II 実験機器の名称と使用法の把握②	実習	全教員
	第20回	分子生物学実験 III 制限酵素処理と電気泳動	実習	全教員
	第21回	分子生物学実験 IV プラスミドDNA配列情報の解析①	実習	全教員
	第22回	分子生物学実験 V PCR反応の原理	実習	全教員
	第23回	分子生物学実験 VI プラスミドDNA配列情報の解析②	実習	全教員
	第24回	分子生物学実験 VII プラスミドをテンプレートにしたPCR反応	実習	全教員
	第25回	分子生物学実験 VIII PCR反応産物の解析①	実習	全教員
	第26回	分子生物学実験 IX シーケンス反応の原理と情報解析	実習	全教員
	第27回	分子生物学実験 X ゲノム情報処理	実習	全教員
	第28回	分子生物学実験 XI ゲノムDNAをテンプレートにしたPCR反応	実習	全教員
	第29回	分子生物学実験 XII PCR反応産物の解析②	実習	全教員
	第30回	分子生物学実験 XIII cDNA配列とゲノム配列の比較	実習	全教員
学生へのメッセージ等	状況により、授業の順番が前後する可能性がある。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	教養教育	4	必修
担当教員			
藤本 圭男, 川口 良			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	行列・線形空間・行列演算等，線形代数学に関する知識を習得し、数感を身につける。		
目標	ベクトル空間・行列演算・線形写像の概略を説明することができる。		
評価方法	定期試験、出席状況、受講態度の総合評価		
教科書・参考書	教科書 佐武一郎 著 「線形代数学」 共立出版 + プリント配布 参考書 「数学入門辞典」 岩波書店，2007		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 線型代数入門—線型代数の概略、一次関数・回転運動	講義	藤本
	第2回 行列入門・種々の行列演算，回転行列の紹介	講義	藤本
	第3回 数ベクトル空間，ベクトルの一次独立・一次従属性	講義	藤本
	第4回 同次連立一次方程式の解空間の構造定理	講義	藤本
	第5回 数ベクトル空間の部分空間，生成系	講義	藤本
	第6回 部分空間の基底，次元の紹介	講義	藤本
	第7回 次元がwell-definedであることの証明，次元・基底の幾何学的意味	講義	藤本
	第8回 抽象ベクトル空間入門	講義	藤本
	第9回 抽象ベクトル空間の基底・次元・基底変換の行列	講義	藤本
	第10回 線形写像の紹介，像空間・核空間・ランクの概略の紹介	講義	藤本
	第11回 線形写像の行列表示	講義	藤本
	第12回 行列の基本変形・ランクの紹介	講義	藤本
	第13回 ランクの正体の解明	講義	藤本
	第14回 次元公式の紹介・証明	講義	藤本

	第15回 次元公式の検証・線形同型写像の紹介	講義	藤本
学生へのメッセージ等	<p>受験数学の一步先には美しい数学ワールドが広がっている。考え抜いて数覚を高めることが大事。</p> <p>※前期 数学 I (藤本) を履修したものは、後期 数学 I (川口) を履修する。 数学 I (川口) は次ページに記載しています。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	教養教育	4	必修
担当教員			
川口 良, 藤本 圭男			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	微分や積分について $\epsilon - \delta$ 論法や極限を用いた厳密な定義を理解し、それらの応用を身につける。		
目標	連続性、定積分の概念を正確に理解する。テイラー展開や広義積分の計算ができるようになる。		
評価方法	定期試験、出席状況、受講態度の総合評価		
教科書・参考書	教科書 難波誠 著 「微分積分学」 裳華房 参考書 三宅敏恒 著 「入門微分積分」 培風館		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 $\epsilon - \delta$ 論法を使った連続性の定義	講義	川口
	第2回 関数の極限	講義	川口
	第3回 中間値の定理・平均値の定理	講義	川口
	第4回 高次導関数とテイラーの定理	講義	川口
	第5回 級数の収束・発散	講義	川口
	第6回 べき級数	講義	川口
	第7回 テイラー展開の収束半径	講義	川口
	第8回 区分求積法と定積分の定義	講義	川口
	第9回 微積分学の基本定理	講義	川口
	第10回 積分の計算法	講義	川口
	第11回 積分の応用	講義	川口
	第12回 広義積分	講義	川口
	第13回 広義積分の収束判定	講義	川口
	第14回 ガンマ関数・ベータ関数	講義	川口
	第15回 これまでのまとめと復習	講義	川口

<p>学生へのメッセージ等</p>	<p>高校までとは異なる厳密な議論の展開に初めは戸惑うかもしれませんが、慣れてきて使いこなせるようになれば、その合理性に納得できると思います。なお、学生の理解度や講義の進度によって内容が変更になる場合があります。具体的には、ニュートン近似や2変数の微積分などが加わる可能性があります。</p> <p>※前期 数学 I (川口) を履修したものは、後期 数学 I (藤本) を履修する。 数学 I (藤本) は前ページに記載しています。</p>
-------------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
藤本 圭男			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	阿弥陀くじの数理を題材として置換群に関する知識を習得し、代数学の初歩を身につける。		
目標	阿弥陀くじの原理や群・置換等、代数学の基礎概念の概略を説明できる。		
評価方法	定期試験、出席状況、受講態度の総合評価		
教科書・参考書	教科書 上野 健爾 著 「代数入門」岩波講座・現代数学への入門・岩波書店 プリント配布 参考書 「数学入門辞典」 岩波書店、2007		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 オイラーの数学I (ランダムに与えた2個の正整数が互いに素となる確率)	講義	藤本
	第2回 オイラーの数学II (三角関数 $\sin(z)$ の無限乗積展開)	講義	藤本
	第3回 集合と写像入門・集合の濃度	講義	藤本
	第4回 写像の例・全単射・置換	講義	藤本
	第5回 同値関係	講義	藤本
	第6回 カントールの対角線論法・代数的数・超越数	講義	藤本
	第7回 置換群入門	講義	藤本
	第8回 対称群の初歩・互換・巡回置換・置換の符号	講義	藤本
	第9回 差積・対称式・交代式・代数方程式の判別式	講義	藤本
	第10回 阿弥陀くじの原理、最簡阿弥陀くじの問題設定	講義	藤本
	第11回 転倒数、置換の長さ、 $q-2$ 項係数	講義	藤本
	第12回 最簡阿弥陀くじの作り方	講義	藤本
	第13回 群論入門、3次方程式の解法	講義	藤本
	第14回 群の例、左移動、右移動、部分群、正規部分群	講義	藤本
第15回	講義	藤本	

	部分群に関する剰余類、商群、群の位数、Malgrangeの定理	
学生へのメッセージ等	受験数学の一步先には美しい数学ワールドが広がっている。自分の頭で考え抜くことが大事！	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
川口 良			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	関数や方程式の係数、変数、解として複素数まで許容したときに、どのような世界が広がっているかを眺める。		
目標	初等複素関数の定義や性質を理解する。簡単な代数方程式の解集合（代数多様体）の形や分類を知る。		
評価方法	定期試験、出席状況、受講態度の総合評価		
教科書・参考書	教科書 森正武・杉原正顕 著 「複素関数論」 岩波書店 参考書 梶原健 著 「代数曲線入門」 日本評論社		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 複素数の基本	講義	川口
	第2回 複素平面	講義	川口
	第3回 複素数列とコーシーの収束定理	講義	川口
	第4回 オイラーの公式	講義	川口
	第5回 複素指数関数	講義	川口
	第6回 複素三角関数	講義	川口
	第7回 射影平面	講義	川口
	第8回 代数方程式の定める多様体	講義	川口
	第9回 リーマン球面、代数曲線と特異点の定義	講義	川口
	第10回 非特異1次代数曲線の形	講義	川口
	第11回 2次多項式の標準化と非特異2次代数曲線の形	講義	川口
	第12回 3次多項式の標準化（リーマンの標準形）	講義	川口
	第13回 非特異および特異3次代数曲線の形	講義	川口
	第14回 j不変量	講義	川口
	第15回 これまでのまとめと復習	講義	川口

学生へのメッセージ等	高校では複素数は数の一種としてしか扱われませんでした。数であるからには実数と同様にそれらを使って関数論や方程式論を展開することができます。やや高度ですが、数学に興味があつて真面目に取り組める人なら十分理解できる内容です。なお、学生の理解度や講義の進捗によって内容が変更になる場合もあります。具体的には、可換環論の初歩やガウス整数環などが加わる可能性があります。
------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	1	選択
担当教員			
藤本 圭男			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	実際に多くの問題を解く体験を積んで数学の理解を深めることがねらい。		
目標	問題を解いてみて数学事象の背後に潜む数学概念を体得する。		
評価方法	出席状況、発表回数、受講態度の総合評価		
教科書・参考書	教科書 プリント配布 参考書 「数学入門辞典」 岩波書店, 2007		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 高校数学の復習	演習	藤本
	第2回 行列の基礎	演習	藤本
	第3回 行列の基礎	演習	藤本
	第4回 行列の基礎	演習	藤本
	第5回 ベクトル空間	演習	藤本
	第6回 ベクトル空間	演習	藤本
	第7回 ベクトル空間	演習	藤本
	第8回 線形写像	演習	藤本
	第9回 線形写像	演習	藤本
	第10回 線形写像	演習	藤本
	第11回 線形写像	演習	藤本
	第12回 行列の基本変形・ランク	演習	藤本
	第13回 行列の基本変形・ランク	演習	藤本
	第14回 連立一次方程式の解法	演習	藤本
	第15回 連立一次方程式の解法	演習	藤本

学生へのメッセージ等	講義を聞くだけでは駄目、分かったつもりが全く分かっていない事も多々ある。自分の頭で考え抜いて数覚を高めることが大事。尚、選択科目であるが、講義の理解を深める為にも履修が望ましい。
------------	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	1	選択
担当教員			
川口 良			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	講義の内容に合わせた例題を解き、計算力・発想力・応用力を養う。また、自分の考えを発表する力も身につける。		
目標	連続性、定積分の概念を正確に理解する。テイラー展開や広義積分の計算ができるようになる。自分の考えを他の人に論理的に説明できるようになる。		
評価方法	発表回数、出席状況、受講態度の総合評価		
教科書・参考書	教科書 難波誠 著 「微分積分学」 裳華房 + 演習プリント 参考書 三宅敏恒 著 「入門微分積分」 培風館		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	$\epsilon - \delta$ 論法を使った極限の定義 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
第2回	関数の極限 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
第3回	中間値の定理・平均値の定理 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
第4回	高次導関数とテイラーの定理 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
第5回	級数の収束・発散 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
第6回	べき級数 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
第7回	テイラー展開の収束半径 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
第8回	区分求積法と定積分の定義 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
第9回	微積分学の基本定理 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
第10回	積分の計算法 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
第11回	積分の応用 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
第12回	広義積分 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
第13回	広義積分の収束判定 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
第14回	ガンマ関数・ベータ関数 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
第15回		演習	川口

	<p>これまでのまとめと復習 (演習問題を通じた学習)</p>		
<p>学生へのメッセージ等</p>	<p>講義で習った定義や定理を実際にどのように使うのか。講義中にも具体例は示しますが、演習では各自で問題を解いて発表してもらいます。ある程度は発表の回数を増やすことも大切ですが、それよりも試験にも向けた自習の時間と思って、自分で問題が解けるように訓練することに大きな意味があります。解答の途中で投げ出さず、一つ一つの問題にじっくり取り組んでください。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	必修
担当教員			
周藤 俊治			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	生物統計学は、保健医療分野における課題を統計的手法により明らかにし解決に資する学問である。ここでは、統計学の基礎から本分野においてどのような統計的手法が用いられてきたのか理解し、データの収集・解析・結果の解釈に必要とされる基礎知識を修得する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) データの性質に関して説明できる 2) 基本的な統計指標を算出できる 3) 統計的推定を理解し実施できる 4) 統計的検定を理解し実施できる 5) データを取り扱う上での注意点を説明できる 		
評価方法	定期試験、授業時間内の課題などによる総合評価		
教科書・参考書	教科書 市原清志, 佐藤正一 著 「カラーイメージで学ぶ新版統計学の基礎 第2版」 日本教育研究センター, 2016 参考書 授業中に紹介する		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 オリエンテーション (授業概要, 記述統計と推測統計, 統計データの利活用)	講義	周藤
	第2回 尺度・度数分布	講義	周藤
	第3回 代表値・散布度	講義	周藤
	第4回 平均値の推定	講義	周藤
	第5回 検定の原理	講義	周藤
	第6回 パラメトリック検定	講義	周藤
	第7回 ノンパラメトリック検定	講義	周藤
	第8回 計数値データの検定	講義	周藤
	第9回 独立多群間の比較	講義	周藤
	第10回 相関係数・回帰直線	講義	周藤
	第11回 多変量解析	講義	周藤
	第12回 相対危険度	講義	周藤
	第13回 感度・特異度・ROC曲線	講義	周藤
第14回	講義	周藤	

	生存時間分析		
	第15回 まとめ (統計処理を行う上での注意点)	講義	周藤
学生へのメッセージ等	講義概要・補足資料・参考図書等の情報は、ウェブページ (http://www.medbb.net) に掲載します。統計は夢と希望と勇気をもたらしますが、願望を叶えてくれるアイテムではありません。受講者が統計に振り回されない医療人になることを願っています。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	1	選択
担当教員			
周藤 俊治			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	保健・医療・福祉の分野における意思決定に欠かせない情報について、 ①どのような情報があるのか ②どのような性質を有しているのか ③ICTの活用によりどのような変化が起こっているか ④情報の収集および分析手法 など広く医療に関する情報の収集や活用に関する講義を行う		
目標	①情報に関する計算ができる（情報量（A/D変換）、転送速度等） ②各種情報システムの概要や関連法規等について説明できる ③発生する情報の特徴について説明できる ④データのとりまとめおよび分析手法について説明できる		
評価方法	定期試験、授業時間内の課題などによる総合評価		
教科書・参考書	参考書 日本医療情報学会医療情報技師育成部会（編さん）「医療情報第6版 医療情報システム編」篠原出版新社, 2020 新谷 歩「みんなの医療統計 多変量解析編 10日間で基礎理論とEZRを完全マスター！」講談社, 2017		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 情報学 (1) 情報とは	講義	周藤
	2 情報学 (2) 情報量の計算について	講義	周藤
	3 情報学 (3) ネットワーク技術について	講義	周藤
	4 情報学 (4) 情報セキュリティ	講義	周藤
	5 保健医療情報システム (1) 医用画像について	講義	周藤
	6 保健医療情報システム (2) 電子カルテについて	講義	周藤
	7 保健医療情報システム (3) 施設内の情報システムについて	講義	周藤
	8 保健医療情報システム (4) 施設間の情報システムについて	講義	周藤
	9 データ収集 (1) 厚生労働統計 (医療)	講義	周藤
	10 データ収集 (2) 厚生労働統計 (医療保険)	講義	周藤
	11 統計分析 (1) 単変量解析	講義	周藤
	12 統計分析 (2) 多変量回帰モデル	講義	周藤
	13 統計分析 (3) ロジスティック回帰モデル	講義	周藤

	14	統計分析 (4) 生存率	講義	周藤
	15	データの利用に関する諸問題	講義	周藤
学生へのメッセージ等	<p>講義概要・補足資料・参考図書等の情報は、ウェブページ (http://www.medbb.net) に掲載します。 本分野は情報技術の進展とともに変化しています。ICTの活用により住民の方に安心を提供できる医療提供体制のありかたについて考える機会になればと思います。</p>			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	1	必修
担当教員			
石指 宏通			
添付ファイル			

教育スタッフ	石指 宏通、王 文超、陳 昱龍		
概要	運動・スポーツが健康の保持・増進に果たす役割を認識するとともに、スポーツという身体活動による爽快感、そこで生まれる仲間との協力・競争を通して好ましい人間関係を形成し、公正、協力、責任、参画など社会的に望ましい行動する能力を養う。		
目標	各種スポーツ（バレーボール、ソフトボール、テニス、卓球）を実践しながら、以下の項目について体得する。各種スポーツの基本的技術を習得する。 スポーツに対する関心や自ら主体的にスポーツする意欲を高めることができる。 スポーツのルールを守り、仲間と共同してプレーできるとともに「楽しさ」を引き出し、強める方法を考える。 既成のスポーツに固執することなく、能力差に応じてルール等を改変し、新しいスポーツを創造する。		
評価方法	出席状況、受講態度の総合評価		
教科書・参考書	教科書 ナシ（必要に応じて、プリント配布） 参考書 ナシ		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 オリエンテーション（種目選択） （バレーボール、ソフトボール、テニス、卓球）	実技	石指・王・陳
	第2回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム①	実技	石指・王・陳
	第3回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム②	実技	石指・王・陳
	第4回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム①	実技	石指・王・陳
	第5回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム②	実技	石指・王・陳
	第6回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
	第7回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
	第8回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
	第9回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム① （種目変更）	実技	石指・王・陳
	第10回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム②	実技	石指・王・陳
	第11回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム①	実技	石指・王・陳
	第12回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム②	実技	石指・王・陳
	第13回 リーグ戦	実技	石指・王・陳

	第14回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
	第15回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
学生へのメッセージ等	2種目（各7回）を選択し、ゲーム中心にスポーツを楽しむ。詳細については1回目（オリエンテーション）で説明する。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	1	必修
担当教員			
石指 宏通			
添付ファイル			

教育スタッフ	石指 宏通. 王 文超. 陳 昱龍		
概要	運動・スポーツが健康の保持・増進に果たす役割を認識するとともに、スポーツという身体活動による爽快感、そこで生まれる仲間との協力・競争を通して好ましい人間関係を形成し、公正、協力、責任、参画など社会的に望ましい行動する能力を養う。		
目標	各種スポーツ（バスケットボール、サッカー、テニス、卓球）を実践しながら、以下の項目について体得する。 各種スポーツの基本的技術を習得する。 スポーツに対する関心や自ら主体的にスポーツする意欲を高めることができる。 スポーツのルールを守り、仲間と共同してプレーできるとともに「楽しさ」を引き出し、強める方法を考える。 既成のスポーツに固執することなく、能力差に応じてルール等を改変し、新しいスポーツを創造する。		
評価方法	出席状況、受講態度の総合評価		
教科書・参考書	教科書 ナシ（必要に応じて、プリント配布） 参考書 ナシ		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 オリエンテーション（種目選択） （バスケットボール、サッカー、テニス、卓球）	実技	石指・王・陳
	第2回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム①	実技	石指・王・陳
	第3回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム②	実技	石指・王・陳
	第4回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム①	実技	石指・王・陳
	第5回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム②	実技	石指・王・陳
	第6回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
	第7回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
	第8回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
	第9回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム① （種目変更）	実技	石指・王・陳
	第10回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム②	実技	石指・王・陳
	第11回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム①	実技	石指・王・陳
	第12回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム②	実技	石指・王・陳
	第13回	実技	石指・王・陳

	リーグ戦		
	第14回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
	第15回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
学生へのメッセージ等	2種目（各7回）を選択し、ゲーム中心にスポーツを楽しむ。詳細については1回目（オリエンテーション）で説明する。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	選択
担当教員			
石指 宏通			
添付ファイル			

教育スタッフ	石指 宏通		
概要	健康づくりのための運動やスポーツ、競技力向上のためのトレーニングを行うために必要となる人体各部の構造および機能に関する解剖生理学的基礎知識を身につけるとともに、運動・スポーツ傷害の予防や対処方法を理解し、安全に運動・スポーツを実施できる能力を養う。		
目標	運動が健康に果たす役割について説明できる。 身体諸機能（骨格系、呼吸・循環系、消化器系、神経・内分泌系）の構造と働きが説明できる。 運動が身体諸機能に及ぼす影響について説明できる。 運動時に発生しうる事故について、その予防法と応急処置が説明できる。		
評価方法	定期試験、出席状況、受講態度の総合評価		
教科書・参考書	教科書 プリント配布 参考書 坂井建雄、河原克雅（総編集）「人体の正常構造と機能」 日本医事新報社		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 運動と健康	講義	石指
	第2回 エネルギー供給機構	講義	石指
	第3回 筋の構造と筋収縮	講義	石指
	第4回 骨格器の機能と構造① (上肢帯と上肢)	講義	石指
	第5回 骨格器の機能と構造② (下肢帯と下肢)	講義	石指
	第6回 骨格器の機能と構造③ (体幹)	講義	石指
	第7回 骨格器の障害① (上肢帯と上肢)	講義	石指
	第8回 骨格器の障害② (下肢帯と下肢)	講義	石指
	第9回 呼吸・循環器の機能と構造および疾患	講義	石指
	第10回 消化器の機能と構造および疾患	講義	石指
	第11回 神経・内分泌の機能と構造および疾患	講義	石指
	第12回 運動時の体温調節	講義	石指
	第13回 運動と栄養	講義	石指
	第14回 運動の有効性と危険性	講義	石指

	第15回 まとめ	講義	石指
学生へのメッセージ等	授業内容は順番が前後する可能性もあります。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	必修
担当教員			
Bolstad Francesco			
添付ファイル			

教育スタッフ	Bolstad Francesco, Mathieson, Blodgett, Elfandi, Ghashut, Murray, Hamilton		
概要	This course aims to: develop students' fluency and confidence across the 4 skills of reading, writing, speaking and listening. Introduce students to academic English vocabulary, style and register and challenge students to express themselves in English even if this means making mistakes.		
目標	By the end of this semester students will be able to: 1) Use the English grammar and vocabulary which they studied in high school in a fluent manner across the 4 skills. 2) Produce grammatically correct and meaningful sentence containing words from The Academic Word List (AWL). 3) Read, comprehend and debate a range of general academic and medical topics in English.		
評価方法	Participation: Students are expected to: 1) Complete their homework (including journals) and preparation BEFORE class. 2) Attend ALL classes. 3) Be attentive and participate in class. Up to 2 absences may be granted without penalty. HOWEVER, students should be aware that from the third absence a penalty of 5% will be deducted from the students' final grade for each class missed. Failure to complete homework, participate in class or lateness will be counted as an absence. Skills: To be allegeable for credit students will need to demonstrate attainment of acceptable standards (80% or higher) in speaking and listening fluency, writing fluency, reading fluency and academic vocabulary. Students who are unable to achieve these standards will NOT be eligible for credit regardless of their grade in the final exam. Final Exam: Students' final grade will be decided by an English written exam based on the topics, handouts, and videos covered in class. Students should be prepared to answer both questions regarding the content of the topics and to express and justify their own opinions on the topics. The MINIMUM requirement for credit in this exam will be 60%.		
教科書・参考書	<p>推奨する教科書</p> <p>1) Hancock, J. (2015) The Academic Word List in Use. IELTS edits. ISBN 978-0-9933668-1-9 2) "Dairy" Check with the bookshop for the prescribed version</p> <p>参考図書</p> <p>Murphy, R. (2010) Intermediate Grammar in Use. Cambridge University Press. ISBN-10: 4902290235 ISBN-13: 978-4902290233 マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	<p>Week1</p> <p>10:40-12:10 Wednesday the 8th of April</p> <p>Orientation</p> <p>AWL Group 1-10</p>	Lecture	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
	<p>10:40-12:10 Friday the 10th of April</p> <p>Vocabulary Levels Test and Self-Introductions</p> <p>AWL Group 1</p>	Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
	<p>Week 2</p> <p>8:30-12:10 Wednesday 15th of April</p> <p>TOEFL iTP</p> <p>If for any reason a student is unable to attend this exam they will need to arrange to take TOEFL iTP and have the grades sent to the university. Students who do not have a TOEFL iTP grade by the 22nd of July will NOT be eligible for credit!</p>	Exam	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
	<p>10:40-12:10 Friday the 17th of April</p> <p>Topic: Why Do Japanese Physicians Need English? English in the Modern World</p>	Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
<p>Week 3</p> <p>10:40-12:10 Wednesday the 22th and Friday the 24th of</p>	Lecture and	Bolstad Mathieson	

	<p>April</p> <p>Topic 1: Learning a Second Language: Knowledge vs Skills AWL Group 2</p>	Workshop	Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Weekend	<p>9:00–18:00 Saturday the 25th and Sunday the 26th of April</p> <p>English First Aid</p> <p>This will be a full weekend of first Aid training conducted entirely in English by experts in the field. By the end of this training it is expected that students will be able to respond as a bystander in English to emergency medical situations. Students will be assessed by observation and a final short exam. Students who pass this course will be awarded a 10% bonus on their final score for Academic English I: Academic English Fluency. Students will NOT be penalized for failing to attend this weekend.</p>	Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 4	<p>10:40–12:10 Wednesday the 29th (Showa no hi) of April and Friday the 1th of May</p> <p>Topic 2: Learning a Second language: Vocabulary and Fluency Strategies AWL Group 3</p>	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 5	<p>10:40–12:10 Friday the 8th of May</p> <p>Topic: Patch Adams</p>	Movie	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 6	<p>10:40–12:10 Wednesday the 12th and Friday the 15th of May</p> <p>Topic 3: A Day in the Life of a Medical Student AWL Group 4</p>	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 7	<p>10:40–12:10 Wednesday the 20th and Friday the 22th of May</p> <p>Topic 4: Sleep, Stress and the Brain AWL Group 5</p>	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 8	<p>10:40–12:10 Wednesday the 27th and Friday the 29th of May</p> <p>Topic 5: Neurogenesis AWL Groups 6</p>	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 9	<p>0:40–12:10 Wednesday the 3rd and Friday the 5th of June</p> <p>Topic 6: Neuroplasticity AWL Group 7</p>	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 10	<p>10:40–12:10 Wednesday the 10th and Friday the 12th of June</p> <p>Topic 7: Motivation and Creativity AWL Group 8</p>	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 11	<p>10:40–12:10 Wednesday the 17th and Friday the 19th of June</p> <p>Topic 8: Happiness Studies AWL Group 9</p>	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 12	<p>10:40–12:10 Wednesday the 1st and Friday the 3rd of July</p> <p>Topic 9: What Makes a Good Doctor? Empathy and The Art of Medicine AWL Group 10</p>	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray

	Week 13	10:40-12:10 Wednesday the 8th and Friday the 10th of July Topic 10: Rich Doctors, Poor Patients AWL Group 1-10	Lecture and Workshop	Hamilton Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
	Week 14	10:40-12:10 Wednesday the 15th and Friday the 17th of July Topic 11: Death and Dying AWL Groups 1-10	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
	Week 15	Wednesday the 22th of July Final Exam and AWL groups 1-10	Exam	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
		Date to be announced Re-Test and AWL groups 1-10		
学生へのメッセージ等	Due to the heavy workload in this course, it is crucial that students develop regular study habits and stay on top of the work from day one! It is also recommended that students use Murphy's "Intermediate Grammar in Use" for self-study to supplement the classes.			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	必修
担当教員			
Bolstad Francesco			
添付ファイル			

教育スタッフ	Bolstad Francesco, Mathieson, Blodgett, Elfandi, Ghashut, Murray, Hamilton		
概要	This course aims to: develop students' fluency and confidence across the 4 skills of reading, writing, speaking and listening in the domain of science through an introduction to Evidence-Based Medicine. Students will also be introduced to scientific English vocabulary, style and register and challenged to express themselves in English even if this means making mistakes.		
目標	By the end of this course students will be able to: 1) Use scientific English vocabulary and grammar in a fluent manner across the 4 skills for simple scientific topics. 2) Produce grammatically correct and meaningful sentences containing words from the Scientific Word List (SWL). 3) Comprehend, appraise and debate a range of topics concerning Evidence-Based Medicine in both written and spoken English.		
評価方法	Participation: Students are expected to: 1) Complete their homework (including journals) and preparation BEFORE class. 2) Attend ALL classes. 3) Be attentive and participate in class. Up to 2 unexplained absences may be granted without penalty. HOWEVER, students should be aware that from the third unexplained absence a penalty of 5% will be deducted from the student's final grade for each class missed. Failure to complete homework, participate in class or lateness will be counted as an unexplained absence. Skills: To be eligible for credit students will need to demonstrate attainment of acceptable standards (80% or higher) in speaking and listening fluency, writing fluency, reading fluency and scientific vocabulary. Students who are unable to achieve these standards will NOT be eligible for credit regardless of their grade in the final exam. Final Exam: Students' final grades will be decided by an English written exam based on the topics, handouts, videos and MOST IMPORTANTLY skills covered in class. Students should be prepared to answer questions regarding the content of the topics, apply the concepts taught throughout the course and express and justify their own opinions on these and other topics. Weight will be given to the ability to communicate concepts and ideas clearly regardless of technical English skill. The MINIMUM requirement for credit in this exam will be 60%.		
教科書・参考書	<p>推奨する教科書</p> <p>1) Murphy, R. (2010) Intermediate Grammar in Use. Cambridge University Press. ISBN-10: 4902290235 ISBN-13: 978-4902290233 マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)</p> <p>2) "Journal" continued from semester 1</p> <p>参考図書</p> <p>1) Hancock, J. (2015) The Academic Word List in Use. IELTS edits. ISBN 978-0-9933668-1-9</p> <p>2) Goldacre, B. (2013) Bad Pharma. London. Forth Estate ISBN 9780007363643</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
Week 1	10:40-12:10 Friday the 18th of September Orientation and Review of Semester One AWL test Groups 1-10 (Students need to pass this test to continue with the course!)	Lecture	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 2	10:40-12:10 Wednesday the 23rd and Friday the 25th of September Topic 1: What is Evidence-Based Medicine and Why is it so Important? SWL Group 1	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 3	10:40-12:10 Wednesday the 29th of September and Friday the 2nd of October Topic 2: The Scientific Method: What is it and How Does it Work? SWL Groups 1-2	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 4	10:40-12:10 Wednesday the 7th of October Topic 3: Academic Rules and The Case of STAP Cells	Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut

			Murray Hamilton
Week 5	10:40–12:10 Wednesday the 14th and Friday the 16th of October Topic 5: Cause and Effect and the Human Experience SWL Groups 1–3	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 6	10:40–12:10 Wednesday the 21st and Friday the 23rd of October Topic 6: Bad Science: How Science Fails SWL Groups 1–4	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 7	10:40–12:10 Wednesday the 28th of October and Friday the 30th of October Topic 7: Replication: The Gold Standard in Scientific Research SWL Groups 1–5	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 8	10:40–12:10 Wednesday the 4th and Friday the 6th of November Topic 7: Logic and Critical Thinking in Science SWL Groups 1–6	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 9	10:40–12:10 Wednesday the 11th and Friday the 13th of November Topic 8: Statistics: Their Use and Misuse SWL Groups 1–6 and AWL Groups 1–5	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 10	10:40–12:10 Wednesday the 18th and Friday the 20nd of November Topic 9: An Investigation of Homeopathy SWL Groups 1–6 and the AWL Groups 6–10	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 11	10:40–12:10 Wednesday the 25th and Friday the 27th of November Topic 10: The Vaccination Debate SWL Groups 1–6 and AWL Groups 1–10	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 12	10:40–12:10 Wednesday the 2th of and Friday 4th of December Topic 11: An Investigation of Antidepressants SWL Groups 1–6 and AWL Groups 1–10	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 13	10:40–12:10 Wednesday the 9th and Friday the 11th of December Topic 12: A Dance with the Devil: Industry-Funded Research SWL Groups 1–6 and the AWL Groups 1–10	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 14	10:40–12:10 Wednesday the 16th and Friday the 18th of December Topic 13: Publish or Perish: The Publication Bias SWL Groups 1–6 and the AWL Groups 1–10	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 15	10:40–12:10 Wednesday 23rd and Friday the 25th of December Topic 14: Bringing it All Together to Evaluate Research SWL Groups 1–6 and the AWL Groups 1–10	Lecture and Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
Week 16	10:40–12:10 Wednesday 6th and Friday the 8th of January	Workshop	Bolstad Mathieson Blodgett

	Final Exam Preparation SWL Groups 1-6 and the AWL Groups 1-10		Elfandi Ghashut Murray Hamilton
	Final Exam Wednesday the 20th of January	Exam	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
学生へのメッセージ等	Due to the heavy workload in this course, it is crucial that students develop regular study habits and stay on top of the work from day one! It is also recommended that students use Murphy's "Intermediate Grammar in Use" for self-study as grammatical patterns from the textbook will be included in the weekly vocabulary tests and the final exam.		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	必修
担当教員			
池邊 寧			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	医療行為は患者の身体や生命、患者や患者の家族の人生に深く関わる。それだけに医療行為に携わる者には、医学・看護学に関する専門的な知識や技術だけでなく、人間に対する深い認識や高い倫理的意識をもつことが求められる。 本講義では、現代医療が抱える諸問題を概観しながら、患者と医療者との望ましい関係について考えていく。		
目標	医療とは何か、またどうあるべきかを考え、医療者にとって必要な倫理的判断力を身につける。		
評価方法	講義時に課す小レポート、出席状況、定期試験をあわせて総合的に評価する。		
教科書・参考書	教科書： 使用しない。随時プリントを配布する。 参考書： 松島哲久／盛永審一郎／村松聡編『教養としての生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久編『医学生のための生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／長島隆編『看護学生のための医療倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久／小出泰士編『いまを生きるための倫理学』丸善出版 その他の参考書は講義中に随時紹介する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 倫理学と医療倫理学	講義	池邊
	第2回 人間の尊厳と医療	講義	池邊
	第3回 インフォームド・コンセント（1） — 一定義 —	講義	池邊
	第4回 インフォームド・コンセント（2） — 歴史的経緯 —	講義	池邊
	第5回 患者の権利	講義	池邊
	第6回 研究倫理	講義	池邊
	第7回 輸血拒否	講義	池邊
	第8回 守秘義務	講義	池邊
	第9回 生殖医療の倫理的諸問題（1） — 社会問題としての不妊 —	講義	池邊
	第10回 生殖医療の倫理的諸問題（2） — 人工授精と体外受精 —	講義	池邊
	第11回 生殖医療の倫理的諸問題（3） — 代理出産 —	講義	池邊
	第12回 出生前診断の倫理的問題	講義	池邊
	第13回 脳死と臓器移植（1）	講義	池邊

	—脳死—		
	第14回 脳死と臓器移植（2） —臓器移植—	講義	池邊
	第15回 人生の最終段階における医療・ケア	講義	池邊
学生へのメッセージ等	明確な問題意識を持って講義に取り組み、疑問点は積極的に質問してください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
池邊 寧			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	<p>生命科学や医療技術の発達に伴って、技術的に可能なことと倫理的に容認されることの間にはどのような折り合いをつけていけばよいのかが問われる場面が多々生じている。われわれは今日、従来の生命観や価値観を問い直すことを余儀なくされている。</p> <p>本講義では「医療に関わる倫理学Ⅰ」に引き続き、現代医療をめぐる倫理的諸問題を概観しながら、患者と医療者との望ましい関係について考えていく。</p>		
目標	医療現場で直面する諸問題について、明確な問題意識をもって倫理的に考えていく力を身につける。		
評価方法	講義時に課す小レポート、出席状況、定期試験をあわせて総合的に評価する。		
教科書・参考書	<p>教科書： 使用しない。随時プリントを配布する。</p> <p>参考書： 松島哲久／盛永審一郎／村松聡編『教養としての生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久編『医学生のための生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／長島隆編『看護学生のための医療倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久／小出泰士編『いまを生きるための倫理学』丸善出版 その他の参考書は講義中に随時紹介する。</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 生命倫理学と功利主義	講義	池邊
	第2回 医学研究の倫理（１） —歴史的経緯—	講義	池邊
	第3回 医学研究の倫理（２） —被験者保護—	講義	池邊
	第4回 動物実験の倫理	講義	池邊
	第5回 人工妊娠中絶とパーソン論（１） —パーソン論とは—	講義	池邊
	第6回 人工妊娠中絶とパーソン論（２） —パーソン論の展開—	講義	池邊
	第7回 重症新生児の治療の差し控えと中止	講義	池邊
	第8回 エンハンスメントの倫理的問題	講義	池邊
	第9回 医療におけるナラティブ（１） —E BMとNBM—	講義	池邊
	第10回 医療におけるナラティブ（２） —ナラティブ・メディスン—	講義	池邊
	第11回 痛みと人間（１） —痛み両義性—	講義	池邊
	第12回 痛みと人間（２） —痛みと医療—	講義	池邊
	第13回 死生観と医療倫理	講義	池邊

	第14回 緩和ケア	講義	池邊
	第15回 スピリチュアルケア	講義	池邊
学生へのメッセージ等	明確な問題意識をもって講義に取り組み、疑問点は積極的に質問してください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	選択
担当教員			
池邊 寧			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	<p>哲学的思索は、世界や人間の根本原理を追求する営みである。それゆえ、現実と遊離したところで行われる「机上の空論」という印象を抱く人がいるかもしれない。しかし、哲学が理念として描く事柄は、現実の日常生活から抽出した事柄である。哲学的思索の出発点は今ここに生きる「私」であり、「私を取り巻く現実」である。</p> <p>本講義では、以下に列挙した主題について、西洋の哲学思想を手がかりにしながら考えていくことにする。</p>		
目標	<p>自らの生き方や現代社会のあり方について、明確な問題意識をもって問うていく哲学的思考力を身につける。</p>		
評価方法	<p>出席状況、受講態度、レポートで評価する。</p>		
教科書・参考書	<p>教科書： 使用しない。随時プリントを配布する。</p> <p>参考書： 盛永審一郎／松島哲久／小出泰士編『いまを生きるための倫理学』丸善出版 その他の参考書は講義中に随時紹介する。</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 哲学とは何か	講義	池邊
	第2回 愛の諸相（1）	講義	池邊
	第3回 愛の諸相（2）	講義	池邊
	第4回 生の肯定（1）	講義	池邊
	第5回 生の肯定（2）	講義	池邊
	第6回 死生観の諸相	講義	池邊
	第7回 自己と他者	講義	池邊
	第8回 心と身体	講義	池邊
	第9回 自由意志	講義	池邊
	第10回 正義と平等	講義	池邊
	第11回 ケアする存在としての人間（1）	講義	池邊
	第12回 ケアする存在としての人間（2）	講義	池邊
	第13回 技術と人間	講義	池邊
	第14回	講義	池邊

	自然と人間		
	第15回 動物の権利	講義	池邊
学生へのメッセージ等	<p>哲学には絶対に正しいといえる答えはありません。大切なのは「自分で考えること」です。講義で取り上げる主題は受講者数、受講者の要望などに応じて、適宜、変更します。積極的に問題提起されることを望みます。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	1	必修
担当教員			
浅井 良純、水野 杏紀、富岡 三智			
添付ファイル			

教育スタッフ	
概要	<p>(浅井) 戦後、朝鮮半島では大韓民国（韓国）と朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）という二つの国家が対立し、民族が分断された状態にある。また近年、日韓両政府はいわゆる「徴用工」や「慰安婦」などの問題で関係が悪化している。さらに朝鮮半島問題を複雑にしているのは、それを取り巻く米国・中国・ロシア・日本などの利害が交差しているためである。本講座では朝鮮半島問題を理解するために、その地政学的構造に留意し、歴史とその認識における文化的相違性について考察する。</p> <p>(富岡) インドネシアは世界最大のイスラム人口を抱えながら、多様な民族・宗教・文化を擁し、「多様性の統一」を国是とする国である。日本と歴史的、政治的、経済的に関わりの深いインドネシアの文化を知ることを通して、多様な価値を認め合い共存を目指す社会について考える。</p> <p>(水野) 中国、台湾をはじめとする中華文化圏の人々の生活に密着した文化について理解する。</p>
目標	<p>(浅井) 朝鮮半島の諸問題について説明できるようになる。</p> <p>(富岡) ① 多様な宗教や慣習の存在を知る。 ② 多様性を生んだ地理的・歴史的背景について理解する。 ③ 多様性を維持するための努力やアイデンティティの表現について考える。</p> <p>(水野) 中華文化圏の歴史、地理、気候、民族、言語などの特性を学び、さらに暦法と習俗、飲食と養生、思想（諸子百家）、さらに芸術文化などの生活に密着した事柄について具体的に考察し、中華文化圏の特性を総合的に正しく理解し、それによって中華文化圏の人々との交流に資するとともに、国際的視野を身につける。</p>
評価方法	<p>(浅井) 出席、及び試験（最終講義（5回目）の後半で到達度確認のための試験）による総合評価</p> <p>(富岡) 平常評価（2割）、期末試験（8割）により評価する。</p> <p>(水野) 授業態度（出席等）、小レポート（リアクションペーパー等）、期末試験により総合的に評価する。</p>
教科書・参考書	<p>〈教科書〉 (浅井) 特になし、また必要な資料は講義時に配布する。</p> <p>(富岡) 特に使用しない。必要に応じてレジュメを配布する。</p> <p>(水野) 特に使用しない。最初にレジュメを配布する。</p> <p>〈参考書〉 (浅井) 授業中に紹介する。</p> <p>(富岡) 小池誠 『インドネシア 島々に織り込まれた歴史と文化（新アジア生活文化読本）』、三修社、1998年 村井吉敬 他（著、編集）『現代インドネシアを知るための60章』、明石書店、2013年 阿良田麻里子『世界の食文化6 インドネシア』、農山漁村文化協会、2008年 池端 雪浦（監修）『東南アジアを知る事典』、平凡社、2008年 日経ビジネス&TNC編『シゴトタビ 日経ビジネス インドネシア』、日経BP社、2014年</p> <p>(水野) 水野杏紀『易、風水、暦、養生、処世 東アジアの宇宙観』（講談社選書メチエ、講談社、2016年） 宮崎市定『中国史』上下（岩波文庫、岩波書店、2015年） 白川静『漢字の世界：中国文化の原点』（平凡社ライブラリー、平凡社、2003年） 森内清『中国の天文暦法』増補改訂（平凡社、1990年） 奈良行博『中国の吉祥文化と道教：祝祭から知る中国民衆の心』（明石書店、2011年） 辰巳洋『実用中医薬膳学』（東洋学術出版社、2008年） 張競『中華料理の文化史』（ちくま文庫、筑摩書房、2013年） 布目潮風『中国喫茶文化史』（岩波現代文庫学術、岩波書店、2001年） 林語堂著、鋤柄治郎訳『中国：文化と思想』（講談社学術文庫、講談社、1999年） 森三樹三郎『中国思想史』上下（レグルス文庫、第三文明社、1978年）</p>

王其鈞著、恩田重直訳『図説民居：イラストでみる中国の伝統民居』（科学出版社、2012年）
 樓慶西著；高村雅彦日本語版監修『中国歴史建築案内』（TOT出版、2008年）
 宇佐美文理『中国絵画入門』（岩波新書、岩波書店、2014年）

授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	朝鮮半島の地政学的構造と歴史（1）	講義	浅井
第2回	朝鮮半島の地政学的構造と歴史（2）	講義	浅井
第3回	日韓歴史問題の認識と相違（1）	講義	浅井
第4回	日韓歴史問題の認識と相違（2）	講義	浅井
第5回	日韓歴史問題の認識と相違（3）	講義	浅井
第6回	インドネシアの地理、歴史、言語、宗教	講義	富岡
第7回	インドネシアの冠婚葬祭と死生観	講義	富岡
第8回	インドネシアの衣食住	講義	富岡
第9回	インドネシアの政治と文化	講義	富岡
第10回	インドネシアと日本	講義	富岡
第11回	中華文化圏の特性（歴史、地理、気候、言語、民族、漢字など）	講義	水野
第12回	中華文化圏の暦法と歳時記（元旦、清明節、端午節、重陽節など）	講義	水野
第13回	中華文化圏の飲食と養生（四季の食養生、中国六大茶など）	講義	水野
第14回	中華文化圏の思想（諸子百家の孔子、孟子、老子、荘子など）	講義	水野
第15回	中華文化圏の芸術（書画、絵画、民居、庭園など）	講義	水野

学生へのメッセージ等	<p>（浅井） 授業中、私語等で注意を受けた場合、評価対象から外れる場合があるので注意されたい。</p> <p>（富岡） 現在はインドネシアに駐在する日本人の数も、日本で働くインドネシア人の数も増え、相互理解の必要性はますます高まっています。皆さんの職業人生において、異なる文化背景の人々とどのように接してゆくべきか、この講義を契機として考えてみてください。</p> <p>（水野） 古代四大文明に教えられる中国文明ですが、中国はこの数十年の間急速な経済的発展を遂げており、そのパワーは世界経済全体に影響を与えています。日本は中国と古くよりさまざまな交流があり、思想や文化、技術、芸術など多くのものが伝播し、これらはまた日本で独自の発展を遂げました。たとえば現在我々が日常的に用いている漢字や、端午の節句の年中行事などもそれにあたります。中華文化圏とは中国、香港、台湾などの文化エリアを示します。本講義では歴史的に深いつながりを持ち、文化的共通性のある近隣、中華文化圏の思想、文化などを多角的に学び、理解します。これにより、将来それぞれの立場において、中華文化圏の人々とさまざまな交流をはかり、グローバルに活躍できる人材になることを目指します。</p>		
------------	--	--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
勝井 伸子. 照井 日出喜. 折井 穂積			
添付ファイル			

教育スタッフ	<p>(勝井) 21世紀の現在の世界に大きな影響力を及ぼしているアメリカの文化的背景について考える機会を持ち、その文化的背景がグローバル化とともに世界に浸透しているということを改めて認識することで、世界の中で生きる視点を持つことを目的とする。</p> <p>(照井) ドイツ文化の歴史と現状を理解するためには、とりわけドイツ語圏における劇場という存在の特殊性を理解することが必要である。劇場は、もとより演劇と歌劇および演奏会が中心となる舞台芸術の場であり、したがって、講義では、ドイツの音楽の歴史や演劇について触れながら、ドイツの文化の特質について考えることにしたい。</p> <p>(折井) 世界遺産や文化財に指定されている建造物をたどりながら、それらの背景となった歴史や文化を考察する。扱われる建造物は、ガロ・ロマン時代の遺跡から始まり、ロマネスクやゴシックの聖堂、英仏百年戦争時代の古城、絶対王政期の宮殿、産業革命期の工場や社宅、戦前の駅舎、大戦時の軍事施設、ペレヤル・コルビュジエの作品など。また、授業の残り時間を利用して最近の流行歌を紹介し、それらを通してフランス語圏の現在を考える。扱われる内容は、パリとジャズ・マヌーシュ、ラップと性差別および家庭内暴力の問題、カナダのフランス語圏、アフリカにルーツを持つ歌手、喫煙や認知症を主題とする歌など。</p>		
概要	<p>(勝井) アメリカ文化を構成する要素のいくつかを取り上げて、その歴史的・文化的背景と、それがどのように表れているかについて知識を得ることを目標とする。</p> <p>(照井) ドイツの文化的風土の特質を、芸術文化の領域において理解する。</p> <p>(折井) 授業で扱われる建造物について、それらの背景を自分の言葉で説明できること。それぞれの時代の思想の特徴や、その変遷について、自分なりの意見を述べられること。</p>		
目標			
評価方法	<p>(勝井) 授業中ミニレポート・貢献度（50%）、および期末レポート（50%）で評価する。</p> <p>(照井) 各回の講義毎に、講義の内容に関する「感想カード」（小レポート）を提出していただき、書かれた内容を評価する（したがって、単なる「出席カード」ではない）。全5枚の「感想カード」が60点以上の場合に合格とする。</p> <p>(折井) 毎回の授業において、興味深く感じたこと、疑問に思ったこと、さらに調べてみたいことなどを書いて提出することが求められる。提出しない場合、欠席扱いになるので注意すること。この小レポートで成績評価するが、内容次第では追加レポートが課される場合もある。</p>		
教科書・参考書	<p>(勝井) 指定しない。</p> <p>(照井) 必要な場合には、講義のなかで配布する。</p> <p>(折井) なし</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 異文化理解としてのアメリカ文化とヒーロー	講義	勝井
	第2回 アメリカ文化の特質としてのフロンティア	講義	勝井
	第3回 イデオロギーとしてのアメリカの農民	講義	勝井
	第4回 アメリカの主流文化と移民	講義	勝井
	第5回 フロンティアの経験と暴力	講義	勝井

	第6回	ドイツ音楽史（1）ロマン派の音楽 ゲーテやフランス革命をめぐる歴史的状況と作曲家たち	講義	照井	
	第7回	ドイツ音楽史（2）古典派の音楽 モーツァルトとベートーヴェン	講義	照井	
	第8回	ドイツ音楽史（3）後期ロマン派の音楽 「世紀末ヴィーン」の文学・音楽・美術	講義	照井	
	第9回	ドイツ音楽史（4）歌劇の歴史 モーツァルトとヴァーグナー	講義	照井	
	第10回	ドイツ音楽史（5）バロック時代の音楽 J.S. バッハ	講義	照井	
	第11回	古代と中世	講義	折井	
	第12回	中世末期とルネサンス	講義	折井	
	第13回	ブルボン王朝時代	講義	折井	
	第14回	19世紀	講義	折井	
	第15回	20世紀	講義	折井	
	学生へのメッセージ等	<p>(勝井) 今まで特に意識していなかったことを前景化する＝意識化することで、世界の見え方が変わる！という経験を一緒に味わえればと思います。授業中の質問やコメントは貢献度として評価しますので、みなさんの積極的な参加を期待しています。</p> <p>(照井) 「ドイツ文化」というよりは、「ドイツ芸術」についての講義となります。したがって、領域は無限に広いのですが、限られた時間のなかでは、それほど多くの作品を取り上げることはできません。 音楽史では、バロックから現代までを対象としたいところなのですが、時間的制約から、時代順に作品を聴くのではなく、講義の重点に沿って、ドイツおよびドイツ語圏の作曲家たちの音楽を聴く、ということになると思います。日本では、歌劇については、そもそも公演自体がほとんどありませんが、せめてはDVDで、歌劇の舞台に接していただければと思います。 ドイツ語圏の劇場体制の現状について考えることは、日本のレヴェルとの比較を考えるということでもあります。数百年のスパンにおける芸術の創造と受容の展開が、じつは、この講義の主要テーマでもあります。 講義に登場するドイツ語圏の芸術作品に触れて、文化・芸術への関心を高め、さらにご自分で、さまざまな文学作品を読んだり、演劇を観たり、音楽を聴いたりしていただければと思っています。</p> <p>(折井) 時間的な制約のため、ここではテーマを一つに絞って時代順に見ていく形をとります。したがって、授業で扱われるのは文化史のひとつの断面に過ぎません。そこに留意し、これから自分で文化を考える際の参考にしてください。</p>			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	必修
担当教員			
池上 徹			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	本授業では、教育学における教授論と学習論の知見を生かし、自分なりに教育学と医学・看護学を実践的に結びつけ、医療従事者としてよりよく職能成長していくための基礎を身につける。		
目標	①患者教育・健康教育を行うための基礎となる教授論、学び続ける医療従事者になるための生涯学習の意義と課題がわかる。 ②発表やレポート課題を通して必要な情報を収集し、自分の考えをまとめて他人にわかるよう伝えることができる。		
評価方法	シヤトルペーパー、レポート、プレゼンテーション、試験で評価する。		
教科書・参考書	<p>教科書 『教育の理念と思想のフロンティア』伊藤良高・富江英俊編、晃洋書房、2017 また、必要に応じて授業中に資料を配付する。</p> <p>参考書 『子どもと教育と社会』腰越滋編、学文社、2016 『看護のための教育学 「知る」から「分かる」への教育』鈴木正幸編、メヂカルフレンド社、1993 『看護学生と看護職のための教育学概論』山崎裕二著、青山社、2012 『看護現場で使える 教育学の理論と技法』中井俊樹編著、メディカ出版、2014</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	2020年4月9日（木） オリエンテーション （医療従事職として教育実践論を学ぶ意義）	講義	池上
第2回	2020年4月16日（木） 子ども観の変遷 （『子どもの誕生』）	講義	池上
第3回	2020年4月30日（木） 教育をめぐる時代の変化 （モダン社会からポストモダン社会へ）	講義	池上
第4回	2020年5月7日（木） 現代における教育問題の例 （学校化社会・病院化社会という問題）	講義	池上
第5回	2020年5月7日（木） これからの学校教育の実践例 （茅ヶ崎市立浜之郷小学校の実践）	演習	池上
第6回	2020年5月14日（木） 家族と教育 （最初の社会化集団）	講義	池上
第7回	2020年5月14日（木） 生涯学習社会の先進事例 （「学びの社会」スウェーデン）	講義	池上
第8回	2020年5月21日（木） プレゼンテーションの準備1 （課題の設定 個人でレポート作成）	講義・演習	池上
第9回	2020年5月28日（木） プレゼンテーションの準備2 （発表内容の検討 各班ごとに班内でレポート発表）	講義・演習	池上
第10回	2020年6月4日（木） プレゼンテーションの準備3 （発表資料の作成 班で一つのパワーポイントファイルを作成）	講義・演習	池上
第11回	2020年6月11日（木） 教育と医療についてのプレゼンテーション1	演習	池上
第12回	2020年6月18日（木） 教育と医療についてのプレゼンテーション2	演習	池上
第13回	2020年6月25日（木）	演習	池上

	教育と医療についてのプレゼンテーション 3		
	第14回 2020年7月2日 (木) 教育と医療についてのプレゼンテーション 4	演習	池上
	第15回 2020年7月16日 (木) 21世紀における教育のありかた (授業中試験)	講義	池上
学生へのメッセージ等	後半はグループによる発表が中心となるため、主体的に取り組んでもらいたい。非常勤講師が担当する授業であるが、発表のために事前にファイルを提出するなど、授業時間以外の学びも重視すること。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	必修
担当教員			
板橋 孝幸			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	本授業では、教育学における教授論と学習論の知見を生かし、自分なりに教育学と医学・看護学を実践的に結びつけ、医療従事者としてよりよく職能成長していくための基礎を身につける。		
目標	①患者教育・健康教育を行うための基礎となる教授論、学び続ける医療従事者になるための生涯学習の意義と課題がわかる。②発表やレポート課題を通して必要な情報を収集し、自分の考えをまとめて他人にわかるよう伝えることができる。		
評価方法	シヤトルペーパー、レポート、プレゼンテーション、試験で評価する。		
教科書・参考書	教科書 テキストについては、特に指定しない。必要に応じて授業中に資料を配付する。 参考書 木村元編『教育学』医学書院、2015年		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 オリエンテーション	講義	板橋
	第2回 教育における理念と目的	講義	板橋
	第3回 教授論①：人に教えるということ	講義	板橋
	第4回 教授論②：教育における目標と評価	講義	板橋
	第5回 教授論③：よりよい患者教育を行うためには	演習	板橋
	第6回 学習論①：大学での学びと職業に就いてからの学びの違い	講義	板橋
	第7回 学習論②：生涯学習の意義と役割	講義	板橋
	第8回 学習論③：学び続ける医療従事者になるためには	演習	板橋
	第9回 教育の方法と技術①：課題の設定と解決の工夫（発表準備1回目含む）	講義・演習	板橋
	第10回 教育の方法と技術②：協同学習の要件と技法（発表準備2回目含む）	講義・演習	板橋
	第11回 教育の方法と技術③：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ グループによる発表 1回目	演習	板橋
	第12回 教育の方法と技術④：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ グループによる発表 2回目	演習	板橋
	第13回 教育の方法と技術⑤：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ	演習	板橋

	グループによる発表 3回目		
	第14回 教育の方法と技術⑥：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ グループによる発表 4回目	演習	板橋
	第15回 まとめ	講義・演習	板橋
学生へのメッセージ等	グループによる話し合いを行うので、主体的に授業に取り組むことを期待する。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
近池 操			
添付ファイル			

教育スタッフ	科学・理論・実践を統合して社会への適応と人格的成長について理解する。 不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深め、その援助について学習する。		
概要	対人援助職として、自分自身の精神的な健康の保持、人格陶冶を目指す。 心理的な問題のある人への理解と援助について実践的な知識を習得する。		
目標			
評価方法	出席状況 授業態度 試験		
教科書・参考書	授業中に配布します。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 臨床心理学とは 臨床心理学の歴史	講義	近池
	第2回 人の心の理解 認知機能 学習 神経心理	講義	近池
	第3回 人の心の理解 発達心理学 エリクソンとピアジェ	講義	近池
	第4回 人の心の理解 乳幼児心理学 愛着理論	講義	近池
	第5回 臨床心理アセスメント 心理検査法 質問紙	講義	近池
	第6回 臨床心理アセスメント 心理検査 投影法	講義	近池
	第7回 臨床心理学的援助 深層心理学・精神分析的な理解とアプローチ	講義	近池
	第8回 臨床心理学的援助 認知療法やその他の心理療法	講義	近池
	第9回 精神的な問題と身体的な症状について	講義	近池
	第10回 依存症について	講義	近池
	第11回 職場のメンタルヘルス	講義	近池
	第12回 発達障害について 1	講義	近池
	第13回 発達障害について 2	講義	近池
	第14回 精神病への理解	講義	近池
	第15回 臨床心理実践に求められるもの 連携・守秘義務・倫理・スー	講義	近池

	パービジョン・研究		
学生へのメッセージ等	心に興味関心を持って授業に積極的に参加することを望みます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
山本 典子			
添付ファイル			

教育スタッフ	科学・理論・実践を統合して社会への適応と人格的成長について理解する。 不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深め、その援助について学習する。		
概要	対人援助職として、自分自身の精神的な健康の保持、人格陶冶を目指す。 心理的な問題のある人への理解と援助について実践的な知識を習得する。		
目標			
評価方法	出席状況 受講態度 提出物 試験		
教科書・参考書	授業中に配布します。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 臨床心理学とは 臨床心理学の歴史と発展	講義	山本
	第2回 人の心の理解 認知機能・学習	講義	山本
	第3回 人の心の理解 発達・パーソナリティー	講義	山本
	第4回 人の心の理解 観察法・面接法	講義	山本
	第5回 人の心の理解 心理検査	講義	山本
	第6回 臨床心理学における症状・問題とは	講義	山本
	第7回 臨床心理学的援助 深層心理学・精神分析学的理解とアプローチ	講義	山本
	第8回 臨床心理学的援助 行動主義心理学・認知心理学的理解とアプローチ	講義	山本
	第9回 臨床心理学的援助 色々な心理療法	講義	山本
	第10回 心理療法の過程 枠組み・効果・危機介入	講義	山本
	第11回 心理療法の過程 実習をまじえて	講義	山本
	第12回 臨床心理学的な問題 発達のなかで	講義	山本
	第13回 臨床心理学的な問題 社会のなかで	講義	山本
	第14回 臨床心理学的な問題 医療のなかで	講義	山本
	第15回	講義	山本

	臨床心理実践に求められるもの		
学生へのメッセージ等	心に興味関心を持って授業に積極的に参加することを望みます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
宿谷 仁美			
添付ファイル			

教育スタッフ	科学・理論・実践を統合して社会への適応と人格的成長について理解する。不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深め、その援助について学習する。		
概要	対人援助職として、自分自身の精神的な健康の保持、人格陶冶を目指す。心理的な問題を抱えた人の理解と援助について実践的な知識を習得する。		
目標			
評価方法	出席状況 受講態度 提出物 試験		
教科書・参考書	特になし。資料を授業中に配布します。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 臨床心理学とは 臨床心理学の歴史	講義	宿谷
	第2回 人の心の理解 認知機能・学習	講義	宿谷
	第3回 人の心の理解 発達とパーソナリティ	講義	宿谷
	第4回 人の心の理解 アタッチメント	講義	宿谷
	第5回 臨床心理学的アセスメント 心理検査：質問紙法	講義	宿谷
	第6回 臨床心理学的アセスメント 心理検査：投影法	講義	宿谷
	第7回 臨床心理実践に求められるもの 心理的援助の枠組み、構造、倫理	講義	宿谷
	第8回 臨床心理学的援助 深層心理学、自我の機能	講義	宿谷
	第9回 臨床心理学的援助 精神分析的理解とアプローチ	講義	宿谷
	第10回 臨床心理学的援助 認知・行動療法、マインドフルネス	講義	宿谷
	第11回 臨床心理学におけるテーマ 精神的な問題と身体症状、職場のメンタルヘルス	講義	宿谷
	第12回 臨床心理学におけるテーマ 学校のメンタルヘルス、ひきこもり発達障害	講義	宿谷
	第13回 臨床心理学におけるテーマ 虐待、DV、離婚	講義	宿谷
	第14回 臨床心理学におけるテーマ 被災者支援、被害者・加害者支援	講義	宿谷
	第15回	講義	宿谷

	臨床心理学におけるテーマ 精神病、依存症		
学生へのメッセージ等	人の発達・成長・心のあり方に興味関心を持って、授業に積極的に参加することを望みます。		

講義科目名称： 社会福祉と医療法規

授業コード： I18131A I18131B

英文科目名称： Social Welfare and Medical Law

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	必修
担当教員			
谷 直之			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	別途通知します。		
目標	別途通知します。		
評価方法	別途通知します。		
教科書・参考書	別途通知します。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	別途通知します。		
学生へのメッセージ等	別途通知します。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	必修
担当教員			
竹村 和也			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	憲法を頂点とする法体系について、市民生活を送るために必要な基礎知識を習得すること。とりわけ民法及び医事法についての理解を身につけること。		
目標	わが国の法について、特に医療に関する紛争について基本的な理解を示すこと。		
評価方法	主に定期試験で評価します（80%以上）。授業への積極的な参加やレポート（提出を求めた場合）などを加味して総合的に評価することになりますが、試験以外の課題が20%を超えることはありません。		
教科書・参考書	<p>〈教科書〉 パワーポイントのスライドを印刷したものを配布します。</p> <p>〈参考書〉 手嶋豊『医事法入門(第4版)』有斐閣、2015 甲斐克則編『ブリッジブック 医事法』信山社、2008 久々湊晴夫・旗手俊彦編『はじめての医事法』(第2版)成文堂、2011 米村滋人『医事法講義』日本評論社、2016 甲斐克則・手嶋豊編『医事法判例百選(別冊ジュリスト)』(第2版)有斐閣、2014 甲斐克則『レクチャー生命倫理と法』法律文化社、2010 他に入手・購読が容易な一般的な法学に関する新書として、 青井未帆『憲法を守るのは誰か?』幻冬舎、2013 渋谷茂樹『憲法への招待(新版)』岩波書店、2014 青井未帆『憲法と政治』岩波書店、2016 後藤昭『わたしたちと裁判』岩波書店、2006 森炎『裁判所ってどんなところ?』筑摩書房、2016 木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』星海社、2012 今村核『冤罪と裁判』講談社、2012 鎌野邦樹『不動産の法律知識 第2版』日本経済新聞社、2017 池田真朗『民法はおもしろい』講談社、2013 二宮周平『家族と法』岩波書店、2007</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 イントロダクション：法律・憲法・立憲主義	講義	竹村
	第2回 捜査・裁判と法①（憲法31条と捜査のプロセス）	講義	竹村
	第3回 捜査・裁判と法②（憲法31条と裁判のプロセス）	講義	竹村
	第4回 身体的自由権（憲法31-40条）	講義	竹村
	第5回 民法と財産権①（物権）	講義	竹村
	第6回 民法と財産権②（債権と契約・医療契約）	講義	竹村
	第7回 民法と財産権③（債権と不法行為・医療過誤）	講義	竹村
	第8回 民法と家族法①（親族法）	講義	竹村
	第9回 民法と家族法②（相続法）	講義	竹村
	第10回 契約・不法行為と過失責任（医療水準）	講義	竹村

	第11回	契約・不法行為と過失責任（チーム医療と信頼の原則）	講義	竹村
	第12回	契約・不法行為と過失責任（自己決定権とインフォームド・コンセント）	講義	竹村
	第13回	契約・不法行為と過失責任（個人情報の保護と第三者への開示）	講義	竹村
	第14回	因果関係と過失責任	講義	竹村
	第15回	まとめ	講義	竹村
学生へのメッセージ等	社会の動きについて日常的な関心を持つことが必要です。具体的には新聞を通読することは、大学生として当然に行うべき事柄です。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	必修
担当教員			
吉川 左紀子／岡本 左和子（公衆衛生学）			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	<p>(吉川) 人の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を学ぶ。</p> <p>(岡本) 医療におけるコミュニケーションの基本メカニズムと理論を修得する</p>		
目標	<p>(吉川) 人の認知、感情、動機付けなどの心理的要因や、文化・社会的要因についての基礎知識を得るとともに、人の行動について、それらとの関係から理解し、概説できることを目標とする。</p> <p>(岡本) 1) 医療者の正しい情報が患者・家族に伝わらないまたは受容されないコミュニケーションの基本メカニズムと理論を理解する、2) 効果的なコミュニケーションを取る環境評価、3) 医師－患者関係や医療者間、医療組織内のコミュニケーションとそれが原因の意思疎通の障害や苦情の解決策を理解する。進め方：講義と適宜ワークやディスカッションを取り入れる。</p>		
評価方法	<p>(吉川) 出席およびレポートにより評価する</p> <p>(岡本) 出席と講義への参加態度、講義時間内の簡単なテスト</p>		
教科書・参考書	<p>〈教科書〉 (吉川) 特に指定しない</p> <p>(岡本) なし</p> <p>〈参考書〉 (吉川) 授業中に指示する</p> <p>(岡本) Patient-Centered Medicine. M. Stewart, J. B. Brown, et al. CRC Press シェアード・ディンジョンメイキング（中山健夫著、日本医事新報社） 行動医学テキスト（日本行動医学学会編集、中外医学社） 実践行動医学－実地医療のための基本的スキル（林野泰明監訳、メディカルサイエンス・インターナショナル出版） The Biopsychosocial Approach: Past, Present, Future. R. M. Frankel, T. E. Quill, & s. M. McDaniel, University Rochester Press.</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	イントロダクション：心理学の考え方と主な研究法について学ぶ	講義	吉川左紀子
第2回	行動に関わる脳内の基礎過程を学ぶ	講義	吉川左紀子
第3回	学習の基礎：条件付けや観察学習のしくみを理解する	講義	吉川左紀子
第4回	知覚と注意：知覚と注意の基本的特性を理解する	講義	吉川左紀子
第5回	記憶：ワーキングメモリおよび長期記憶の特性を理解する	講義	吉川左紀子
第6回	動機付けと感情：動機付けと感情の脳内過程および人の行動特性との関係について学ぶ	講義	吉川左紀子
第7回	ストレスの心理社会的要因：ストレスに影響する心理的要因、	講義	吉川左紀子

	環境要因を理解する		
	第8回 パーソナリティ：人の性格と行動特性との関係を理解する	講義	吉川左紀子
	第9回 社会的行動：人の行動に影響する社会的要因について理解する	講義	吉川左紀子
	第10回 文化の影響：人の行動に影響する文化的要因について理解する	講義	吉川左紀子
	第11回 医療コミュニケーションの定義と基本メカニズム	講義	岡本左和子 (講師)
	第12回 コミュニケーションを歪める要因(ノイズ)/コミュニケーションの障壁	講義	岡本左和子 (講師)
	第13回 Common Groundの構築	講義	岡本左和子 (講師)
	第14回 医療コミュニケーションの主要な理論の紹介と医療コミュニケーションへの応用・事例検討	講義	岡本左和子 (講師)
	第15回 医学データと患者の語り・思いをつなぐコミュニケーションを考える (外部講師の場合あり)	講義	岡本左和子 (講師)
学生へのメッセージ等	<p>(吉川) 人間の心と行動を理解することは、医療、とくに臨床医の仕事を行ううえで重要です。行動科学Iの授業を通じて、人間の心理と行動の基本的な特性を学んでください。</p> <p>(岡本) 治療という使命と時間の制約がある医療環境において、どのように患者・家族、同僚とコミュニケーションを効率的にとるのかを学び、身に着けることは、医師として現場に出た時に、自分を守り、診断の確かさと治療の効率を上げ、患者・家族の満足を引き出す。自分が置かれた環境評価をして、適切なコミュニケーションがとれるための理論とメカニズムの基本をしっかりと理解してほしい。行動医学的アプローチが接遇とは全く異なることを理解する。</p>		

講義科目名称： 医学研究入門

授業コード： I181340

英文科目名称： Exploring Medical Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	選択
担当教員			
森 英一郎			
添付ファイル			

教育スタッフ	森 英一郎（准教授）、菊池 壮太郎（助教）		
概要	医学研究の魅力を経験し理解することを目的とする。		
目標	(1) 医学研究に興味を持つ。 (2) 医学論文の文献検索が出来るようになる。 (3) 研究論文の形式を理解出来るようになる。		
評価方法	出席、レポート、試験。		
教科書・参考書	教科書 講義スライド、配布資料。 参考書 なし。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 オリエンテーション	講義	森、菊池
	第2回 医学研究入門講義（1）	講義	森、菊池
	第3回 医学研究入門講義（2）	講義	森、菊池
	第4回 医学研究入門講義（3）	講義	森、菊池
	第5回 医学研究入門講義（4）	講義	森、菊池
	第6回 医学研究入門講義（5）	講義	森、菊池
	第7回 医学研究入門講義（6）	講義	森、菊池
	第8回 医学研究入門講義（7）	講義	森、菊池
	第9回 医学研究入門講義（8）	講義	森、菊池
	第10回 医学研究入門講義（9）	講義	森、菊池
	第11回 医学研究入門講義（10）	講義	森、菊池
	第12回 医学研究入門講義（11）	講義	森、菊池
	第13回 医学研究入門講義（12）	講義	森、菊池
	第14回 医学研究入門講義（13）	講義	森、菊池
第15回	講義	森、菊池	

	まとめ		
学生へのメッセージ等	<p>学内外の研究者の先生方の経験談を聞きながら、実際の研究がどのようなものか、感じて下さい。</p> <p>注) 「医学研究入門」を修得していることが、2年次後期「リサーチ・クラークシップ」の海外派遣の要件である。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	教養教育	-	《必修（6年一貫）》
担当教員			
医学部長			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	生命の神秘、人体の不思議、医学研究の面白さ、病気のメカニズム、治療技術の革新の一端を、各分野の専門家によるオムニバス形式の講義で紹介することによって、医学科で学ぶことになる医学を俯瞰させる。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 卒業までに学ぶ医学の授業科目の概要を説明できるようになる。 自分が興味を持った生命の神秘・人体の不思議を、遺伝子レベルで説明できるようになる。 自分が興味を持った疾患の発症メカニズムを、医学的知識を基に、正確に、一般の人に分かりやすく説明できるようになる。 授業で紹介される基本的な医学用語（和英）を正確に記憶し、簡潔に説明できるようになる。 		
評価方法	<p>講義（医学・医療入門講義）と実習（臨床手技実習入門Ⅰ）両方の合格が必要。</p> <ol style="list-style-type: none"> 講義（医学・医療入門講義） <ol style="list-style-type: none"> 講義終了都度に配布するshuttle paperで形成的評価を行う。 前期終了時と後期終了時に実施する筆記試験（各100点満点）の合計点数が6割以上で合格とする。 実習（臨床手技実習入門Ⅰ） 臨床手技実習入門Ⅰを参照。 		
教科書・参考書	<p>教科書 学期単位で事前配布するオリジナルの講義資料集。フルカラー版は本学HPの教務システムから各自自由にダウンロードできる。</p> <p>参考書 全領域にわたるため、附属図書館の指定図書を涉猟して欲しい。</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	2020年4月13日（月） 奈良医大に入学したみなさんの将来は？－先輩医師の視点から－	講義	学長
第2回	2020年4月20日（月） 本学の医学教育紹介	講義	医学部長
第3回	2020年4月27日（月） 解剖学入門	講義	解剖学第二 和中 明生
第4回	2020年5月11日（月） 生理学入門	講義	生理学第一 齋藤 康彦
第5回	2020年5月18日（月） 生化学入門	講義	生化学 高澤 伸
第6回	2020年5月25日（月） 医学研究入門	講義	未来基礎医学 森 英一朗
第7回	2020年6月1日（月） 血栓止血学入門	講義	血栓止血先端医学 辰巳 公平
第8回	2020年6月8日（月） 世界と日本の感染症動向	講義	病原体・感染防御 医学 吉川 正英
第9回	2020年6月15日（月） 免疫学基礎	講義	免疫学 伊藤 利洋
第10回	2020年6月22日（月） 研究と創薬	講義	薬理学 中平 毅一
第11回	2020年6月29日（月） 病理学入門	講義	分子病理学 國安 弘基
第12回	2020年7月6日（月）	講義	法医学

	法医学入門		柏田 承吾
第13回	2020年7月6日 (月) 臨床手技実習入門 I (臨床手技実習入門 I 参照)	実習	医療安全推進室長
第14回	2020年7月13日 (月) 臨床手技実習入門 I (臨床手技実習入門 I 参照)	実習	医療安全推進室長
第15回	2020年7月20日 (月) 臨床手技実習入門 I 実技試験	実技試験	医療安全推進室長
第16回	2020年9月28日 (月)	講義	
第17回	2020年10月5日 (月)	講義	
第18回	2020年10月12日 (月)	講義	
第19回	2020年10月19日 (月)	講義	
第20回	2020年10月26日 (月)	講義	
第21回	2020年11月2日 (月)	講義	
第22回	2020年11月9日 (月)	講義	
第23回	2020年11月16日 (月)	講義	
第24回	2020年11月30日 (月)	講義	
第25回	2020年12月7日 (月)	講義	
第26回	2020年12月14日 (月)	講義	
第27回	2020年12月21日 (月)	講義	
第28回	2020年12月21日 (月) 臨床手技実習入門 I (臨床手技実習入門 I 参照)	実習	医療安全推進室長
第29回	2021年1月4日 (月) 臨床手技実習入門 I (臨床手技実習入門 I 参照)	実習	医療安全推進室長
第30回	2021年1月18日 (月) 臨床手技実習入門 I 実技試験	実技試験	医療安全推進室長
学生へのメッセージ等	講義を手がかりに、積極的な自学自習を通じて、医学への興味・関心・意欲をさらに高めるとともに、これから学ぶはずの医学に関する予備知識を獲得してほしい。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	教養教育	-	《必修（6年一貫）》
担当教員			
医学部長			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	スキルスラボの各種シミュレータを用いて、AED、縫合、血圧測定、清潔処置の臨床手技と関連する医学知識を身につける。		
目標	①患者安全に関する基本を学ぶ ②人体解剖学、生理学など関連する医学知識の理解を深める。 ③臨床医学に必要な様々な手技を知る。		
評価方法	①手技ごとの出席と実習態度 ②筆記試験（医学・医療入門講義の後期試験に含めて実施） ③7月20日（月）及び1月18日（月）に実施する実技試験 ①から③を総合的に評価する		
教科書・参考書	教科書 事前に配布するテキスト「医学生のための基本的臨床手技」を用いる。 参考書 なし		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 4～5名を1グループとし、グループごとに ①AED ②縫合 ③血圧測定 ④清潔処置 についての実習を行う。 （下記は1グループの予定であり、グループごとに順序が異なる。） 7月 6日（月） 16：20～17：50 実習1回目 7月13日（月） 16：20～17：50 実習2回目 7月20日（月） 16：20～17：50 前期実技試験 12月21日（月） 16：20～17：50 実習3回目 1月 4日（月） 16：20～17：50 実習4回目 1月18日（月） 16：20～17：50 後期実技試験		
	第2回 1. AED	実習	医療安全推進室長 辰巳 満俊
	第3回 2. 縫合	実習	形成外科 桑原 理充
	第4回 3. 血圧測定	実習	医療安全推進室長 辰巳 満俊
	第5回 4. 清潔処置	実習	消化器・総合外科学 野見 武男
学生へのメッセージ等	本手技実習の目的は、医学部の教養の時期に、臨床の現場で使う医療手技を学ぶことにより、将来医師としての自覚と目標を持ってもらうことです。 臨床の第一線で活躍しているエキスパートの医師や、研修医の先生から、直接臨床の手技を学ぶことにより、教養や基礎医学との関連性と重要性を、よりいっそう再確認できるものと考えます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期集中	教養教育	-	必修
担当教員			
看護教育部長／教養教育部長			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	<p>(知的生産技術) チーム医療を担う医療人として求められる「能動的な情報収集力」や「他者と協力して学び合う力」、「論理的思考力」や「批判的思考力（クリティカル・シンキング）」について、演習を通じて体験的にその重要性や必要性について気づき、自ら修得する態度の育成を目指す。 また、レポート・論文の作成方法やプレゼンテーションなどの技法についての修得を目指す。</p> <p>(コミュニケーション) 益々多様性が増す昨今、他者と協働関係を結ぶ中で必要なコミュニケーション力とは何かを考え、それらを身につけるための理論と実践方法を学ぶことが必要である。自分と他者の違いを理解するための「ソーシャルスタイル理論」や、人間関係を構築する上でのステップなどを学び、それぞれが今後のコミュニケーションレベルアップに必要な課題を自覚し、日常の中で恒常的にトレーニングできる状態を目指す。 また、附属病院の実習を行ううえでの基礎として、患者又は患者家族と関わる中で、重要となる基本的な姿勢、視点を身につける。</p> <p>(人権教育) 別途、周知する。</p>		
目標	<p>(知的生産技術) 授業を通じて、以下の2点を到達目標とする。 ①「批判的に思考するとはどういうことか」を他者に説明することができ、自ら実行することができる。 ②協同学習の考え方を理解し、他者と学び合う際に注意すべき点について、説明することができる。 ③情報リテラシーを理解し、情報を適切に収集及び活用することができる。</p> <p>(コミュニケーション) 1. コミュニケーションの仕組みについて説明できるようになる。 2. 自分と他者の違いを理解し、相手に合わせたコミュニケーションの取り方が実践できる。 3. 苦手なタイプを理解し、その対処法を自分なりに工夫し実践することができる。</p> <p>(人権教育) 別途、周知する。</p>		
評価方法	別途、周知する		
教科書・参考書	別途、周知する		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	知的生産技術〈1〉～〈5〉	演習・講義	ゲストスピーカー
第2回	コミュニケーション〈1〉～〈3〉	講義	ゲストスピーカー
第3回	コミュニケーション〈4〉～〈6〉	演習	ゲストスピーカー
第4回	コミュニケーション〈7〉～〈8〉	演習	附属病院看護部 附属病院医師
第5回	人権教育〈1〉～〈2〉	講義	ゲストスピーカー
学生へのメッセージ等	チーム医療を担う医療人として必要とされる思考力、コミュニケーション力を養います。医療人として重要な能力となりますので、積極的な授業参加態度を求めます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期集中	教養教育	2	必修
担当教員			
教養教育部長／看護教育部長			
添付ファイル			
教育スタッフ			
概要	奈良県の文化、歴史、自然などを通じて「奈良」についての理解を深めるとともに、県内の医療機関を訪問して県の医療状況を知り、奈良の医療に貢献する意思を涵養する。		
目標	(1) 奈良の地域や行政について学び、その特色を理解する。 (2) 県内医療施設の訪問等を通じて、奈良県の医療への関心を深めることができる。 (3) 奈良県の医療の現状と将来について議論し、課題を見つけることができる。		
評価方法	出席、レポート等で総合的に評価する。		
教科書・参考書	〈教科書〉 特になし 〈参考書〉 随時、紹介する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 奈良学の開始にあたって	講義	教養教育部長
	第2回 万葉の文学と奈良の文化	講義	ゲストスピーカー
	第3回 今井町の歴史－文化財と街並み	講義	ゲストスピーカー
	第4回 奈良の文化・歴史・自然学習	現地研修	－
	第5回 病院見学	現地研修	－
	第6回 本学の過去・現在・未来について	講義	学長
	第7回 奈良県の医療について	講義	ゲストスピーカー
	第8回 奈良県の地理・気候・自然災害について	講師	ゲストスピーカー
	第9回 病院見学報告会		
	第10回 奈良県の医療に関するシンポジウム		
学生へのメッセージ等	奈良県の文化や医療等に普段から興味を持ち、主体的に学習してください。		

講義科目名称： 早期医療体験実習

授業コード： I180140

英文科目名称： Early Exposure to Clinical Experience

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期集中	教養教育	-	必修
担当教員			
教養教育部長			
添付ファイル			

教育スタッフ	
概要	医療現場において患者および家族と身近に接し、患者側の気持ちを理解する。それとともに、医療に関わる様々な人々との交流を通して医師と共に働く職種およびその役割を理解し、医師に求められる態度・習慣の学習活動に役立てる。
目標	早期医療体験実習が修了した段階で到達することが望まれる状態 (1) 医療従事者として適切な身だしなみ及び言葉使いができる。 (2) ホスピタリティマインドを持って患者さんに接している。 (3) チーム医療における多職種の役割を理解している。 (4) 将来自分が医療に従事している姿をイメージできる。
評価方法	出席、レポート、配属先からの評価表により、総合的に評価する。
教科書・参考書	
授業計画	〈実施期間〉 2021年2月15日（月）～3月5日（金）※土日・祝日を除く 〈方 法〉 (1) 附属病院内の各部署に配属する。 (2) エスコート業務、看護助手業務、病棟薬剤部業務を体験する。 (3) 修了後、レポートを提出すること。
学生へのメッセージ等	配属及び詳細については別途周知する。

講義科目名称： コンソーシアム実習

授業コード： I180240

英文科目名称： Consortium Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1~6年	-	選択（研究医養成コースの学生は必修）
担当教員			
藤本 眞一			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	<p>1) 対象：医学科1～6年次 自由選択科目 開講される科目、日時などの詳細は別途周知する。</p> <p>2) 実習内容 夏季休業中に早稲田大学（東京）あるいは本学で開講される特別講義（月曜日～金曜日、合計30時間の集中講義、ワークショップ）を履修する。講義は、早稲田大学と本学の両方の教員が分担する。</p>		
目標	「医工学と医学」、「地域医療学概論」についての理解を深める。		
評価方法	出席点、レポートで総合的に評価する。		
教科書・参考書	<p>教科書 特になし。授業中に資料を配布します。</p> <p>参考書 特になし</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 コンソーシアム実習 1日目	講義	担当教員
	第2回 コンソーシアム実習 2日目	講義	担当教員
	第3回 コンソーシアム実習 3日目	講義	担当教員
	第4回 コンソーシアム実習 4日目	講義	担当教員
	第5回 コンソーシアム実習 5日目	講義	担当教員
学生へのメッセージ等	他大学の学生と触れ合う貴重な機会です。奮ってご参加ください。		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1～4年	-	必修（緊急医師確保枠の学生）
担当教員			
藤本 眞一			
添付ファイル			

教育スタッフ			
概要	<p>1)対象 医学科1～4年次の緊急医師確保入学試験枠学生全員とする。 申込み方法：受験者は教育開発センターまたは県費奨学生配置センターへ申込をする。 ※ 詳細は別途通知する。</p> <p>2)実習内容 (メンター実習) 休暇中の月曜日～金曜日までの5日間、1日6時間、合計30時間 奈良県立医科大学教育協力施設等の医療施設で実習を行う。 原則として、1施設につき、学生1名とする。 (研修会等) 教育開発センター、地域医療学講座、県費奨学生配置センターが緊急医師確保入学試験枠学生のために企画する会議、研修会等に参加する。</p>		
目標	<p>1)目標 緊急医師確保入学試験枠学生のための特別なプログラムで、6年一貫教育で実施する地域基盤型医療教育プログラムの一つである。 この実習を通じて、地域医療の現場を知り、将来、奈良県の地域医療の担い手となるための心構えを身につける。</p> <p>2)注意点 ①休暇中のメンター実習の他、教育開発センター、地域医療学講座、県費奨学生配置センターが緊急医師確保入学試験枠学生のために企画する会議、研修会等に参加することが進級の要件となる。 ②メンター実習に参加した学生は、必ず報告会には参加しなければならない。 ③・メンター実習は、5日（計30時間）/年 参加する。 ・教育開発センター、地域医療学講座・県費奨学生配置センターとの面談、会議あるいは研修会等へ毎年定められた回数参加していれば、最大1日分のメンター実習とみなす。このことにより、メンター実習5日（計30時間）/年を4日（計24時間）/年とすることが出来る。 ・毎年次の進級判定前には、実習への参加の態度を勘案し、この実習の修了の可否を決定するため、教育開発センターにおいて面談を実施する。 ・1年生は入学時面談に参加する。 ・平成28年度以降入学の学生は、1～4年次の間に、本学と早稲田大学とで実施する「コンソーシアム実習」で2年に1回実施する夏期講座「地域医療学概論」に参加することを履修要件とする。</p> <p>3)その他 県費奨学生配置センターの計画する会議、研修会の年間予定は該当者については別途通知する。</p>		
評価方法	面談の評価、実習レポート、指導医による評価、会議・研修会への出席等により総合的に評価する。		
教科書・参考書	特になし		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	メンター実習 1日目	実習	担当医
	メンター実習 2日目	実習	担当医
	メンター実習 3日目	実習	担当医
	メンター実習 4日目	実習	担当医
	メンター実習 5日目	実習	担当医
	面談（1年生対象）	実習	担当医
	面談 教育開発センター、地域医療学講座、県費奨学生配置センター	実習	担当医
		実習	担当医

	メンター実習報告会1（秋）		
	メンター実習報告会2（春）	実習	担当医
	面談（各学年 進級判定会議前） 教育開発センター	実習	担当医
	会議、研修等	実習	担当医
学生へのメッセージ等	実習の日程調整については、教育開発センターと県費奨学生配置センターが対応しています。		

地域基盤型医療教育コース

コース責任者：教育開発センター 教員

1. 授業の概要

2. 授業のねらい

奈良県立医科大学は、高度先進医療を担う専門医を養成するとともに奈良県の地域医療を担う人材を養成する責務を負っている。学生諸君は一般教育で教養を涵養し、基礎医学を学んでリサーチマインドを身に付け、そして医師としての自覚とともに1000を超える疾患の病態生理、診断、治療について学ぶことが求められている。

しかし、大学附属病院は3次医療機関として高度先進医療を行なうことが責務であるため、来院する患者は特殊なあるいは稀な疾患であることが多く、また、治療のための在院期間が非常に短いのが通例である。つまり、特殊な疾患に求められる高度で核心的な治療を短期間に集中して行っている。いわゆるCommon diseaseや特定の疾患の治療を時間軸全体（初診から治療完結まで）で学ぶこと、そして、患者医療を支える社会的資源（福祉、介護など）を学ぶためにはキャンパス内での学習では不十分である。この地域基盤型医療教育コースはキャンパス内では学ぶことが難しいこれらの学習課題を学ぶために企画されている。このカリキュラムを通じて学生諸君が、地域住民の健康管理および医療の実態を知るとともに、プライマリケアの在り方、全人的医療の重要性を学び、同時に住民との触れ合いを通じて人間性を涵養することを願っている。

3. 授業計画

1) 正規プログラム

医学・医療入門講座（1年次）、早期医療体験実習（1年次）は準備教育として学内で実施する。

地域医療実習1（3年次）および地域医療実習2（6年次）は地域診療所、地域基幹病院など学外施設を利用して行われる。

キャリアパス・メンター実習は卒後のキャリア形成支援の一環として学内で実施する。

2) 休暇中特別プログラム

緊急医師確保枠学生地域医療特別実習1（1～4年次）、緊急医師確保枠学生地域医療特別実習2（5～6年次）のうち、地域診療所等で実習する「メンター実習」は夏季・冬季・春季のいずれかの休暇中等に実施する緊急医師確保枠学生のためのプログラムである。

コンソーシアム実習は夏季休業中に早稲田大学と連携して隔年で「地域医療学概論」として本学で開講されるプログラムであり、緊急医師確保枠学生は1年次～6年次までの間に1回、その他の1年次～6年次までのすべての学生は選択科目として受講できる。

詳しい授業内容については、シラバス「緊急医師確保枠学生地域医療特別実習Ⅰ、Ⅱ」を参照してください。

4. 評価方法

各学年毎に活動状況を総合的に評価する。

5. 推奨する教科書

特になし

6. 参考図書

特になし

7. 学生へのメッセージ等

実習の詳細については、事前に説明会を開催して説明します。緊急医師確保枠学生地域医療特別実習1（1～4年次）、緊急医師確保枠学生地域医療特別実習2（5～6年次）の日程調整については教育開発センター実習コーディネーターが対応しています。

研究医養成コース

コース責任者：医学部長

コーディネーター：教育開発センター 教員

1. 授業の概要

1) 学部における実施の概要

研究医養成コースは、第2学年4月1日から開始される。

2) 大学院における実施の概要

研究医養成コース卒業後、奈良県立医科大学大学院医学研究科（博士課程、4年間）、関西医科大学大学院医学研究科（博士課程、4年間）または早稲田大学大学院（先進理工学研究科後期課程、3年間）のいずれかに進学し、博士の学位を取得する。奈良県立医科大学または関西医科大学では3年での取得を目指す。

2. 授業のねらい

基礎医学・社会医学の分野において、世界的に貢献する研究者となるための基礎を身に付ける。

3. 授業計画

1) 正規プログラム

本コースの学生は、一般学生が地域医療実習1（3年次）、キャリアパス・メンター実習および地域医療実習2（6年次）を履修する期間、研究医メンター実習を履修（必修）する。研究医メンター実習では、各自が将来専門にしたいと希望する基礎医学・社会医学系教室で指導を受ける。また、リサーチ・クラークシップ（2年次）の期間は、研究医メンター実習またはリサーチ・クラークシップのどちらかを選択し、履修（必修）する。

2) 休暇中特別プログラム

夏季・冬季・春季の休暇中にも、「研究医メンター実習」を必修履修する。

なお、研究医養成コースの学生は、毎年1回は、研究発表会を学内で開催し、医学部長、指導担当教員、教育開発センター教授から評価を受けることが義務付けられる。

コンソーシアム実習は夏季休暇中に早稲田大学と連携して開講されるプログラムであり、本コースの学生は隔年で早稲田大学で開講されるコンソーシアム実習「先端医療工学と生命科学」を在学期間中に必修履修する。

3) 早稲田大学 Academic writing program

本コースでは、在学中に英語のライティングの基礎を学び、英語の論文や文書に対応できるようにする。このコースも研究医養成コースの学生について必修とする。

ホームページ参照

http://www.w-int.jp/gogaku/course/a_writing.html

4. 評価方法

各学年毎に活動状況を総合的に評価する。

5. 推奨する教科書

特になし

6. 参考図書

特になし

7. 学生へのメッセージ等

メンター実習の日程調整については教育開発センター実習コーディネーターが対応しています。

公立大学法人奈良県立医科大学料金規程（抄）

第1条 公立大学法人奈良県立医科大学が徴収する料金の額等について定めるものとする。

第2条 授業料の額は、次のとおりとする。

(1) 学部 年額 535,800円

(2) 学年の中途において入学し、退学し、若しくは転学した者又は休学した者の授業料の額は、その者が当該学年中において現に在学した月数に応じて前項各号に規定する授業料の年額を月割計算した金額とする。

第3条 授業料は、次の期に分ち、理事長の指定する期日に納付しなければならない。

	第 1 期	第 2 期	第 3 期
学 部	223,250 円	178,600 円	133,950 円

在学中に授業料の改定が行われた場合には、改訂時から新授業料が適用されます。

授業料の納入方法

授業料の納入方法は、口座引落を推奨しています。

引落は年3回、4月・9月・1月の27日（その日が銀行の休業日の場合は翌日）になりますので、残高に注意をお願いします。引落口座の変更は、各引落日の1ヶ月前までに教育支援課へ申し出てください。

区 分	金 額	口座引落日（予定）
第 1 期	223,250 円	2020年4月27日（月）
第 2 期	178,600 円	2020年9月28日（月）
第 3 期	133,950 円	2021年1月27日（水）

注1) 振替日に引落ができなかった人は、振込依頼書を発行しますので、銀行窓口へ持参してすみやかに払い込んでください。この時の振込手数料は各自負担となります。

注2) 授業料滞納者には、保証人に対し督促状を送付し、悪質な場合は、退学を命ずることがあります。

注3) 入学後第1回目の引落及び納付期限日は、事務処理の都合上5月27日となります。

2020年度 教養教育課程 学事計画

4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1 水	1 金 健康診断	1 月	1 水	1 月	1 土	1 水	1 火 再試験期間	1 月	1 土	1 月	1 火	1 月	1 金 元旦	1 日	1 月	1 火	1 月	1 金	1 月	1 月	1 月	1 月	1 月
2 木	2 土	2 火	2 木	2 火	2 日	2 木	2 水	2 水	2 日	2 水	2 水	2 金	2 土	2 月	2 木	2 水	2 火	2 土	2 火	2 火	2 火	2 火	2 火
3 金	3 日 憲法記念日	3 水	3 金	3 水	3 日 前期試験	3 金	3 木	3 木	3 日 前期試験	3 木	3 木	3 土	3 土	3 火 文化の日	3 木	3 木	3 水	3 日	3 水	3 水	3 水	3 水	3 水
4 土	4 月 ひどりの日	4 木	4 土	4 木	4 火 前期試験(再試験) ※差替合同科目	4 土	4 金	4 金	4 火 前期試験(再試験) ※差替合同科目	4 金	4 日	4 日	4 日	4 水	4 金	4 水	4 木	4 月	4 木	4 木	4 木	4 木	4 木
5 日	5 火 こどもの日	5 金	5 日	5 金	5 水 前期試験(再試験) ※差替合同科目	5 日	5 土	5 土	5 水 前期試験(再試験) ※差替合同科目	5 土	5 土	5 月	5 月	5 木	5 土	5 土	5 火	5 火	5 金	5 金	5 金	5 金	5 金
6 月 入学式	6 水 国民の休日	6 土	6 月	6 土	6 木 夏期休暇	6 月	6 日	6 日	6 木 夏期休暇	6 日	6 日	6 火	6 火	6 金	6 日	6 日	6 水	6 水	6 土	6 土	6 土	6 土	6 土
7 火 新入生オリエンテーション ショー	7 木	7 日	7 火	7 日	7 金	7 火	7 土	7 土	7 水 次世代医療人育成論 (集中講義)	7 土	7 水	7 水	7 日	7 土	7 月	7 月	7 木	7 木	7 日	7 日	7 日	7 日	7 日
8 水 前期授業開始	8 金	8 月	8 水	8 月	8 土	8 水	8 火	8 火	8 木	8 木	8 火	8 木	8 土	8 日	8 火	8 火	8 火	8 金	8 金	8 月 後期試験(再試験)	8 月	8 月	8 月
9 木	9 土	9 火	9 木	9 火	9 日	9 木	9 水	9 水	9 土 共用試験087本試験 (4年生)	9 水	9 水	9 土	9 土	9 月	9 水	9 水	9 土	9 土	9 土	9 土	9 土	9 土	9 土
10 金	10 日	10 水	10 金	10 水	10 日 山の日	10 金	10 土	10 土	10 木 共用試験087本試験 (4年生)	10 木	10 木	10 土	10 土	10 火	10 木	10 木	10 日	10 日	10 水	10 水	10 水	10 水	10 水
11 土	11 月	11 木	11 土	11 木	11 火	11 土	11 金	11 金	11 日 成人の日	11 金	11 金	11 土	11 土	11 水	11 土	11 金	11 火	11 火	11 木 建国記念日	11 木	11 木	11 木	11 木
12 日	12 火	12 金	12 日	12 金	12 水	12 日	12 土	12 土	12 木	12 土	12 土	12 日	12 日	12 木	12 土	12 土	12 火	12 火	12 金 後期試験(再試験)	12 金	12 金	12 金	12 金
13 月	13 水	13 土	13 月	13 土	13 木	13 月	13 日	13 日	13 火	13 日	13 日	13 日	13 日	13 金	13 火	13 日	13 水	13 水	13 土	13 土	13 土	13 土	13 土
14 火	14 木	14 日	14 火	14 日	14 金	14 火	14 土	14 土	14 水	14 土	14 土	14 日	14 日	14 木	14 火	14 日	14 木	14 木	14 日	14 日	14 日	14 日	14 日
15 水	15 金 開学記念日	15 水	15 水	15 水	15 土	15 水	15 火	15 火	15 木	15 火	15 火	15 土	15 土	15 水	15 日	15 土	15 金	15 金	15 金	15 金	15 金	15 金	15 金
16 木	16 土	16 火	16 木	16 火	16 日	16 木	16 水	16 水	16 金	16 水	16 水	16 土	16 土	16 木	16 日	16 木	16 木	16 土	16 土	16 土	16 土	16 土	16 土
17 金	17 日	17 水	17 金	17 日	17 土	17 金	17 土	17 土	17 木 修学記念祭	17 土	17 土	17 日	17 日	17 火	17 土	17 木	17 火	17 火	17 金	17 金	17 金	17 金	17 金
18 土	18 月	18 木	18 土	18 木	18 火	18 土	18 日	18 日	18 水 後期授業開始	18 日	18 日	18 日	18 日	18 水	18 日	18 金	18 金	18 月 後期試験	18 木	18 木	18 木	18 木	18 木
19 日	19 火	19 金	19 日	19 金	19 水	19 日	19 土	19 土	19 木	19 土	19 土	19 日	19 日	19 木	19 土	19 土	19 火	19 火	19 金	19 金	19 金	19 金	19 金
20 月	20 水	20 土	20 月	20 土	20 水	20 日	20 土	20 土	20 木	20 火	20 火	20 土	20 土	20 水	20 日	20 水	20 水	20 土	20 土	20 土	20 土	20 土	20 土
21 火	21 木	21 日	21 火	21 日	21 金	21 火	21 土	21 土	21 木 敬老の日	21 水	21 水	21 土	21 土	21 木	21 土	21 月	21 木	21 木	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日
22 水	22 金	22 月	22 水	22 日	22 土	22 水	22 土	22 土	22 木 秋分の日	22 火	22 火	22 火	22 土	22 日	22 土	22 火	22 火	22 金	22 金	22 金	22 金	22 金	22 金
23 木	23 土	23 火	23 木	23 日	23 水	23 火	23 土	23 土	23 木 祝日前講座 (動物感懐の日)	23 水	23 水	23 金	23 土	23 日	23 木	23 水	23 土	23 土	23 火	23 火	23 火	23 火	23 火
24 金	24 日	24 水	24 金	24 日	24 土	24 水	24 土	24 土	24 木	24 土	24 土	24 日	24 日	24 木	24 火	24 木	24 日	24 日	24 水	24 水	24 水	24 水	24 水
25 土	25 月	25 木	25 土	25 木	25 火	25 土	25 土	25 土	25 金	25 土	25 土	25 日	25 日	25 水	25 土	25 金	25 月	25 月	25 木	25 木	25 木	25 木	25 木
26 日	26 火	26 金	26 日	26 金	26 水	26 日	26 土	26 土	26 木 共用試験085年再試験 (4年生)	26 水	26 水	26 土	26 土	26 木	26 土	26 土	26 火	26 火	26 金	26 金	26 金	26 金	26 金
27 月	27 水	27 土	27 月	27 土	27 水	27 日	27 土	27 土	27 木	27 火	27 土	27 土	27 日	27 金	27 土	27 日	27 水	27 水	27 土	27 土	27 土	27 土	27 土
28 火	28 木	28 日	28 火	28 日	28 金	28 火	28 土	28 土	28 木	28 土	28 土	28 日	28 日	28 水	28 土	28 木	28 木	28 木	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日
29 水	祝日前講座 (平和の日)	29 月	29 水	29 日	29 土	29 水	29 土	29 土	29 木	29 火	29 土	29 日	29 日	29 水	29 土	29 火	29 金	29 金	29 金	29 金	29 金	29 金	29 金
30 木	30 土	30 火	30 木	30 日	30 水	30 木	30 土	30 土	30 金	30 水	30 水	30 金	30 土	30 月	30 土	30 水	30 水	30 土	30 土	30 土	30 土	30 土	30 土
31 日	31 日	31 金	31 日	31 土	31 水	31 金	31 土	31 土	31 木	31 火	31 土	31 土	31 日	31 日	31 木	31 木	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日

2020年度 カリキュラム図

2019年度	2020年度				2021年度				卒業式									
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
基礎教育						基礎教育 医学・医療入門講座						基礎教育 医学・医療入門講座						
基礎医学 I						基礎医学 I VOP講座 臨床手技実習入門 II						基礎医学 I						
基礎医学 II						基礎医学 II 私のキャリアパス I 地域医療実習 I 臨床手技実習入門 III						基礎医学 II						
統合臨床講義	統合臨床講義 第1ブロック	統合臨床講義 第2ブロック	統合臨床講義 第3ブロック	統合臨床講義 第4ブロック	統合臨床講義 第5ブロック	統合臨床講義 第6ブロック	統合臨床講義 第7ブロック	統合臨床講義 第8ブロック	統合臨床講義 第9ブロック	統合臨床講義 第10ブロック	統合臨床講義 第11ブロック	統合臨床講義 第12ブロック	統合臨床講義 第13ブロック	統合臨床講義 第14ブロック	統合臨床講義 第15ブロック	統合臨床講義 第16ブロック	統合臨床講義 第17ブロック	統合臨床講義 第18ブロック
臨床実習 I	臨床実習 (2週間) ①	臨床実習 (2週間) ②	臨床実習 (2週間) ③	臨床実習 (2週間) ④	臨床実習 (2週間) ⑤	臨床実習 (2週間) ⑥	臨床実習 (2週間) ⑦	臨床実習 (2週間) ⑧	臨床実習 (2週間) ⑨	臨床実習 (2週間) ⑩	臨床実習 (2週間) ⑪	臨床実習 (2週間) ⑫	臨床実習 (2週間) ⑬	臨床実習 (2週間) ⑭	臨床実習 (2週間) ⑮	臨床実習 (2週間) ⑯	臨床実習 (2週間) ⑰	臨床実習 (2週間) ⑱
臨床実習 II	臨床実習 (4・8週) ①	臨床実習 (4・8週) ②	臨床実習 (4・8週) ③	臨床実習 (4・8週) ④	臨床実習 (4・8週) ⑤	臨床実習 (4・8週) ⑥	臨床実習 (4・8週) ⑦	臨床実習 (4・8週) ⑧	臨床実習 (4・8週) ⑨	臨床実習 (4・8週) ⑩	臨床実習 (4・8週) ⑪	臨床実習 (4・8週) ⑫	臨床実習 (4・8週) ⑬	臨床実習 (4・8週) ⑭	臨床実習 (4・8週) ⑮	臨床実習 (4・8週) ⑯	臨床実習 (4・8週) ⑰	臨床実習 (4・8週) ⑱
試験	基礎医学 I 試験期間	基礎医学 II 試験期間	基礎医学 I 試験期間	基礎医学 II 試験期間	基礎医学 I 試験期間	基礎医学 II 試験期間	基礎医学 I 試験期間	基礎医学 II 試験期間	基礎医学 I 試験期間	基礎医学 II 試験期間	基礎医学 I 試験期間	基礎医学 II 試験期間	基礎医学 I 試験期間	基礎医学 II 試験期間	基礎医学 I 試験期間	基礎医学 II 試験期間	基礎医学 I 試験期間	基礎医学 II 試験期間
夏休	夏季休暇	夏季休暇	夏季休暇	夏季休暇	夏季休暇	夏季休暇	夏季休暇	夏季休暇	夏季休暇	夏季休暇	夏季休暇	夏季休暇	夏季休暇	夏季休暇	夏季休暇	夏季休暇	夏季休暇	夏季休暇
冬休	冬季休暇	冬季休暇	冬季休暇	冬季休暇	冬季休暇	冬季休暇	冬季休暇	冬季休暇	冬季休暇	冬季休暇	冬季休暇	冬季休暇	冬季休暇	冬季休暇	冬季休暇	冬季休暇	冬季休暇	冬季休暇
卒業																		